平成20年度

スポーツ環境委員会 活動報告書

JOC SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION REPORT 2008

財団法人 日本オリンピック委員会　スポーツ環境専門委員会
JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE　SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION

平成20年度

スポーツ環境委員会
活動報告書

JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE

財団法人 日本オリンピック委員会　スポーツ環境専門委員会

スポーツと環境についての啓発活動

Japanese Olympic Committee

●北京オリンピック金メダリスト［記念植樹］

会場：北京オリンピックJOCジャパンハウス

水泳男子100m･200m平泳ぎ、北島康介選手

日付	メダリスト
8月11日	内柴 正人
8月13日	谷本 歩実
8月16日	石井 慧
8月17日	上野 雅恵、北島 康介
8月18日	伊調 馨、吉田 沙保里
8月22日	ソフトボール代表チーム

柔道男子66kg級、内柴正人選手

柔道女子63kg級、谷本歩実選手

柔道男子100kg超級、石井慧選手

柔道女子70kg級、上野雅恵選手

レスリング女子55kg級、吉田沙保里選手と
同女子63kg級、伊調馨選手（右）

女子ソフトボール代表チーム

●第29回オリンピック競技大会（2008 ／北京）日本代表選手団結団式・壮行会

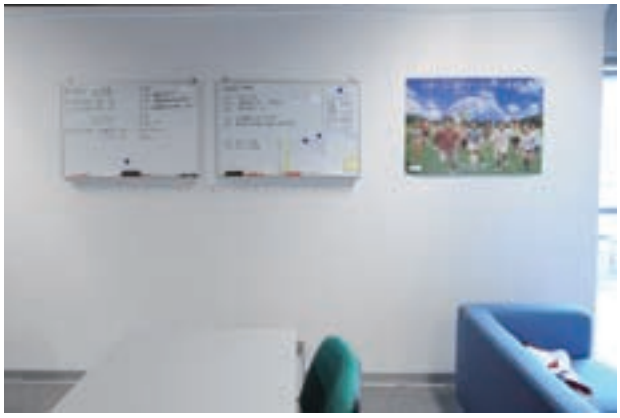
会期：平成20年7月28日（月）／会場：ザ・プリンス パークタワー東京

左から石原慎太郎東京都知事、福田富昭北京オリンピック日本代表選手団長、竹田恆和JOC会長

左から浜口京子選手、鴨下一郎環境大臣、吉田沙保里選手

●北京オリンピックJOCジャパンハウス

●北京オリンピックメインプレスセンター



●第6回オリンピックファミリーゴルフ
（中国・四川省大地震被災地支援チャリティ大会）

会期：2008年6月16日（月）／会場：程ヶ谷カントリークラブ／参加人数：132名

竹田恒和JOC会長と遅塚研一JOC副会長（右）

●オリンピックコンサート2008

会期：2008年6月23日（月）／会場：NHKホール／参加人数：3,200名

左から水野正人JOC副会長、竹田恒和JOC会長、板橋一太JOCスポーツ環境専門委員長

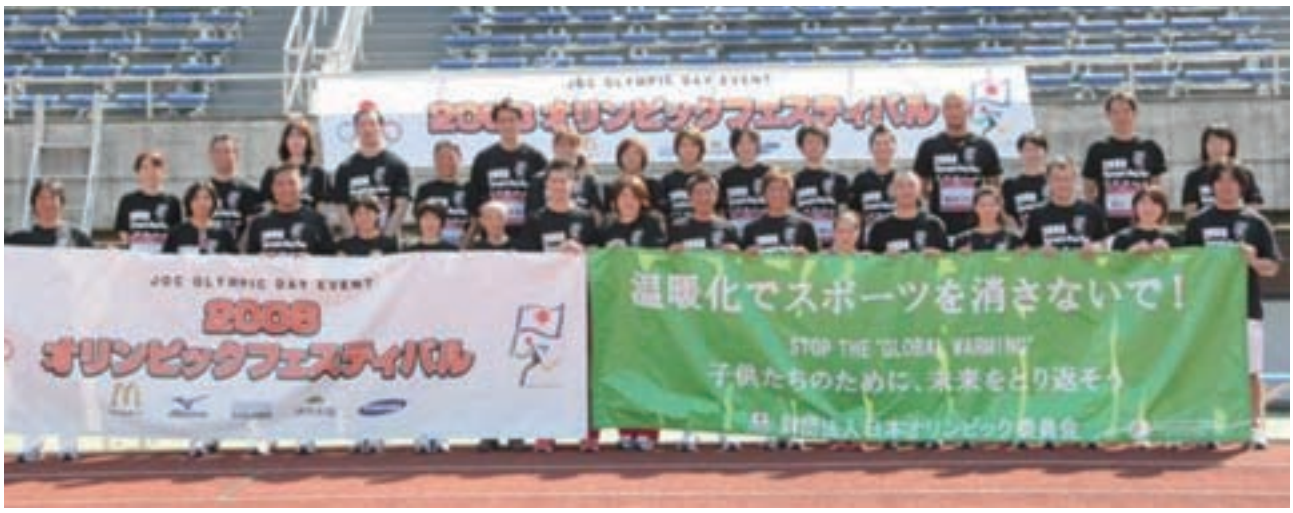
前列左から川西真紀選手、上村愛子選手、後列左から巻下陽子選手、池端花奈恵選手、夏見円選手、池田信太郎選手、坂本修一選手

●2008オリンピックフェスティバル

会期：2008年10月13日（祝）／会場：駒沢オリンピック公園総合運動場／参加人数：29,352名

参加オリンピアン、講師

中村真衣氏（手前中央）



●オリンピックデーラン2008

■青森大会／ 2008年6月29日(日)

■士別大会／ 2008年9月28日(日)

■神戸大会／ 2008年10月26日(日)

■長野大会／ 2008年11月2日(日)

■ひたちなか大会／ 2008年11月16日(日)

■さいたま大会／ 2008年12月7日(日)

■宇和島大会／ 2009年3月15日(日)

■鳥取大会／ 2009年3月22日(日)

★オリンピックデーラン 2008 開催一覧

大会名	開催日	参加人数
大阪大会	2008年5月18日(日)	4,342名
青森大会	2008年6月29日(日)	1,447名
士別大会	2008年9月28日(日)	1,191名
オリンピック フェスティバル(東京)	2008年10月13日(祝)	29,352名
神戸大会	2008年10月26日(日)	1,773名
長野大会	2008年11月2日(日)	1,988名
ひたちなか大会	2008年11月16日(日)	1,737名
さいたま大会	2008年12月7日(日)	1,292名
宇和島大会	2009年3月15日(日)	2,114名
鳥取大会	2009年3月22日(日)	905名

●第4回JOCスポーツと環境・地域セミナー

会期：2008年9月19日(金)／会場：広島国際会議場／参加人数：228名

徳本一善日清食品陸上競技部選手

板橋一太JOCスポーツ環境専門委員長

水野正人IOCスポーツと環境委員

山口香JOCスポーツ環境専門委員

細戸寿彦広島市環境局エネルギー・
温暖化対策部企画課課長補佐

浜﨑正信広島陸上競技協会常務理事

沖田勇三広島県ヨット連盟事務局長

工藤宏一サンフレッチェ広島地域貢献推進部
地域担当課長

●第5回スポーツと環境担当者会議

会期：2008年12月5日（金）／会場：ナショナルトレーニングセンター／参加人数：88名

水野正人IOCスポーツと環境委員

左から板橋一太JOCスポーツ環境専門委員長、染野憲治環境省地球環境局地球温暖化対策課国民生活対策室長、市原則之JOC総務委員長

染野憲治氏

保坂俊明東京オリンピック・パラリンピック招致本部招致推進部参事（運営計画担当）

岩崎恭子JOC環境アンバサダー

黒岩敏幸JOC環境アンバサダーと阿武教子JOC環境アンバサダー（右）

●“スポーツと環境”グリーンアクションフォーラム

会期：2008年10月12日(日)／会場：丸ビルホール／参加人数：204名

後列左から竹田恆和JOC会長、斉藤鉄夫環境大臣、北島康介選手、太田雄貴選手、谷本歩実選手

左から板橋一太JOCスポーツ環境専門委員長、水野正人JOC副会長、末吉竹二郎国連環境計画金融イニシアチブ特別顧問

竹田恆和JOC会長

斉藤鉄夫環境大臣

北島康介選手

山本浩NHK解説主幹

太田雄貴選手

谷本歩実選手

●第8回IOCスポーツと環境世界会議

会期：2009年3月29日(日)～31日(火)／会場：カナダ・バンクーバー／参加人数：413名

竹田恒和JOC会長とパル・シュミットIOCスポーツと環境委員長(右)

水野正人IOCスポーツと環境委員

●IOCスポーツと環境委員会

会期：2008年5月29日(木)／会場：IOC本部

パル・シュミットIOCスポーツと環境委員長

会期：2009年3月29日(日)／カナダ・バンクーバー

●第8回IOCスポーツと環境地域セミナー

会期：2008年11月28日(金)～29日(土)／会場：コロンビア・メデジン

(財)日本陸上競技連盟

Japan Association of Athletics Federations

●第92回日本陸上競技選手権大会

会期：2008年6月26日(木)～29日(日)／会場：川崎市等々力陸上競技場

左から河野洋平会長、早狩実紀選手、阿部孝夫川崎市長

左から為末大選手、鏑木茂哉川崎市議会議長、河野太郎神奈川陸上競技協会会長、河野洋平会長、阿部孝夫川崎市長、早狩実紀選手

●日清食品カップ第24回全国小学生陸上競技交流大会

会期：2008年8月29日(金)～30日(土)
会場：国立霞ヶ丘競技場

●セイコースーパー陸上競技大会2008川崎

会期：2008年9月23日(祝)
会場：川崎市等々力陸上競技場

●第63回国民体育大会

会期：2008年10月3日(金)～7日(火)
会場：大分スポーツ公園九州石油ドーム

左から釘宮磐大分市長、室伏広治選手、中曽根弘文副会長、塚原直貴選手、末續慎吾選手、小手川強二大分陸上競技協会会長

●2008日本ジュニア・ユース陸上競技選手権大会

会期：2008年10月17日(金)～19日(日)
会場：鳥取 コカ・コーラウエスト　スポーツパーク陸上競技場

左から横山隆義鳥取陸上競技協会副会長、中川俊隆鳥取市教育長、岡松眞明理事、平井伸治鳥取県知事

●第30回東京国際女子マラソン記念大会

会期：2008年11月16日(日)
会場：国立霞ヶ丘競技場スタート・ゴール

●第27回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会

会期：2009年1月11日(日)
会場：京都市 西京極総合運動公園陸上競技場スタート・ゴール

左から鈴木義元副会長、齊藤修(株)京都新聞社代表取締役社長、
桝岡義明京都陸上競技協会会長

●第64回びわ湖毎日マラソン

会期：2009年3月1日(日)
会場：滋賀県大津市 皇子山総合運動公園

左から澤木啓祐専務理事、観堂義憲(株)毎日新聞社副社長・大阪本社
代表、野村政夫滋賀陸上競技協会会長

●第14回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

会期：2009年1月18日(日)／会場：広島市 平和記念公園前スタート・ゴール

左から川本一之(株)中国新聞社代表取締役社長、鈴木義元副会長、
亀井郁夫広島陸上競技協会会長

(財)日本水泳連盟

Japan Swimming Federation

●第84回日本選手権水泳競技大会(北京オリンピック選考会)

会期:2008年4月15日(火)～20日(日)／会場:東京辰巳国際水泳場／参加人数:689名

左から安部喜方競技委員長、青木剛副会長、林利博会長、泉正文常務理事。
手にするのは、ゴミ分別用のシール

佐野和夫JOCスポーツ環境専門副委員長

ゴミ分別シールの利用例①

ゴミ分別シールの利用例②

大会スタッフ(ボランティア)の方々へ記念品として『マイ箸』を配布

●男子水球ワールドリーグ・アジアオセアニアラウンド

会期：2008年5月26日(月)～6月1日(日)／会場：東京体育館／参加人数：65名(5カ国)

啓発バナーの英語バージョンを作成。海外選手にもメッセージを

大会スタッフのポロシャツはエコ素材で

●オープンウォータースイミングジャパンオープン館山2008

会期：2008年7月20日(日)／会場：館山市北条海岸／参加人数：のべ835名

大会前に、毎年恒例となったビーチクリーニングを実施

順天堂大学の選手たち

●第64回国民体育大会水泳競技

会期：2008年9月11日(木)～15日(祝)／会場：別府市営青山プールほか／参加人数：1,058名

●第84回日本選手権水泳競技大会シンクロナイズドスイミング競技

会期：2008年5月2日(金)～5月5日(祝)／会場：東京辰巳国際水泳場／参加人数：260名

●平成20年度シンクロ競技者育成プログラム(一貫指導)

●第85回日本選手権水泳競技大会シンクロナイズドスイミング競技

会期：2009年5月2日(土)～5月5日(祝)／会場：東京辰巳国際水泳場／参加人数：255名

(財)日本サッカー協会

Japan Football Association

●国際親善試合 U-23日本代表対U-23カメルーン代表

会期：2008年6月12日(木)／会場：国立霞ヶ丘競技場

川淵三郎キャプテンと高円宮妃殿下(右)

左から川淵三郎キャプテン、カメルーン代表チーム役員の方々、岡野俊一郎名誉会長

川淵三郎キャプテンと田嶋幸三JOCスポーツ環境専門副委員長(右)

●2010FIFAワールドカップ南アフリカ アジア3次予選(対オマーン代表)

会期：2008年6月2日(月)／会場：神奈川 日産スタジアム

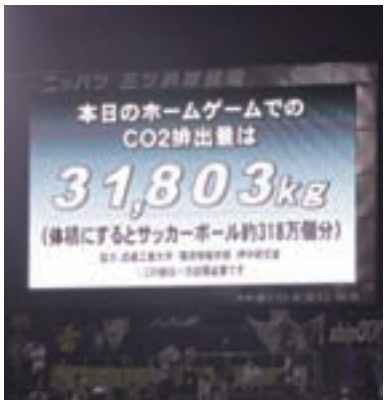
●国際親善試合 U-23日本代表対U-23オーストラリア代表

会期：2008年7月24日(木)／会場：ホームズスタジアム神戸

●Jリーグクラブのスポーツ環境活動

横浜FC

試合日に横浜駅からニッパツ三ツ沢球技場までサポーター、
選手と一緒にゴミ拾いをする奥寺康彦横浜FC会長



当日イベントで発生するCO2量を測定・発表
(2008年8月17日)

エコリーフレット
(市内で10、000人の子供に配布)

名古屋グランパス

カーボンオフセットチャレンジマッチ

EXPOエコマネーキャンペーン(2008年8月10日)

清水エスパルス

エスパルスエコチャレンジバナーパーソン

紙コップ回収カート基

エスパルスエコブック

(財)全日本スキー連盟

Ski Association of Japan

●クロスカントリー・Fabioナショナルチームコーチによる巡回ジュニア指導

会期：2008年4月19日(土)～5月11日(日)／会場：新潟県津南町

●2007／2008 Japan Ski Team感謝の夕べ

会期：2008年7月13日(日)／会場：東京プリンスホテル

左から三浦雄一郎氏、上村愛子選手、三浦豪太氏

オリンピックコンサート2008会場で夏見円選手と
上村愛子選手（右）

●Visa Presents SAJオリンピアンズ FUN FESTA 2009 in NOZAWA

会期：2009年3月22日(日)／会場：野沢温泉スキー場

(財)日本テニス協会

Japan Tennis Association

●トヨタジュニアテニストーナメント2008

会期：2008年4月9日(水)～ 12日(土)／会場：東山公園テニスセンター／参加人数：選手128名、観客100名

●第26回全国小学生テニス選手権大会

会期：2008年7月28日(月)～ 30日(水)／会場：第一生命保険相互会社 相娯園総合グラウンドテニスコート
参加人数：選手102名、観客120名

後列左から大野大会参与、倉光大会ディレクター、飯島大会参与、渡邊康二専務理事、村上大会参与と優勝・準優勝選手他

●ダンロップ 全日本ジュニアテニス選手権'08 supported by NISSHINBO

会期：2008年8月5日(火)～ 17日(日)／会場：靭テニスセンター／参加人数：選手960名、観客1,100名

大会優勝選手・準優勝選手・大会役員・スタッフ

●第35回全国中学生テニス選手権大会

会期：2008年8月19日(火)～24日(日)
会場：東山公園テニスセンター
参加人数：選手876名、観客200名

田中耕二常務理事(中央)と中学生スタッフ

●AIG OPEN 2008(AIG JAPAN OPEN TENNIS CHAMPIONSHIPS 2008)

会期：2008年9月27日(土)～10月5日(日)
会場：有明コロシアム／参加人数：選手○名、観客計75,846名

●第70回テイジン全日本ベテランテニス選手権08

会期：2008年10月8日(火)～17日(金)
会場：東山公園テニスセンター
参加人数：選手1,079名、観客100名

●ニッケ全日本テニス選手権83rd

会期：2008年11月5日(水)～16日(日)／会場：有明コロシアム
参加人数：選手256名、観客36,478名

男子ダブルス優勝　岩渕聡選手・松井俊英選手、渡邊康二専務理事、盛田正明会長
男子ダブルス準優勝　伊藤竜馬選手・權伍喜選手

女子ダブルス優勝　藤原里華選手・クルム伊達公子選手、渡邊康二専務理事、盛田正明会長
女子ダブルス準優勝　米村明子選手・米村知子選手

●イザワクリスマスオープン2008テニストーナメント

会期：2008年12月15日(月)～ 21日(日)／会場：神戸ポートアイランド(ワールド記念ホール)

男子シングルス優勝・三橋淳選手、男子シングルス準優勝・權伍喜選手、井澤武尚大会名誉会長(右)

●コーチャーズカンファレンス

会期：2009年3月14日(土)～ 15日(日)／会場：ナショナルトレーニングセンター／参加人数：466名

●DUNLOP ジャパンオープンジュニアテニス選手権大会2009

会期：2009年3月31日(日)～ 4月5日(土)／会場：東山公園テニスセンター／参加人数：選手240名、観客300名

松岡修造JOCスポーツ環境専門委員

(社)日本ボート協会

Japan Rowing Association

●荒川・川浚い運動

会期：2008年5月6日(火)／会場：荒川河川敷
参加人数：20名

舘次郎理事長も参加

当日の獲物を前に

ずっしりと重い流木にロープをかけて引き上げる

●第86回全日本選手権大会

会期：2008年9月18日(木)～21日(日)
会場：戸田ボートコース／参加人数：818名

ゴミの分別収集に協力する武田大作選手

会場内のゴミは厳しく分別

エコキャップ運動に参加

(社)日本ホッケー協会

Japan Hockey Association

●男子第57回・女子第30回全日本学生ホッケー選手権大会

会期：2008年10月30日(木)～ 11月3日(月)／会場：法政大学多摩グラウンドほか／参加人数：約800名

左から島田裕司関東学生ホッケー連盟委員長、早川憲雄関東学生ホッケー連盟理事長、内藤政武副会長(東京ホッケー協会会長)、浅野久雄大会トーナメントディレクター、杉原広大会トーナメントオフィサー、今浦友恵読売新聞プレゼンター

●高円宮牌2008男子日本リーグプレーオフ

会期：2008年11月29日(土)～ 11月30日(日)／会場：山梨学院ホッケースタジアム／参加人数：約100名

(財)日本バレーボール協会

Japan Volleyball Association

●第39回全国高等学校バレーボール選抜優勝大会

会期：2008年3月20日(祝)～26日(水)
会場：国立代々木競技場・第一体育館

●2008北京オリンピックバレーボール世界最終予選

会期：2008年5月17日(土)～25日(日)
会場：東京体育館

立木正夫会長夫妻

左から山岸紀郎執行役員専務、アンタオ国際バレーボール連盟スポーツイベントカウンシル委員、岩満一臣執行役員常務

左から松平康隆名誉会長令夫人、水野正人JOC副会長、松平康隆名誉会長、マルテ国際バレーボール連盟第一副会長

高橋みゆき選手

杉山祥子選手

●FIVBワールドリーグ2008

会期：2008年6月28(土)～29日(日)、7月5日(土)～6日(日)、7月19日(土)～20日(日)／会場：東京・有明コロシアムほか

●第61回全日本バレーボール高等学校選手権大会

会期：2008年8月3日(日)～10日(日)／会場：川越運動公園総合体育館ほか

●第28回全日本バレーボール小学生大会

会期：2008年8月12日(火)～15日(金)／会場：東京体育館ほか

NECレッドロケッツ・成田郁久美選手、元全日本・吉原知子氏と
各チーム代表選手

●第61回秩父宮杯・第55回秩父宮賜杯 全日本バレーボール大学男女選手権大会

会期：2008年12月1日(月)～7日(日)／会場：東京体育館ほか

●平成20年度天皇杯・皇后杯 全日本バレーボール選手権大会

会期：2008年12月20日(土)～23日(祝)／会場：川崎市とどろきアリーナ

●JOCジュニアオリンピックカップ

第22回全国都道府県対抗中学バレーボール大会
会期：2008年12月25日(木)～28日(日)
会場：大阪府立体育会館ほか

(財)日本体操協会

Japan Gymnastic Association

●平成20年度第2回評議員会

会期：2008年12月20日(土)／会場：日本青年館

●北信越国民体育大会

会期：2008年8月23日(土)／会場：上越市リージョンプラザ

北信越体操協会の中澤隆一理事長と立野弘会長(右)

●北信越ジュニア大会

会期：2008年9月20日(土)／会場：金沢市総合体育館

●東海ジュニア大会

会期：2008年8月11日(月)～ 12日(火)／会場：静岡市中央体育館

●四国小学生体操競技選手権大会

会期：2008年7月13日(日)／会場：愛媛県総合運動公園体育館

●第28回九州ブロック体操競技会　兼　平成20年度全九州体操競技選手権大会

会期：2008年8月22日(金)～ 24日(日)／会場：宮崎県体育館本館ほか

●第63回国民体育大会関東ブロック大会

会期：2008年8月22日(金)～ 24日(日)／会場：緑が丘スポーツ公園体育館

●第61回全日本新体操選手権大会

会期：2008年12月4日(木)～7日(日)／会場：千葉ポートアリーナ

●第17回全日本新体操クラブ選手権

会期：2008年8月29日(金)～31日(日)
会場：東京体育館
参加人数：6,949名

●第11回全日本新体操チャイルド選手権

会期：2009年2月27日(金)～3月1日(日)
会場：東京体育館
参加人数：11,423名

●第8回全日本新体操クラブ団体選手権

会期：2008年9月14日(日)／会場：東京体育館
参加人数：2,841名

◆北京オリンピックからの帰国

銀メダルを獲得した男子団体チーム（左から坂本功貴選手、鹿島丈博選手、冨田洋之選手、内村航平選手、沖口誠選手、中瀬卓也選手）

(財)日本バスケットボール協会

Japan Basketball Association

●第84回天皇杯・第75回皇后杯 全日本総合バスケットボール選手権大会

会期：2009年1月1日(祝)～5日(月)、10日(日)～12日(祝)／会場：国立代々木競技場第一体育館ほか
参加人数：選手・役員約1,500名、観客約35,000名

大会プログラムに環境広告を掲載

●JBLオールスター 2008-2009 in宇都宮

会期：2008年12月23日(祝)／会場：宇都宮市体育館／参加人数：選手・役員約120名、観客約3,400名

左から鈴木貴美一EASTヘッドコーチ、竹内公輔選手、川村卓也選手、
トーマス・ウィスマンWESTヘッドコーチ

●JBL PLAYOFFS 2008-2009

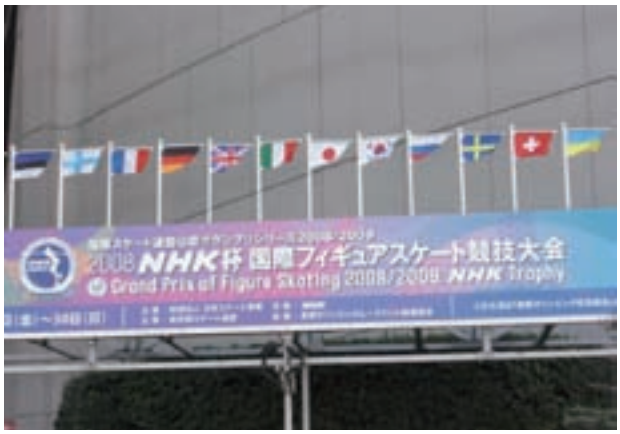
会期：2009年3月14日(土)～16日(月)、3月20日(祝)～26日(木)／会場：きたえーる(札幌)ほか
参加人数：選手、役員のべ1,500名、観客約18,000名

(財)日本スケート連盟

Japan Skating Federation

●NHK杯国際フィギュアスケート競技大会

会期：2008年11月27日(木)～30日(日)／会場：代々木第一体育館



左から平松純子JOCスポーツ環境専門委員、カタリーナ・ヴィット氏、伊藤みどり氏

●08/09Samsung ISU ワールドカップショートトラックスピードスケート競技会・長野大会

会期：2008年12月5日(金)～7日(日)／　会場：長野市若里多目的スポーツアリーナ(ビッグハット)
参加人数：選手154名、観客2,740名

●08/09Essent ISUワールドカップスピードスケート競技会・長野大会

会期：2008年12月13日(土)～14日(日)／会場：長野市オリンピック記念アリーナ(エムウェーブ)
参加人数：選手87名、観客2,828名

左から常山正雄専務理事、林泰章日本スケート連盟会長代行、大石雅寛理事

猪狩信吾スピード委員

●第77回全日本フィギュアスケート選手権大会

会期：2008年12月25日(木)～ 27日(土)／会場：長野ビッグハット

平松純子JOCスポーツ環境専門委員と小塚崇彦選手(右)

大会審判員たち

●第64回国民体育大会冬季大会スケート競技

会期：2009年1月28日(水)～ 2月1日(日)／会場：三沢アイスアリーナ

地元フィギュア大会競技役員

兵庫県選手団

●ISUワールドチームトロフィー

会期：2009年4月16日(木)～ 19日(日)／会場：代々木第一体育館

左から平松純子JOCスポーツ環境専門委員、林泰章会長代行、Phyllis Howard国際スケート連盟理事、Ottavio Cinquanta国際スケート連盟会長(IOC委員)

左から鈴木明子選手、小塚崇彦選手、Cathy Reed選手、Evan Lysacek選手、Patric Chan選手、Jeremy Abbott選手

(財)日本レスリング協会

Japan Wrestling Federation

●ジャパンビバレッジ杯／全日本女子レスリング選手権大会

会期：2008年4月5日(土)～6日(日)／会場：駒沢オリンピック公園総合運動場体育館／参加人数：143団体469名

左から福田富昭会長、松浪健四郎副会長、小野清子全日本女子連盟会長

●JOCジュニアオリンピックカップ／2008JOC全日本ジュニアレスリング選手権大会

会期：2008年4月22日(火)～23日(水)
会場：横浜文化体育館／参加人数：1,125名

●2008年度東日本学生レスリング・リーグ戦

会期：2008年5月8日(木)～11日(日)
会場：駒沢オリンピック公園総合運動場体育館ほか
参加：36大学

左から朝倉利夫国士舘大学監督、富山英明強化委員長、高田裕司専務理事、関貴史学連委員長

●平成20年度沼尻直杯 第34回全国中学生レスリング選手権大会

会期：2008年6月14日(土)～15日(日)
会場：茨城県立スポーツセンター／参加人数：259学校412名

左から沼尻久中学連盟会長、小橋主典理事、木口宣昭中学連盟副会長、池田進中学連連盟副会長、田山東湖茨城県協会会長、菅芳松少年少女連盟理事長

●明治乳業杯2008年度全日本選抜レスリング選手権大会

会期：2008年6月25日(水)～26日(木)
会場：国立代々木競技場第2体育館
参加人数：136名

左から馳浩理事、福田富昭会長、琴欧洲関、野中謙一明治乳業(株)常務取締役

●第25回全国少年少女レスリング選手権大会／北京オリンピック代表選手壮行会

会期：2008年7月25日(金)～ 27日(日)／会場：国立代々木競技場第1体育館／参加人数：177クラブ1,563名

左から池松和彦選手、松永友広選手、湯元健一選手、加藤賢三選手、笹本睦選手、松本慎吾選手

左から井調千春選手、吉田沙保里選手、井調馨選手、浜口京子選手

●平成20年度全国高等学校総合体育大会レスリング競技大会 三笠宮賜杯第55回全国高等学校レスリング選手権大会

会期：2008年8月1日(金)～4日(月)
会場：埼玉県・大東文化大学東松山校舎総合1体育館

齋藤修審判長と宮原厚次理事(右)

●第13回関東幼児レスリング大会

会期：2008年8月17日(日)／会場：鎌ヶ谷市民体育館
参加人数：18クラブ83名

●女子レスリング世界選手権2008

会期：2008年10月11日(土)～ 13日(祝)／会場：国立代々木競技場第1体育館／参加人数：41カ国・地域145名

北根康志事務局長

会場内に環境啓発掲示ボードを設置

●世界女子コーチクリニック

会期：2008年10月15日(水)～ 18日(土)
会場：ナショナルトレーニングセンター
参加人数：15カ国・地域88名

●天皇杯平成20年度全日本レスリング選手権大会

会期：2008年12月21日(日)～ 23日(祝)
会場：国立代々木競技場第2体育館
参加人数：282名

●カレリン・アレキサンドル・アレクサンドロヴィチ氏のレスリング指導

会期：2009年1月29日(木)
会場：ナショナルトレーニングセンター
参加人数：77名(ナショナルチーム、関東周辺大学生ほか)

●第22回少年少女レスリング選手権大会／東京新宿ライオンズクラブ旗争奪戦

会期：2009年2月11日(祝)
会場：東京都新宿区・スポーツ会館
参加者：32クラブ244名

ジュニアが書いた環境啓発のイラスト

(財)日本セーリング連盟

Japan Sailing Federation

●第21回みちのく銀行青函カップヨットレース

会期：2008年7月19日(土)～20日(日)
会場：外洋津軽海峡
参加人数：選手190名、スタッフ40名

●海の日記念　相模湾江ノ島・葉山ヨットラリー

会期：2008年7月21日(祝)
会場：江ノ島ほか

河野博文副会長(手前)

●小樽築港ベイエリアクリーンアップ

会期：2008年6月29日(日)
会場：北海道小樽市

●2008年度全国中学校ヨット選手権大会

会期：2008年7月25日(金)～27日(日)
会場：富山県新湊アリーナほか

●第1回ジュニアセーリング・シーマンシップアカデミー

会期：2009年4月12日(日)
会場：神奈川県葉山町

河野博文副会長(右)

「海の日」環境キャンペーン用ポスター

(社)日本ウエイトリフティング協会

Japan Weightlifting Association

●全国高等学校総合体育大会

会期：2008年8月6日(水)～9日(土)／会場：さいたま市記念総合体育館／参加人数：選手390名

櫻井勝利副会長も分別収集に協力

●日韓中ジュニアスポーツ交流大会

会期：2008年8月26日(火)～27(水)／会場：千葉県立松戸国際高校／参加人数：選手45名

日本選手団と飯野洋一全国高体連ウエイトリフティング専門部長(右端)

●日韓中フレンドシップ大会

会期：2008年11月1日(土)～2日(日)／会場：新潟県・ニューグリーンピア津南／参加人数：選手43名

中国の周志琴審判員と陳孝銘審判員(右)

日本選手団と小宮山哲雄(前列中央左)・長谷場久美(中央右)北京オリンピックの男女代表監督

●第45回全日本社会人選手権大会・トキめき国体記念杯女子競技大会

会期：2008年11月22日(土)～24日(祝)／会場：新潟県県央地場産業振興センター／参加人数：選手195名

北京オリンピック大会56kg級代表堰川康信選手

トキめき国体マスコットとっぴー・きっぴー

●第54回全日本大学対抗選手権大会・第9回全日本大学対抗女子選手権大会

会期：2008年11月30日(日)～12月1日(月)／会場：横浜市磯子スポーツセンター
参加人数：選手115名

総合優勝し文部科学大臣杯を獲得した九州国際大学のメンバー

●JOCジュニアオリンピックカップ第29回全日本ジュニア選手権大会

会期：2009年3月7日(土)～8日／会場：茨城県・石岡運動公園体育館／参加人数：選手103名

JOCジュニアオリンピックカップ大会支援事業でオリンピアンからのメッセージを伝える中西悠子選手
(アテネオリンピック水泳バタフライ200m銅メダリスト)

(財)日本ハンドボール協会

Japan Handball Association

●第33回日本ハンドボールリーグANA CUPプレーオフ

会期：2008年3月14日(土)～ 15日(日)／会場：駒沢体育館／参加人数：5,000名

左から市原則之副会長、多田博副会長、内柴正人北京オリンピック柔道男子66キロ級金メダリスト、竹田恆和JOC会長

●2008JAPAN CUP熊本大会ー日本VSブラジルハンドボール親善試合

会期：2008年7月22日(火)～ 23日(水)／会場：熊本県・山鹿市総合体育館／参加人数：2,000名

第63回国民体育大会ハンドボール競技

会期：2008年10月3日(金)～7日(火)／会場：大分県立総合体育館他／参加人数：8,000名

●高松宮記念杯男子第51回・女子第44回全日本学生ハンドボール選手権大会

会期：2008年11月20日(木)～24日(祝)／会場：山口県・周南市総合スポーツセンター／参加人数：5,000名

●第60回全日本総合ハンドボール選手権大会

会期：2008年12月17日(水)～21日(日)
会場：いしかわ総合スポーツセンター
参加人数：5,000名

大会プログラムに「チーム・マイナス6%」ポスターを掲載

・第60回全日本総合ハンドボール選手権大会(石川県)
・第32回全国高等学校ハンドボール選抜大会(徳島県)
・第4回春の全国中学生ハンドボール選手権大会(富山県)

(財)日本自転車競技連盟

Japan Cycling Federation

●第43回全国都道府県対抗自転車競技大会

会期：2008年8月24日(日)～26日(火)／会場：新潟県南魚沼市・弥彦村／参加人数：240名

走路バックストレッチに横断幕を掲揚

●日本スポーツマスターズ2008高知大会自転車競技会

会期：2008年9月21日(日)／会場：高知県高知市／参加人数：250名

●第63回国民体育大会自転車競技会

会期：2008年9月28日(日)～10月2日(木)／会場：大分県日田市・別府市／参加人数：500名

●第4回全国ジュニア自転車競技大会 in 四日市

会期：2008年10月26日（日）／会場：三重県四日市市／参加人数：370名

今年で3回目となる植樹開始前のあいさつ。岡田卓也（財）イオン環境財団理事長（中央）と井上哲夫四日市市長

岡田卓也（財）イオン環境財団理事長（右）

●第14回全日本シクロクロス選手権大会

会期：2008年12月14日（日）／会場：長野県飯田市／参加人数： 60名

牧野光朗飯田市長（奥）

(財)日本卓球協会

Japan Table Tennis Association

●第77回全国高等学校総合体育大会

会期：2008年8月2日(土)／会場：春日部市総合体育館

左から若尾輝夫大会副委員長・常務理事、宮本善久大会競技運営副委員長、後藤広子環境委員長、竹内敏子常務理事、中村良一郎副審判長

●平成20年度理事長会議

会期：2008年9月27日(土)／会場：別府湾ロイヤルホテル

左から村上恭和女子NT監督、星野一朗強化本部長、宮崎義仁男子NT監督

●第63回国民体育大会卓球競技

会期：2008年9月28日(日)／会場：杵築市文化体育館

●天皇杯・皇后杯平成20年度全日本卓球選手権大会

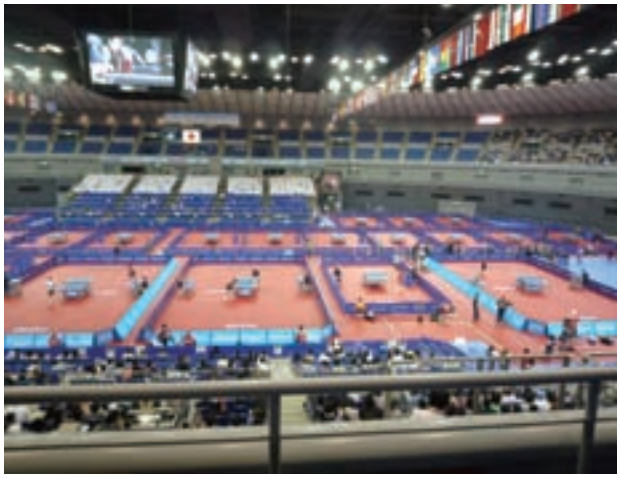
会期：2009年1月15日(木)／会場：東京体育館

「チームマイナス6%」チーム員登録ブース、前に立つのは後藤広子環境委員長

●2009年世界卓球選手権横浜大会

会期：2009年4月28日(火)～5月5日(祝)／会場：横浜アリーナ

左から河原智大会組織委員会役員、前原正浩専務理事、木村興治副会長



(財)全日本軟式野球連盟

Japan Rubber Baseball Association

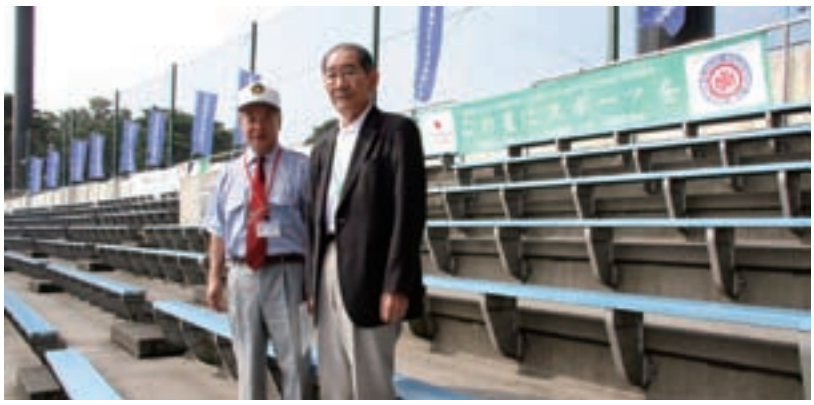
●高円宮賜杯第28回全日本学童軟式野球大会

会期：2008年8月9日(土)～ 14日(木)／会場：水戸市民球場ほか

大山則夫専務理事と岡部英男会長(右)

●天皇杯第63回全日本軟式野球大会

会期：2008年9月12日(金)～ 17日(水)／会場：さいたま市／参加人数：約1,300名



大山則夫専務理事と福永信彦埼玉県軟式野球連盟会長(右)

●高松宮賜杯第52回全日本学童軟式野球大会1部

会期：2008年9月19日(金)～ 22日(月)／会場：小瀬スポーツ公園野球場ほか

(社)日本馬術連盟

Japan Equestrian Federation

●第60回全日本障害馬術大会2008PartⅡ

会期：2008年9月13日(土)～ 15日(月)／会場：静岡県御殿場市馬術スポーツセンター／参加人数：約2,000名

山内英樹理事長と土橋武雄理事・環境委員長(右)

●第60回全日本馬場馬術大会2008

会期：2008年11月7日(金)～ 9日(日)
会場：兵庫県・三木ホースランドパーク
参加人数：約1,000名

馬術大会参加賞　コットンエコバック

競技参加者全員に「コットンエコバッグ」を配布

●馬術情報誌への環境ポスターの掲載(12月号)

(社)日本フェンシング協会

Fédération Japonaise d'Escrime

●高円宮牌フェンシングワールドカップ2008

会期：2008年5月9日(金)～ 11日(日)
会場：東京体育館

●第16回JOCジュニアオリンピックカップ フェンシング大会

会期：2009年1月9日(金)～ 12日(月)
会場：東京都駒沢オリンピック公園体育館

北京オリンピックで銀メダルを獲得した太田雄貴選手

(財)全日本柔道連盟

All Japan Judo Federation

●嘉納治五郎杯東京国際柔道大会

会期：12月12日(金)～ 15日(月)／会場：東京体育館

左から小野沢弘史理事(現専務理事)、上村春樹専務理事(現会長)、川口孝夫理事

●皇后盃全日本女子柔道選手権大会

会期：2008年4月20日(日)／会場：横浜文化体育館

左から寺澤豊志都道府県ルネッサンス部長、細川伸二副委員長、山下泰裕委員長、島谷順子女性プロジェクト部長、
山口香キャッチフレーズ部長(環境担当)、向井幹博少年少女教育部長、山田利彦広報部長、小志田憲一総務(柔道ルネッサンス部長会議にて)

●講道館杯全日本柔道体重別選手権大会

会期：2008年11月15日(土)～ 16日(日)／会場：千葉ポートアリーナ

北京オリンピックメダリストとのポスター啓発活動（左から谷本歩実選手、内柴正人選手、塚田真希選手）

横断幕の掲出

ポスターの掲示

練習会場でのゴミ分別活動

内柴正人選手のルネッサンス・スピーチ（最後に“ゴミを持ち帰りましょう”と呼びかけた）

(財)日本ソフトボール協会

Japan Softball Association

●女子ソフトボール北京オリンピック壮行試合 in 仙台

会期：2008年7月25日(金)～27日(日)／会場：仙台市民球場／参加人数：12,000名

市原則之JOC常務理事と瀬古利彦JOC環境アンバサダーによる激励（中央）

北京大会・決勝、金メダルを獲得した日本代表チーム

(財)日本バドミントン協会

Nippon Badminton Association

●日本リーグ2008

会期：2008年12月21日(日)、23日(祝)／会場：高岡市民体育館

左から小椋久美子選手、綿貫民輔会長、橘慶一郎高岡市長、潮田玲子選手

会期：2008年10月12日(日)～ 13日(月)／会場：高岡市民体育館

小椋久美子選手と潮田玲子選手(右)

前田美順選手と末綱聡子選手(右)

●内閣総理大臣杯・文部科学大臣杯争奪 第62回全日本総合バドミントン選手権大会

会期：2008年11月11日(火)～ 16日(日)
会場：国立代々木競技場第二体育館

小椋久美子選手と潮田玲子選手(手前)

(社)日本ライフル射撃協会

National Rifle Association of Japan

●平成20年度全日本社会人ライフル射撃競技選手権大会兼第64回国民体育大会リハーサル大会

会期：2008年9月12日(金)～14日(日)
会場：新潟県・県立胎内ライフル射撃場
参加人数：235名

競技終了後、毎回鉛弾の回収を行う

●第63回国民体育大会ライフル射撃競技

会期：2008年10月3日(金)～6日(月)
会場：大分県・県立庄内屋内競技場
参加人数：634名

(社)日本近代五種・バイアスロン連合

Modern Pentathlon and Biathlon Union of Japan

●チャレンジ近代五種　長野木曽大会

会期：2008年6月29日(日)／会場：フォレスパ木曽ほか

豪雨の中、屋内テニスコートでの開催。射撃時はすべての安全のためにゴーグルを着けることが義務づけられている

●チャレンジ近代五種　東京都選手権大会

会期：2008年7月6日(日)／会場：駒沢運動公園

●第5回チャレンジ近代五種国際大会 in千葉

兼第3回近代五種JOCジュニアオリンピックカップ
会期：2008年9月14日(日)
会場：千葉県・エアロビクスセンター

黒須秀樹ジュニアコーチ(左端)と坂下俊雄理事(右端)

●チャレンジ近代五種　埼玉選手権大会

会期：2008年8月24日(日)
会場：さいたま市浦和区駒場競技場

大内重則専務理事

廃弾はひとつ残らず参加者が回収

日本山岳協会

Japan Mountaineering Association

●第47回全日本登山体育大会

会期：2008年7月11日(金)～ 13日(日)／会場：北海道旭川市ほか／参加人数：360名

鎌田耕治北海道山岳連盟会長

大会の登山コースとなった十勝岳のお花畑

●(社)日本山岳協会自然保護委員総会

会期：2008年11月8日(土)／会場：大阪府東大阪市／参加人数：120名

田中文男会長

生駒山麓の里山に集った参加者

(財)日本アイスホッケー連盟

Japan Ice Hockey Federation

●JIHF環境委員会

会期：2009年3月6日(金)
会場：JIHF事務局内

前列左から冨田正一会長、遅塚研一副会長(JOC副会長)、
後列左から坂井寿如常務理事、土田忠JOCスポーツ環境専門委員、
君塚晋副会長、渕上英機専務理事

●第32回東京都春季少年大会

会期：2008年5月2日(金)～17日(日)
会場：Dydoドリンコアイスアリーナ／参加人数：750名

●2008～2009アジアリーグ

会期：2008年9月20日(土)～2009年3月23日(月)
会場：東京、苫小牧、釧路、日光ほか

●第64回国民体育大会アイスホッケー競技

会期：2009年1月28日(水)～2月1日(日)
会場：青森県・新井田インドアリンクほか／参加人数：4,000名

浩宮皇太子殿下(前列中央)と冨田庄一会長、森喜朗日本体育協会会長
(後列左から3人目)

左から谷田順一理事、渕上英機専務理事、松田一男青森県アイスホッケー
連盟理事長、冨田正一会長、土田忠JOCスポーツ環境専門委員

●第63回国民体育大会表彰式

会期：2009年11月15日(土)
会場：東京都大会議場／参加人数：150名

●第76回全日本選手権

会期：2009年2月9日(月)～ 15日(日)
会場：Dydoドリンコアイスアリーナほか／参加人数：6,000名

●第28回全日本女子選手権(A)

会期：2009年3月12日(木)～ 15日(日)
会場：新横浜スケートセンター／参加人数：2,000名

●第14回全日本オールドタイマー選手権

会期：2009年4月11日(土)～ 12日(日)
会場：帯広の森アイスアリーナ／参加人数：600名

●第11回ピーウィー国際大会

会期：2009年4月28日(火)～ 5月5日(祝)
会場：新井田インドアリンク、南部山アイスアリーナ
参加人数：4,000名

●JOC感謝の集い

会期：2008年11月13日(木)
会場：グランドプリンスホテル赤坂／参加人数：2,000名

左から水野正人JOC副会長、土田忠JOCスポーツ環境専門委員、渕上英機専務理事、君塚晋副会長

●加盟団体の環境活動

兵庫県連盟

(財)全日本ボウリング協会

Japan Bowling Congress

●NHK杯争奪第42回全日本選抜ボウリング選手権大会

会期：2008年5月16日(金)～18日(日)
会場：国分寺パークレーン／参加人数：選手約300名

会場入口にポスター掲示

●JOCジュニアオリンピックカップ 第32回全日本高校ボウリング選手権大会

会期：2008年7月22日(火)～23日(水)
会場：品川プリンスホテルボウリングセンター
参加人数：選手約300名

男子優勝の升水祐介選手と女子優勝の向谷美咲選手(右)

●平成20年度第3回定時評議員会

会期：2009年3月20日(祝)
会場：愛知県・稲沢市勤労福祉会館／参加人数：約80名

あいさつに立つ赤木恭平会長

●平成20年度第1回定時評議員会

会期：2008年5月25日(日)
会場：田町ハイレーン会議室／参加人数：約80名

左から赤木恭平会長と協会役員、評議員

●文部科学大臣争奪杯 第15回全国高等学校対抗ボウリング選手権大会

会期：2008年12月19日(金)～21日(日)
会場：川崎グランドボウル
参加人数：約250名

選手休憩場所にポスター掲示

(財)日本ゴルフ協会

Japan Golf Association

●第73回日本オープンゴルフ選手権競技

会期：2008年10月16日(水)～ 19日(日)／会場：福岡県　古賀ゴルフ・クラブ

左から泉憲一競技副委員長、安西孝之会長、小山勇評議委員

(社)日本スカッシュ協会

Japan Squash Association

●第22回ジャパンジュニアオープンスカッシュ選手権大会

会期：2008年8月6日(水)～8日(金)／会場：千葉県・サンセットブリーズ保田／参加人数：選手84名、観客100名

香港(右)、シンガポールなど海外の選手も参加

冷水をマイボトルに入れてマイドリンクを作る

●2008 LAND CUP第37回全日本スカッシュ選手権大会

会期：2008年11月21日(金)～24日(月)／会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE ／参加人数：選手265名、観客400名

男子は史上最年少チャンピオン(右)が誕生した

●第13 回全日本ジュニアスカッシュ選手権大会

会期：2009 年3 月27 日(金)～29 日(日)／会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE ／参加人数：選手120名、観客300名

マイボトル・マイカップキャンペーン用飲料タンクで、観客も利用できる

JSA eco マイボトル　JSA eco 分別

エコマークで統一された分別ラベル

(社)日本アマチュアボクシング連盟

Japan Amateur Boxing Federation

●第63回国民体育大会ボクシング競技

会期：2008年9月28日(日)～ 10月2日(木)／会場：大分県立津久見高等学校体育館

左から吉本幸司津久見市長、川島五郎会長、岩崎泰也大分県連会長、の植樹前の記念撮影

津久見高校体育館試合会場

左から吉本幸司津久見市長、川島五郎会長の記念植樹

見学に来た小学生がゴミ分別に協力

(社)全日本アーチェリー連盟

All Japan Archery Federation

●第50回全日本ターゲットアーチェリー選手権大会

会期：2008年10月24日(金)～ 26日(日)
会場：静岡県・つま恋　多目的広場
参加人数：123名

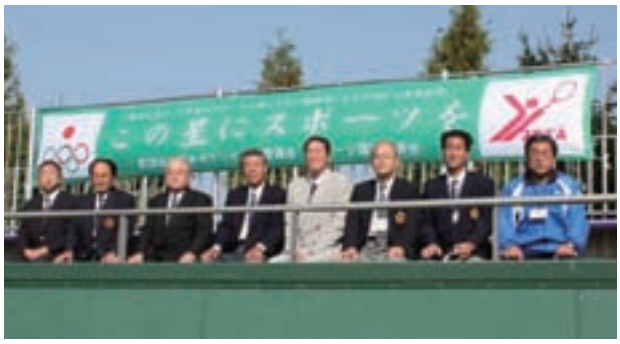
飯塚十朗副会長と2008年世界ユース選手権金メダルの図師未希絵選手(右)

(財)日本ソフトテニス連盟

Japan Soft Tennis Association

●第63回天皇賜杯・皇后賜杯全日本ソフトテニス選手権大会

会期：2008年10月17日(金)～19日(土)／会場：新青森県総合運動公園テニスコート



左から新保俊彦青森県連盟理事長、本田茂雄理事、林敏弘副会長、難波俊之青森県連盟副会長、澤田祐青森県連盟副会長、笠井達夫専務理事、斉藤元三理事、吉田健青森県連盟副会長

●第63回国民体育大会ソフトテニス競技

会期：2008年9月28日(日)～10月1日(水)
会場：大分スポーツ公園テニスコート

●第3回ジュニアジャパンカップ「競技者育成プログラム(Step4)」

会期：2008年11月22日(土)～25日(火)
会場：宮崎県・生目の杜運動公園テニスコート

左から笠井達夫専務理事、西村信寛副会長、表孟宏副会長、河野健児宮崎県連盟会長、姫野嘉孝理事、丹崎健一理事、藤原伸二理事、北山敏隆競技者育成プログラム推進委員

(社)日本カヌー連盟

Japan Canoe Federation

●第31回NHK杯全日本選抜カヌースラローム競技大会

会期：2008年4月20日(日)
会場：群馬県みなかみ町特設カヌーコース
参加人数：選手55名、観客約1,000名

●カヌーポロ日本代表強化合宿

会期：2008年4月26日(土)～27日(日)
会場：愛知県保田ヶ池カヌーポロコート
参加人数：選手25名、スタッフ10名

(財)日本ラグビーフットボール協会

Japan Rugby Football Union

●日本代表選手、NPO法人グリーンバード、ボランティア、日本協会職員によるゴミ拾い活動実施

会期：2008年11月21日(金)
会場：東京都港区外苑前付近(外苑前並木通り～国道246号線沿い～スタジアム通り～秩父宮ラグビー場)
参加人数：30名

日本代表からは木曽一、平浩二、谷口智昭、山下裕史、仲村慎佑の5選手が参加

全日本アマチュア野球連盟

Baseball Federation of Japan

●「NPO法人アオダモ育成の会」2008年植林事業

会期：2008年7月5日(土)／会場：北海道・新冠国有林
参加人数：180名

会期：2008年9月20日(土)／会場：北海道・由仁町道有林
参加人数：170名

(社)日本トライアスロン連合

Japan Triathlon Union

●全国小学生トライアスロン大会・親子トライアスロン

会期：2008年9月14日(日)／会場：昭和記念公園／参加人数：約150名

川添勝審判長と北京オリンピック5位入賞・井出樹里選手(右)

上田藍選手

●第14回日本トライアスロン選手権東京港大会

会期：2008年10月26日(日)／会場：臨海副都心トライアスロン特設会場
参加人数：選手25名

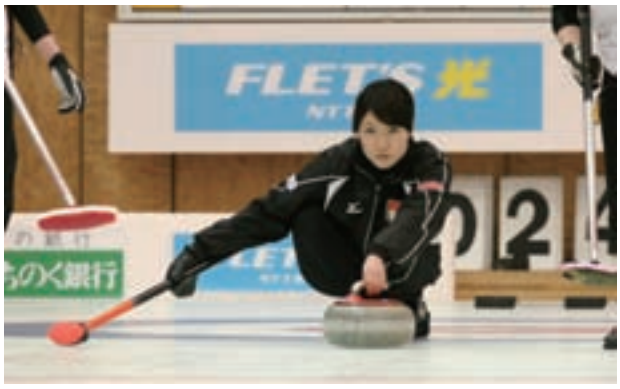
(社)日本カーリング協会

Japan Curling Association

●第26回日本カーリング選手権大会

会期：2009年2月10日(火)～ 15日(日)／会場：青森市スポーツ会館カーリングホール

左からチーム青森県協会の三浦大延選手、鈴木謙一郎選手、三浦泰晟選手



チーム青森の目黒萌絵選手

日本カバディ協会

Japan Cabaddi Association

●第2回東日本カバディ選手権大会

会期：2008年7月26日(土)～27日(日)
会場：帝京高等学校／中学校体育館

●第19回全日本カバディ選手権大会

会期：2008年11月22日(土)～23日(日)
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター大体育館

日本セパタクロー協会

Japan Sepaktakraw Federation

●第19回全日本セパタクロー選手権大会

会期：2008年10月11日～13日／会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

男子優勝の(株)イカイESPチーム

女子優勝の国立Aチーム

JOC環境パートナー 佐川急便(株)

JOC Environmental Partner Sagawa Express Co.,Ltd

●北京オリンピックでの活動

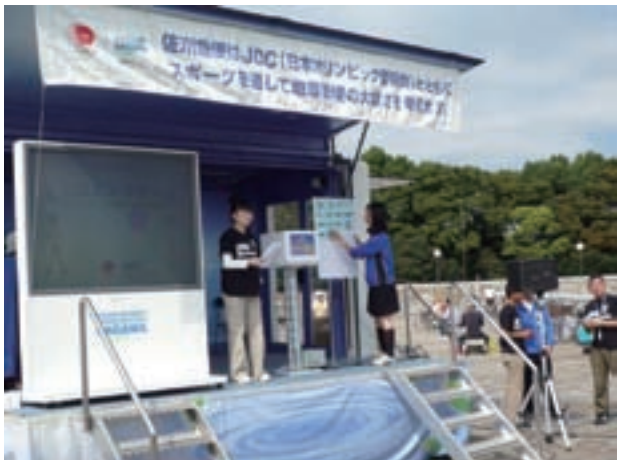
環境活動のパネルを展示(写真中央・福原愛選手)

●エコライフフェア2008

会期:2008年6月7日(土)～8日(日)／会場:都立代々木公園

●オリンピックフェスティバル2008

会期:2008年10月13日(祝)



●オリンピックデーラン大阪大会

会期:2008年5月18日(日)

荻原次晴氏

●オリンピックデーラン青森大会

会期:2008年6月29日(日)

●オリンピックデーラン士別大会

会期：2008年9月28日(日)

●オリンピックデーラン長野大会

会期：2008年11月2日(日)

●オリンピックデーランひたちなか大会

会期：2008年11月16日(日)

●オリンピックデーラン神戸大会

会期：2008年10月26日(日)

蛯沢克仁選手と中村真衣氏

間寛平氏

●オリンピックデーランさいたま大会

会期：2008年12月7日(日)

(財)日本体育協会

Japan Sports Association

●第63回国民体育大会本大会

会期：2008年9月27日(土)～ 10月7日(火)／会場：大分県・九州石油ドームほか

●生涯スポーツコンベンション2009

会期：2009年2月4日(水)／会場：京王プラザホテル

NPO法人日本オリンピックアカデミー

Japan Olympic Academy（JOA）

●JOAユースセッション2008

会期：2008年11月16日（日）／会場：北海道文教大学

嵯峨寿JOA理事

法政大学・苅部俊二氏（中央）

●第31回日本オリンピックアカデミーセッション

会期：2008年12月21日（日）
会場：国立スポーツ科学センター研修室A・B

左から前田彰一日本セーリング連盟専務理事、板橋一太JOCスポーツ環境専門委員長、笠原一也国立スポーツ科学センター長、猪谷千春IOC副会長、セ・ミアン・ングIOC理事、水野正人JOC副会長、河野一郎JOC理事、穂積八州雄JOA参与

セ・ミアン・ングIOC理事（シンガポール・オリンピック・アカデミー理事長）

●オリンピック学習会

会期：2008年3月7日（金）／会場：横浜市立高舟台小学校
参加人数：約800名

オリンピックの意義を伝える学習会。当日は環境ポスターが学校に授与され、800名近い全校生徒が環境ポスターの前で一人ひとり記念撮影を行った

日本トップリーグ連携機構

Japan Top League

●平成20年度審判研修会開催報告

会期：2008年8月23日(土)～24日(日)／会場：ナショナルトレーニングセンター

●平成20年度日本トップリーグ連携機構若手研修会

会期：2009年3月28日(土)～29日(日)／会場：ナショナルトレーニングセンター

斉藤実専修大学准教授(中央)

片上千恵スポーツメディアトレーナー

小林大祐日本アンチドーピング機構ITマネージャー

NPO法人東京オリンピック・パラリンピック招致委員会

Tokyo 2016 Bid Committee

河野一郎東京オリンピック・パラリンピック招致委員会事務総長

ムータワキルIOC評価委員長　馬術会場となる「海の森」で植樹

東京湾に皇居と同じ大きさの緑の島が出現。
ここを通過した爽やかな風が東京に

ヒートアイランド現象を防ぐため、都内全公立小・中学校の校庭を芝生化する

スポーツを通じた持続可能な社会づくり

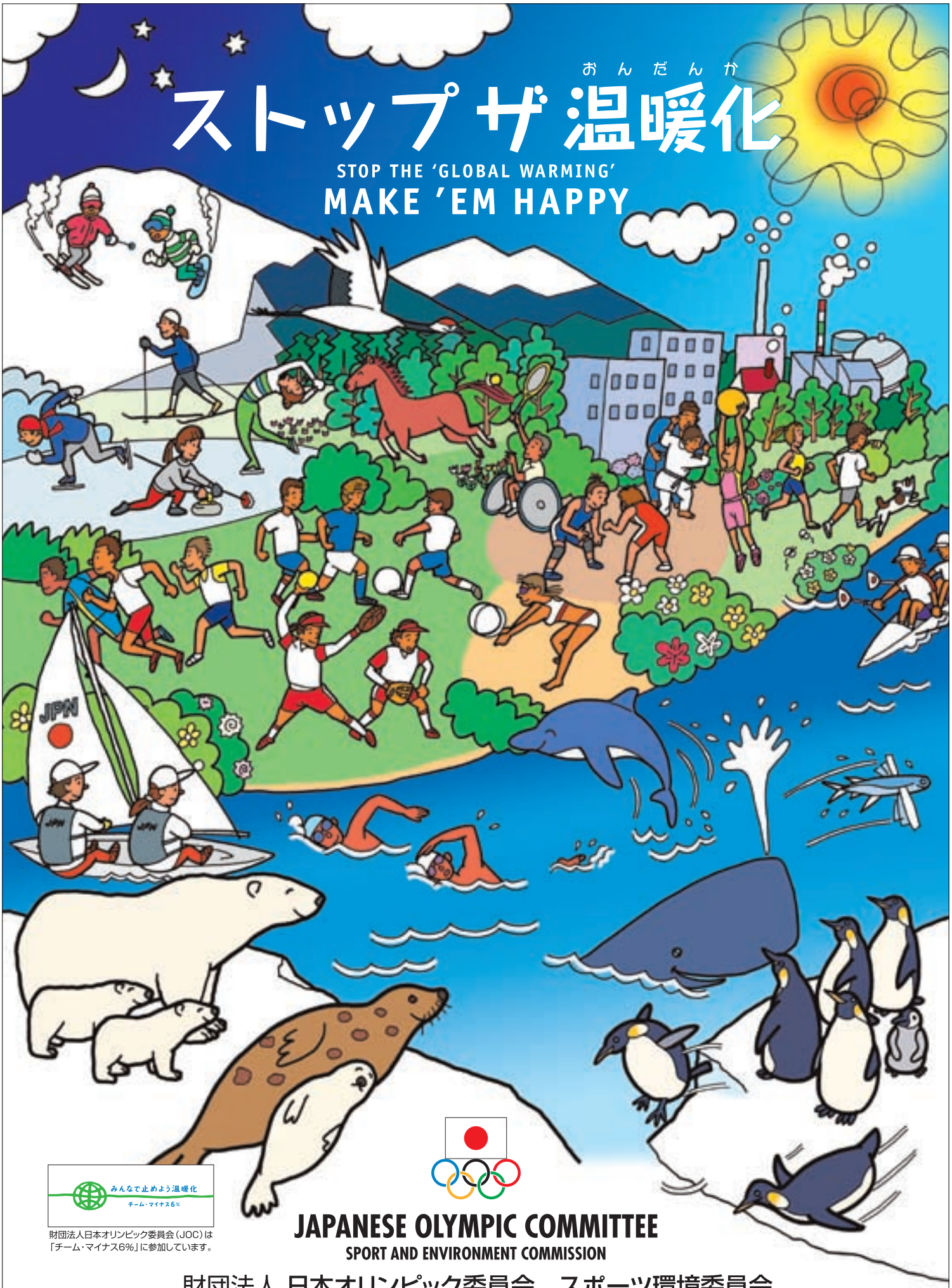
大会施設は自然の光や風を取り入れ、低カーボン、低エネルギー型施設とする

ストップザ温暖化

おんだんか

STOP THE 'GLOBAL WARMING'

MAKE 'EM HAPPY



みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%

財団法人日本オリンピック委員会（JOC）は
「チーム・マイナス6%」に参加しています。

JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE

SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION

財団法人 日本オリンピック委員会　スポーツ環境委員会

JOCスポーツ環境アンバサダー

JOC Sport and Environment Ambassador

環境アンバサダーは

■トップレベルの選手だったので知名度があり、その発言は**ファンの心に届く**ものである。
■それぞれの競技の**環境活動を代表**する。
■スポーツ界の環境保全の**啓発活動・実践活動**を行う。

環境アンバサダーだからこそできるアクション

◇スポーツを通じて環境保全意識を高める
◇メディアで積極的に環境に関する発言をする
◇後輩の現役選手に対して、環境配慮をレクチャーする
◇海外への遠征時に感じた世界の温暖化をはじめとする環境問題の現状を訴える
◇世界に向けて日本のスポーツ界の取り組みを発信する
◇講演会などで、地球温暖化防止をはじめとする環境問題に関する話をする
◇個人基金を設け、環境保全活動に寄付をする
◇スポーツ教室などを通じて、子どもたちに環境問題に対する教育を行う
◇次世代の環境アンバサダーを育成する

IOCスポーツと環境・競技別ガイドブック

IOC Guide to Sport,Environment and Sustainable Development

国連環境計画（UNEP）と国際オリンピック委員会（IOC）が共同で開催した第6回「スポーツと環境に関する会議」（ナイロビ）で、IOCがスポーツにおける環境と持続可能な開発のための新しいガイドラインを示したもの。

さまざまなスポーツと生態系の間の相互関係がまとめられており、各競技団体にとって、持続可能な発展の主な原則に基づく環境配慮の方法論的で実用的なツールが示されている。競技者とさまざまなスポーツ（ウォータースポーツから体操のような室内で行うもの、大きな野外での試合等）の環境への影響を分析しており、スポーツ参加者と観客の実際的な解決策を提案している。

※IOC Official Website PROMOTION OF SUSTAINABLE DEVELOPMENTより抜粋

目次

第１章　環境保全と持続可能な開発
1.1 生態系と景観
1.2 水
1.3 土壌
1.4 空気
1.5 生物多様性
1.6 エネルギー
1.7 汚染物質や廃棄物
1.8 環境保全と持続可能な開発の政治的側面
1.9 環境保全と持続可能な開発の社会的側面
1.10 環境保全と持続可能な開発の経済的側面
1.11 ミレニアム開発目標

第２章　環境と持続可能な開発に配慮したスポーツに関する一般条件
2.1 スポーツを通じた活動
2.2 活動の場
2.3 心構え
2.4 基本原則

第３章　スポーツ開催時の環境と持続可能な開発
3.1 スポーツ統括団体
3.2 スポーツ団体
3.3 選手の個人的行動
3.4 スポーツイベント
3.5 建物や他の建造物
3.6 用具メーカー
3.7 メディア
3.8 発展途上国に合った基準
3.9 現地の状況に応じた優先事項

第４章　オリンピック競技別の、環境と持続可能な開発のための条件
4.1 スポーツと環境条件
4.2 自然環境下における陸上での競技
4.2.1 自転車競技
4.2.2 馬術
4.3 自然環境下における水上での競技
4.3.1 概要
4.3.2 セーリング
4.3.3 ボート
4.3.4 カヌー
4.4 水上での競技
4.4.1 水泳
4.4.2 オープンウォータースイミング
4.5 屋外競技
4.5.1 概要
4.5.2 陸上競技
4.5.3 テニス
4.5.4 アーチェリー
4.5.5 射撃
4.5.6 サッカー
4.5.7 野球
4.5.8 ホッケー
4.5.9 近代五種競技
4.5.10 トライアスロン
4.6 室内競技
4.6.1 概要
4.6.2 体操
4.6.3 レスリング
4.6.4 柔道
4.6.5 テコンドー
4.6.6 ボクシング
4.6.7 ウエイトリフティング
4.6.8 卓球
4.6.9 バドミントン
4.6.10 フェンシング
4.6.11 バスケットボール
4.6.12 バレーボール
4.6.13 ハンドボール
4.6.14 ソフトボール
4.7 冬季オリンピック競技
4.7.1 概要
4.7.2 雪上競技:スキー
4.7.3 雪上競技:バイアスロン
4.7.4 氷上競技:スケート
4.7.5 アイスホッケー
4.7.6 カーリング
4.7.7 ソリ競技:ボブスレーとスケルトン
4.7.8 ソリ競技:リュージュ

第５章「地球規模で考え、足もとから行動する」

『IOCスポーツと環境・競技別ガイドブック』マニュアル

JOCの環境活動の紹介他、国際オリンピック委員会（IOC）が作成した『IOC Guide to Sport,Environment and Sustainable Development』に基づいて、JOC加盟競技団体がわかりやすく環境活動の「啓発」「実践」ができるように、ポイントを抜粋して説明。
http://joc.or.jp/eco/pdf/g08_manual.pdf

環境省との連携

Ministry of the Environment

●環境省の「チームマイナス6%」広告に協力

JOCスポーツ環境専門委員会

JOC Sport and Environmental Commission

前列左から山本征悦委員、山口香委員、板橋一太委員長、佐野和夫副委員長、平松純子委員、土田忠委員
後列左から水野正人JOC副会長、伊藤晃委員、朝倉正昭委員、別所恭一委員、橋爪功委員、鎌賀秀夫委員

左から朝倉正昭委員、佐野和夫副委員長、土田忠委員、板橋一太委員長、平松純子委員、山口香委員、市原則之総務委員長、鎌賀秀夫委員、橋爪功委員、
水野正人JOC副会長

田嶋幸三副委員長

荻原健司委員

松岡修造委員

●JOC事務局内レクチャー

環境方針

■環境基本理念

財団法人日本オリンピック委員会（JOC）は、オリンピック・ムーブメントを通じ、世界平和運動とスポーツ振興に寄与する目的に基づき、JOC事務所の環境への取り組みを実践し、環境マネジメントシステムの継続的改善を行うことにより地球環境の保全に貢献する。

■行動指針

1. JOC事務所において、電力の節減、紙の有効利用などの省資源及び資源リサイクルを推進する。
2. 新たに物品を調達するにあたってはグリーン購入を優先する。
3. 環境に関する法的要求事項及び、その他の要求事項を遵守する。
4. 環境の教育啓発活　動の推進によって、全ての職員が環境方針を理解し、その実現に努めるとともに、環境方針を外部にも公表する。

平成18年3月17日
財団法人日本オリンピック委員会
会長　竹田 恒和

◆2009年7月11日付でISO14001の認証登録を更新（2度目）

認証登録証を受け取った竹田恒和JOC会長

平成20年度　スポーツ環境委員会活動報告書

JOC Sport and Environment Commission Report 2008

■写真によるスポーツ環境の啓発活動報告 …… 2
Photographic report of activities on Sport and Environment

本文目次
Contents

1. スポーツ環境委員会活動の意義について …… 81
Objective of the JOC Sport and Environment Commission

2. 第4回JOCスポーツと環境・地域セミナー　開催報告 …… 82
Report of the 4th JOC Regional Seminar on Sport and Environment

3. 第5回スポーツと環境担当者会議　開催報告 …… 88
Report of the 5th National Sports Federations Conference on Sport and Environment

4. 「スポーツと環境」グリーンアクションフォーラム　開催報告 …… 92
Report of the Green Action Forum

5. スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について …… 94
Issues regarding awareness and inplementation activities

(1) スポーツ環境委員の活動 …… 95
Activities of the member of JOC Sport and Environment Commission

(2) 各競技団体等の活動 …… 112
Activities of the JOC affiliated NFs and organizations

(3) 東京オリンピック・パラリンピック招致委員会の活動 …… 129
Activities of the Tokyo 2016 Bid Committee

(4) JOCスポーツ環境活動者一覧 …… 130
Activities person of Sport and Environment

(5) スポーツと環境に関するアンケート集計結果について …… 133
Results of the questionnaire regarding environmental activities of NFs

(6) 国際大会での活動 …… 136
JOC environmental activities at the International Games

(7) 環境省との連携について …… 138
Collaboration with the Ministry of Environment

(8) スポーツと環境についてのレクチャー原稿 …… 140
Lecture draft on Sport and Environment

6. IOCスポーツと環境委員会について …… 150
IOC Sport and Environment Commission

(1) IOCスポーツと環境委員会 …… 151
IOC Sport and Environment Commission

(2) 第8回IOCスポーツと環境世界会議 …… 153
8th IOC World Conference on Sport and Environment

(3) IOCスポーツと環境・地域セミナー …… 157
IOC Regional Seminar on Sport and Environment

(4) IOCスポーツと環境賞 …… 158
IOC Award for Sport and Environment

7. OCAスポーツと環境委員会 …… 160
OCA Sport and Environment Committee

8. 関連資料 …… 167
References

(1) スポーツ環境委員一覧 …… 167
Member of Sport and Environment Commission

(2) IOCスポーツと環境委員会小史 …… 169
Brief history of the IOC Sport and Environment Commission

(3) JOCスポーツ環境委員会小史 …… 170
Brief history of the JOC sport and Environment Commission

(4) オリンピックムーブメンツ アジェンダ21 …… 171
Olympic Movement's Agenda 21

1 スポーツ環境委員会活動の意義について

Objective of the JOC Sport and Environment Commission

次の一歩

京都議定書で約束したわが国の温室効果ガス削減目標値の達成はなかなか大変なようである。2012年までに1990年（基準年）比6%削減という目標値が掲げられているにもかかわらず2006年度実績をベースにすると今後6.8%の削減が必要だという。つまり、この間、温室効果ガスは減少どころか増加していたというわけである。温室効果ガスの大部分を占めるエネルギー起源二酸化炭素の「家庭部門」の排出量は基準年の30%増である。「家庭部門」は排出シェアが小さい（全部門の11.1%）とはいえ、それぞれの部門が削減ノルマをはたさなければ全体として目標値の達成はおぼつかない。「業務その他部門」という部門もあるがそこでも同じ状況らしい。

多くのスポーツ競技団体や選手が環境問題に取り組んでいる。スポーツが出来る環境を台無しにしてはならない、きれいな空気、澄み切った水、緑の草原など素晴らしいスポーツ環境を後世に残したい、私たちの願いは身近の場所でのごくささやかな環境活動が地球規模の温室効果ガスの排出量削減に少しでも寄与できればということ（Think Globally, Act locally）である。最近ではほとんどの団体が環境問題に関心を示すようになり、ゴミの分別や省エネなどに取り組んでいる。それなりの効果が上がっていると思うけれども、上記のようなデータを見せられるとこの活動がいかに大変で息の長い努力を必要とするかが実感され溜息が出てくる。

3月末にカナダ・バンクーバーで第8回スポーツと環境世界会議が行われた。この会議のメインテーマは「Innovation & Inspiration（革新と感化）」である。2年前の前回会議のテーマは「Plan to Action（計画から実践へ）」であったが地球温暖化が進む中でスポーツ界としても単なる実践ではなくさらに中身の濃い踏み込んだ活動実践に向かおうとする姿勢が現れている。未曾有の経済危機の下で環境問題への取組みをどのように進めるのか、その際スポーツはどのような革新的技術や工夫を利用できるのか。施設のデザインや建設面ではどうか。省エネ・クリーンエネルギー、観客輸送方法などの面ではどうか。大きなビジネスが展開される競技大会での運営や関係企業からの協力取り付けなどの面ではどうか。アスリート、観客、視聴者に求められる環境に優しい日常生活についてスポーツはどのような動機付けができるのか。スポーツファンの熱狂は環境問題への熱狂へも結びつくのか、などが議論された。いま、次の一歩を考えなければならない時期を迎えている。

財団法人日本オリンピック委員会
スポーツ環境専門委員会
委員長　板橋 一太

2 第4回JOCスポーツと環境・地域セミナー　開催報告

Report of the 4th JOC Regional Seminar on Sport and Environment

■開催概要

1. 趣　旨：本会は平成13年度からスポーツ環境委員会を設置し、啓発・実践活動を推進してきた。この度その活動のひとつとして、第4回の地域セミナーを広島市で開催し、スポーツ界における環境保全の啓発・実践活動の必要性、及び中国地区のスポーツに携わっている関係者に本委員会の環境保全活動に対する理解と実践活動への協力をお願いした。

2. 共　催：財団法人日本オリンピック委員会、広島市（JOCパートナー都市）

3. 後　援：文部科学省、中国四国地方環境事務所、財団法人日本体育協会
広島県、広島県教育委員会、広島市教育委員会
財団法人広島県体育協会、財団法人広島市スポーツ協会
特定非営利活動法人東京オリンピック・パラリンピック招致委員会

4. 日　時：平成20年9月19日（金）13：30 ～ 17：00

5. 場　所：広島国際会議場　地下2階　「ヒマワリ」
〒730-0811　広島市中区中島町1-5（平和記念公園内）電話：082-242-7777

6. 参加者：JOC役員、スポーツ環境専門委員、アスリート専門委員
本会、日本体育協会加盟団体のスポーツと環境担当者
中国地区の体育協会、教育委員会
スポーツ関係部局の環境担当者及びスポーツ指導者
ワールドワイドパートナー、JOCオフィシャルパートナー
JOCパートナー都市関係者　その他
計228名

7. プログラム：13：30　主催者挨拶
財団法人日本オリンピック委員会副会長　水野 正人
広島市長　秋葉 忠利
13：40　スポーツと環境保全について
講演「スポーツと環境について」
日清食品陸上競技部　徳本 一善
14：20　活動報告
IOCスポーツと環境委員会　委員　水野 正人
JOCスポーツ環境専門委員会　委員長　板橋 一太
JOCスポーツ環境専門委員会　委員　山口 香
15：20　休憩
15：40　広島市の環境施策
～地球温暖化対策と広島カーボンマイナス70～
広島市環境局　エネルギー・温暖化対策部企画課
課長補佐　細戸 寿彦
16：00　各団体の環境保全活動に関する実践報告
財団法人広島陸上競技協会　常務理事　浜﨑 正信
財団法人広島県ヨット連盟　事務局長　沖田 勇三
株式会社サンフレッチェ広島
ホームタウン推進本部　地域貢献推進部地域担当課長　工藤 宏一
17：00　閉会

■パル・シュミット IOCスポーツと環境委員長からのメッセージ

IOCスポーツと環境委員会として、広島市で第4回JOCスポーツと環境地域セミナーが開催されることにお慶びを申し上げます。

IOCスポーツと環境委員会は1995年に創設されて以来、スポーツ界に於ける環境保全の啓発と実践に向けて全力を尽くして参りました。北京オリンピック大会が環境保全、特に事前に懸念されていた空気の質を高く保持したことで大成功であった事を嬉しく思います。スポーツ大会を開催する都市は北京のように優れた環境保全に努力したことを良き手本として見習うべきであります。

広島市は1994年にアジア大会を成功させ、日本で「スポーツ王国」と言われ、多くの優れた競技者や指導者を生んで来ました。参加者の皆さんには是非JOCのセミナーで環境について多くを学び、高い意識を持って頂きたいと存じます。

IOC スポーツと環境委員会
委員長　パル・シュミット

Dear President Takeda,

On behalf of Sport and Environmental Commission of the IOC, it is my great pleasure to congratulate the 4th JOC Sport and Environment Regional Seminar in Hiroshima. The commission has been striving their best to promote awareness and implementation on environmental conservation in sports world since its foundation in 1995.

I am very pleased that Beijing Olympic Games made a huge success with conserving environment especially achieving to keep up higher air quality that was concerned before the Games. Every city that host sports events should pursue role models such good practice on protect environment as City Beijing.

City Hiroshima is so called 〝The Sports kingdom〞 in Japan, bearing and fostering so many esteemed athletes and leaders, and made great success of Hiroshima Asian Games in 1994. I hope that all the participants will learn a lot from this JOC regional seminar to keep up higher conscious on environment.

Yours sincerely,

Pál Schmitt
Chairman, IOC Sport and Environment Commission

■セミナー概要

平成20年9月19日、広島市の広島国際会議場で第4回JOCスポーツと環境・地域セミナーが行われ、JOCはじめ、各競技団体のスポーツと環境担当者のほか地元などから、228名が参加した。セミナーでは、JOCの環境保全の啓発・実践活動をはじめ、各競技団体の実践報告などを通じ、スポーツ界における環境保全の重要性が強くアピールされた。

◈「スポーツと環境」の関係

冒頭に「スポーツと環境」と題する講演を行ったのは日清食品陸上競技部の徳本一義氏。スポーツ選手自身の活動が温暖化と無縁ではないとの自覚のもとに、「我々は温暖化が地球に及ぼす影響を知らなければならないと思う。知ったうえで、どうしなければならないかを考えるべき」と語った。また、たとえ北島康介選手といえども水がなければ水泳ができない事実をあげ、「一流選手には、感動を呼ぶ力とともに訴えたいことを見る者に意識づける力がある」とし、みんなでよりよい環境を作っていくように、一流選手が先頭に立って訴えかけていくよう呼びかけた。環境や自然に感謝しつつ、徳本氏自身も「子どもたちにも機会があれば伝えていきたい」と決意を述べた。

◈ 地球号に乗って頑張ろう

続いて、水野正人IOCスポーツと環境委員会委員、JOCスポーツ環境委員会の板橋一太委員長そして、同山口香委員の3氏が活動報告を行った。水野委員は、北京オリンピック大会での環境にかかわる話題を報告したあと、環境変化が想像以上に進行している現在の地球の状況を紹介し、「持続可能な循環型社会を創らなければならない」と強く訴えた。

板橋委員長は、スポーツ界にも環境対策が大切なことが知られてきており、各競技団体にも啓発・実践活動に努力してもらっていること、ポスター・バナーの掲示やチーム・マイナス6％の横断幕やパンフレットの作成・配布、さらには年次活動報告書を作成・配布していることなどJOCの広範な活動を紹介。「環境に理解のあるスポーツ環境アンバサダー（一般にもよく親しまれている人々）に色々な場面で活躍してもらっている。地球号に乗ってみんなで頑張ろう」と呼びかけた。

スポーツ選手のための環境スタンダード（行動規範）の必要性を語った山口委員は、柔道における取り組みを中心に報告し、「私も最初は何をすべきかわからなかった。実現できることから少しずつ気長に、お金がかからないようにいろいろなアイデアを出していきたい」と語った。

◈「広島カーボンマイナス70」

セミナー後半は、開催地の広島市から、まず広島市環境局エネルギー・温暖化対策部企画課の細戸寿彦課長補佐が、広島市の環境対策の現状、そして長期目標として2050年度に二酸化炭素排出量の70％削減を掲げる意欲的な取り組みを個別に詳しく紹介した。

そのほか、広島陸上競技協会の浜﨑正信常務理事、広島県ヨット連盟の沖田勇三事務局長、そしてサンフレッチェ広島のホームタウン推進本部地域貢献推進部工藤宏一地域担当課長の3氏が、それぞれの実践活動報告を行った。浜﨑常務理事は、日本陸連のグリーンプロジェクトに賛同しての植樹活動や社会貢献活動などを、沖田事務局長は「子どもたちにきれいな海を残すこと」を願っての広範な海の清掃活動を、環境意識の高いサンフレッチェサポーターと共に取り組む創意あふれる活動を工藤地域担当課長は紹介した。

■出席者一覧

所　属　先	氏　　名
(財)日本オリンピック委員会	水　野　正　人
	市　原　則　之
	板　橋　一　太
	平　松　純　子
	佐　野　和　夫
	土　田　　忠
	別　所　恭　一
	山　口　　香
	山　本　征　悦
環境省広島事務所	原　田　幸　也
	柳　　拓　己
広島県教育委員会	杉　本　真　一
	岩　井　　淳
廿日市市教育委員会文化スポーツ課	矢　野　利　昭
江田島市教育委員会	浜　西　浩　仁
坂町教育委員会生涯学習課	坂　井　眞智子
福岡市市民局スポーツ部	田　中　　俊
東京都庁オリンピック・パラリンピック招致本部招致推進部	桐　越　　浩
	鈴　木　恵　美
(財)日本水泳連盟	水　野　功　明
(財)日本サッカー協会	玉　利　聡　一
(財)全日本スキー連盟	瀬　尾　　洋
(社)日本ホッケー協会	河　辺　捷　義
	木　原　征　治
(社)日本アマチュアボクシング連盟	森　正　耕太郎
(財)日本ハンドボール協会	兼　子　　真
(社)日本ライフル射撃協会	平　井　宏　治
(社)日本ダンススポーツ連盟	伊　藤　　定
(財)広島陸上競技協会	樽　谷　和　子
	森　畠　　茂
(財)広島県水泳連盟	朝　倉　正　三
	北　丸　朋　子
(財)広島県剣道連盟	高　橋　征四郎
	松　田　相　悦
広島県アマチュアボクシング連盟	松　尾　耕　司
	丸　亀　恭　敬
(財)広島県サッカー協会	中　山　正　剛
広島県ハンドボール協会	渡　辺　真　一
(財)広島県バスケットボール協会	矢　野　博　史
	岡　田　奈　巳
(財)広島県バレーボール協会	松　下　光　一

所　属　先	氏　　名
中国テニス協会	津　島　則　之
広島県テニス協会	高　橋　由　啓
	中　島　正　雄
広島県体操協会	池　田　美　幸
(財)広島県ヨット連盟	赤羽根　慶　仁
	土　井　真　子
	桧　皮　浩　二
広島県スキー連盟	田　中　義　久
	古　川　芳　伸
	伊　藤　　進
	隅　広　健　三
	金　森　保　尚
広島県エスキーテニス連盟	宇野本　　翼
広島県ゲートボール連合	上　杉　　稔
	竹之下　佳津子
	小　畑　美知子
広島県武術太極拳連盟	向　井　恭　子
	角　西　サダ子
	中　村　トモ子
広島市陸上競技協会	小早川　一　彦
	木　川　昌　二
	野　間　光　明
	内　藤　靖　雄
	串　本　明　人
広島市レスリング協会	衣　川　知　孝
	中　村　　伸
広島市サッカー協会	結　域　辰　行
広島市ホッケー協会	梶　師　巧　博
	田　村　洋　二
広島市バレーボール協会	西　山　時　義
	村　岡　敬　子
広島市ハンドボール協会	両　徳　良　樹
広島市テニス協会	松　本　邦　子
広島市ソフトテニス連盟	片　岡　新　平
	木　原　晴　彦
	大　前　秀　樹
	田　中　和　雄
広島市卓球協会	浅　尾　富　子
	上　野　和　子
	小　林　みどり
	前　田　照　代

所　属　先	氏　　名
広島市体操協会	水　野　　明
	大　島　勝　利
	松　本　美恵子
広島市ボート協会	武　田　正　晴
	森　下　俊　裕
	小　沢　哲　史
広島市バドミントン協会	石　丸　忠　昭
	佐々木　　惇
	垰　　祐　一
	崎　西　好　香
	下　崎　恵　子
	山　本　政　美
	木　戸　麗　子
	板　垣　美　鈴
	谷　口　勝　美
広島市ウエイトリフティング協会	杉　町　　孝
	岩　岡　　怜
	杉　内　　稔
広島市ボウリング協会	金　嵜　耕　壮
	河　野　　学
	斉　藤　雅　照
広島市柔道連盟	本　川　　清
	平　中　和　宏
	茅　原　義　治
	平　本　剛　郎
広島市ゲートボール連合	三　好　明　雄
広島市太極拳協会	吉　田　英　和
	土　井　　進
	田　中　典　子
広島市ゴルフ協会	尼　子　昌　夫
広島市学区体育団体中区連合会	石　井　　知
	長　崎　宏　芳
	沖　　孝　夫
	田　中　勝　由
	中　島　隆　義
	浅　尾　宰　正
	高　野　憲一郎
	中　村　和　正
	小　島　好　信
	井　上　宗　博
広島市学区体育団体東区連合会	荻　原　　眞
	倉　野　尚　吾
	濱　崎　芳　昭

所　属　先	氏　　名
広島市学区体育団体東区連合会	吉　田　幸　人
	藤　原　義　治
	杉　本　日出明
	山　田　雄　次
	飯　田　伸　吾
	坂　田　澄　江
	佐々木　康　子
広島市学区体育団体南区連合会	池　岡　義　郎
	森　本　利　雄
	森　本　武　治
	菊　田　俊　彦
	沖　　照　夫
広島市学区体育団体西区連合会	出　雲　淑　裕
	中　井　龍　雄
	荒　巻　スエ子
	森　本　義　人
	中　川　和　幸
	古　谷　弘　子
広島市学区体育団体安佐南区連合会	奥　田　正　治
	井　上　好　訓
	佐々木　元　紀
	鈴　木　敏　道
広島市学区体育団体安佐北区連合会	杉　野　俊　昭
	松　本　孝　男
	高　橋　隆　司
	佐久間　正　則
	門　前　峯　子
広島市学区体育団体安芸区連合会	金　山　輝　彦
	金　子　昌　洋
	大　岡　和　夫
	三　宝　　茂
	金　森　博　司
広島市学区体育団体佐伯区連合会	古　川　孝　義
	森　　繁
	古　屋　忠　臣
	土　井　哲　則
	津　丸　俊　二
	松　浦　宏　之
広島市小学生体育連盟	高　津　眞　廣
	灰　原　利　彦
	笠　井　圭　子
	小　林　富　夫

所　属　先	氏　　名
広島ミニテニス協会	見　田　　守
	青　山　　晃
	大　畠　　勝
広島市体育指導委員協議会	小　野　令　子
	天　野　直　樹
	安　本　千代枝
	小　田　　徹
	松　本　真奈美
	米　沢　みどり
	山　野　　暁
	清　水　益　男
	濱　本　一　美
	田　中　敏　彦
	増　村　宏　子
	赤　丸　敏　子
	鼠　家　義　昭
	藤　田　　章
	大　植　成　郎
	田　村　みどり
	上　奥　文　子
	寺　西　千　鶴
	兼　重　と　み
	中　村　邦　子
	倉　本　親　輔
	島　津　敏　治
	大　倉　典　子
	大　屋　みどり
	花　岡　志津子
	信　東　由美子
	山　田　豊　子
	上　野　智　子
	松　島　克　己
	杉　田　洋　子
	本　毛　典　子
	畑　田　恵　子
	小　林　妙　子
	木　原　真由美
広島市バウンドテニス協会	今　田　治　文
	今　村　弘　美
	吉　原　文　子
広島市ダンススポーツ連盟	植　村　俊　彦
	日　野　純　孝

所　属　先	氏　　名
(財)広島県体育協会ネットワーク登録公認スポーツ指導者	内　河　利　見
	米　山　文　章
	越　岡　信　幸
	寺　西　佳　弘
	石　田　博　子
	西　中　甚　一
	中　川　幸　一
	平　野　榮　子
	川　岡　克　義
	竹　本　久　男
	先　坊　寿　夫
	永　井　由美子
	多　羅　善　章
	見　越　邦　明
	岡　村　進　二
	西　川　孝　三
	世　羅　繁　治
	山　崎　成　明
	菊　光　正　和
	上　迫　洋　子
	藤　原　照　久
	徳　本　和　夫
ミズノ株式会社広島営業所	吉　崎　克　哉
博報堂DYメディアパートナーズ	川　廷　昌　弘
	前　田　独　平
	酒　井　達　朗
(株)ジェイコム広島営業所	森　　まり子
(財)日本オリンピック委員会事務局	日比野　哲　郎
	山　本　佳代子
	秋　葉　将　秀
広島市市民局文化スポーツ部	谷　本　睦　志
広島市市民局文化スポーツ部スポーツ振興課	宇都宮　弘　司
	荒　瀬　尚　美
	池　脇　雅　彦
	三　浦　宏　昌
	高　石　　実
	山　本　洋　史
	藤　本　　純
	小　平　耕　平
財団法人広島市スポーツ協会	鐵　石　康　治
	鈴　木　敬　司
	三家本　　恵
	森　脇　智　道

3 第5回スポーツと環境担当者会議　開催報告

Report of the 5th National Sports Federations Conference on Sport and Environment

■開催概要

1. 趣　旨：スポーツと環境に関する啓発・実践活動の理解と、関係団体及び多くの関係者との環境保全について相互の連携、活動の推進を図るために標記会議を開催した。

2. 主　催：財団法人日本オリンピック委員会

3. 後　援：文部科学省、環境省、財団法人日本体育協会
特定非営利活動法人東京オリンピック・パラリンピック招致委員会

4. 日　時：平成20年12月5日（金）13：30 ～ 17：00

5. 場　所：ナショナルトレーニングセンター　1階　研修室
〒115-0056　北区西が丘3-15-1　TEL：03-5963-0400

6. 参加者：①本会役員、スポーツ環境専門委員、アスリート専門委員、スポーツ環境アンバサダー
②本会加盟団体環境担当者
③JOCオフィシャルパートナー /ワールドワイドパートナー
計88名

7. テーマ：「IOCスポーツと環境・競技別ガイドブック」の理解と実行

8. プログラム：

13:00	受付
13:30	開会挨拶 日本オリンピック委員会副会長　水野 正人
13:40	IOCスポーツと環境委員会の活動について IOCスポーツと環境委員　水野 正人
14:00	JOCのスポーツと環境保全･啓発活動について JOCスポーツ環境専門委員長　板橋 一太
14:20	情報交換会
14:40	「IOCスポーツと環境・競技別ガイドブック」について
15:10	出席者とのディスカッション （各団体等の環境への取組みについて）
16:10	チーム・マイナス6%（環境省）との連携について 環境省地球環境局 地球温暖化対策課国民生活対策室長　染野 憲治
16:30	2016年東京オリンピック・パラリンピック大会の 環境に対する配慮について 東京オリンピック・パラリンピック招致本部 招致推進部　参事（運営計画担当）　保坂 俊明
16:50	質疑応答
17:00	閉会挨拶 JOCスポーツ環境専門委員長　板橋 一太

■会議概要

財団法人日本オリンピック委員会（JOC）は、平成20年12月5日、JOC加盟競技団体環境担当者及びJOC役員、スポーツ環境専門委員、スポーツ環境アンバサダー、JOCオフィシャルパートナーなど、約100名出席のもと、都内で「第5回スポーツと環境担当者会議」を開催した。

写真提供：アフロスポーツ

◈向上した競技団体の環境意識

今回のテーマは「『IOCスポーツと環境・競技別ガイドブック』の理解と実行」。はじめに国際オリンピック委員会（IOC）スポーツと環境委員会の水野正人委員が、IOCが行ってきた環境保全への取組みを紹介。「持続可能な開発」と「持続可能性」をキーワードとして挙げ、限られたエネルギー資源を有効的に利用するために、3R（Reduce：削減、Reuse：再使用、Recycle：リサイクル）の実行を強く求めた。

次に、JOCスポーツ環境専門委員会の板橋一太委員長より、JOCのスポーツ環境保全、啓発・実践活動として、『平成19年度スポーツと環境委員会活動報告書』より各競技団体の活動を写真で紹介。また、JOCが各競技団体に対し行った「スポーツと環境に関するアンケート」の今年度の集計結果を発表し、昨年度の結果よりも環境に対する意識が向上しているとした上で、さらなる改善の余地があると意見を述べた。続いて、IOCがスポーツ関係者に向け、環境活動の啓発と実践のために作成し、このたびJOCが日本語翻訳版を発行した『IOCスポーツと環境・競技別ガイドブック』及び、JOCが作成したマニュアルを紹介した。さらに、これらを参考に競技団体が取り組むべき環境アクションの両輪である「啓発活動」と「実践活動」について説明。すでに行っている環境保全活動を踏まえ、各競技団体が継続的に取り組むJOCの環境スローガンとして「Think Globally , Act Locally（地球規模で考え、足もとから行動する）」を強調した。

◈競技団体の環境保全活動

水野委員が進行を務めた出席者とのディスカッションでは、各競技団体がそれぞれどのような環境保全活動を行っているかを報告。その一例として、日本陸上競技連盟では「JAAFグリーンプロジェクト」を立ち上げ、全国の主要大会で啓発・実践活動（環境ブースの設置、横断幕・「スポーツと環境」ポスターの掲示等）を実施。また、チームマイナス6％に団体登録を行い、主要13大会会場で観客に対し登録参加を呼びかけ、昨年度は約1万4000人が登録するという実績を残した。さらに、「緑の募金」活動を行い、集まったお金で植樹活動を実施。今後も「陸上界でできることは何でもやりたい」と、さらなる環境活動への意欲を見せた。

JOCのスポーツ環境保全、啓発・実践活動について報告する板橋委員長

熱心に講師の話を聞く出席者

また、全日本スキー連盟は「I LOVE SNOW」キャンペーンを始動し、夢・感動・絆・健康の中で自然と共生していこうというスローガンを掲げて活動。約10万人の全日本スキー連盟会員全員がチームマイナス6％に登録し、自然の恩恵を受けてスポーツをしているということを感じてもらえるように努力をしている。2009年3月に猪苗代で開催されるFISフリースタイルスキー世界選手権大会は、スキー界初となるカーボン・オフセットの世界選手権を開催予定。「自然環境に対しての配慮を、一歩一歩地道に進めていきたい」と話した。

◈「カーボン・オフセット」の重要性

続いて、環境省地球環境局地球温暖化対策課国民生活対策室長の染野憲治氏は、今年注目すべきニュースとして「2007年の温室効果ガス（二酸化炭素等）の大気中濃度が過去最高を記録した」ことに触れ、年々数値は悪くなっており削減目標の達成が容易でないとした上で、「カーボン・オフセット」の重要性を唱えた。さらに、今後のスポーツ界と連携する活動として、二酸化炭素排出量の把握のため、競技施設内や競技施設外での電気・燃料・水・廃棄物・移動手段等での排出量の調査をしたいと各競技団体に協力を要請した。

また、東京オリンピック・パラリンピック招致本部招致推進部参事（運営計画担当）の保坂利明氏より、現在、2009年2月にIOCに提出する立候補ファイル作成の最終段階であることが報告され、東京大会では環境負担の最小化を目指した、世界初のカーボンマイナス・オリンピックを実現させるというプランが発表された。

最後に板橋委員長は、「出席者の方々は、本日のセミナーでIOCあるいはJOCにおける環境活動のさまざまな動き、各競技団体の活動状況も知ることができた。ここで得た情報や知識をそれぞれのＮＦにフィードバックし展開することで、スポーツ界における環境活動が少しでも前進するよう、ご協力をお願いしたい」と締めくくった。

■出席者一覧

所属先	氏名
(財)日本オリンピック委員会	水野正人
	市原則之
	板橋一太
	平松純子
	佐野和夫
	朝倉正昭
	伊藤晃
	鎌賀秀夫
	土田忠
	橋爪功
	山口香
	山本征悦
	岩崎恭子
	黒岩敏幸
	阿武教子
(財)日本陸上競技連盟	石上敬久
	瀬戸邦宏
	斉藤文子
(財)日本水泳連盟	小川知伸
	齋藤由紀
	有久暢
(財)日本サッカー協会	玉利聡一
(財)全日本スキー連盟	村里敏彰
	宮沢賢一
(財)日本テニス協会	森本健一
(社)日本ボート協会	清水一巳
	竹内麻記子
(社)日本アマチュアボクシング連盟	荒木健
(財)日本バレーボール協会	小田桐隆司
	斉藤聖二
(財)日本バスケットボール協会	羽角国広
(財)日本アイスホッケー連盟	建部彰弘
	細谷妙子
(社)日本ウエイトリフティング協会	岡本実
(財)日本ハンドボール協会	兼子真
	家永昌樹
	羽田裕一
(財)日本自転車競技連盟	志摩謙治
(財)日本ソフトテニス連盟	柳下秋久
(財)日本卓球協会	佐藤勲
(財)全日本軟式野球連盟	大山則夫
	吉田麻実
(社)日本馬術連盟	土橋武雄
	矢作直也

所属先	氏名
(社)日本フェンシング協会	藤原義和
(財)全日本柔道連盟	坂本健司
(財)日本ソフトボール協会	鈴木征
(財)日本バドミントン協会	本多修治
(社)日本ライフル射撃協会	塚越ゆかり
(財)日本ラグビーフットボール協会	児玉隆一郎
(社)日本山岳協会	松隈豊
(社)日本カヌー連盟	岩上禎宏
(社)全日本アーチェリー連盟	穂刈美奈子
(社)全日本銃剣道連盟	佐藤吉紀
(社)日本クレー射撃協会	大江直之
全日本アマチュア野球連盟	柴田穣
(社)日本トライアスロン連合	松生治子
	森重寛
	鈴木信之
	中島あゆみ
(財)日本ゴルフ協会	塩田良
(社)全日本テコンドー協会	高橋秀肇
日本カバディ協会	河合陽児
ミズノ(株)	松尾比呂志
佐川急便(株)	河合雅晴
(株)日本航空	中野昌宏
	長嶺由美子
東京都東京オリンピック・パラリンピック招致本部　招致推進部	保坂俊明
	長伸彦
	木村賢一
	鈴木恵美
環境省	染野憲治
(株)博報堂DYメディアパートナーズ	川廷昌弘
	前田独平
	川嶋史章
	遠藤徳子
(株)アサツー・ディ・ケイ	渡部壮介
(株)河北新報社　東京支社	安住健郎
JOCHP・機関紙オリンピアン編集チーム	細野百子
	有留麻紀
アフロスポーツ	水谷豊
フォート・キシモト	山崎康司
JOC事務局	伊藤弘一
	山本佳代子
	秋葉将秀
	山崎貴子

Interview

啓発から実践へ。
スポーツが持つ「チカラ」を、環境保全活動に活かしていく

JOCスポーツ環境専門委員会
委員長 板橋一太

●スポーツ環境専門委員会から積極的に発信

JOCでは、2001年にスポーツ環境専門委員会を設置し、加盟団体とともに環境保全活動の啓発・実践を推進してきました。

ゴミの分別、節電、節水に努めるなど、小さなことでも出来ることから取組んでいただくよう協力を呼びかけることから始めた結果、今ではほとんどの団体が、何らかの形で環境保全活動を実施。なかには、独自の環境キャンペーンや植樹活動を行うなど、積極的に環境保全活動に取組む団体もみられるようになりました。その活動内容は、毎年、「スポーツ環境委員会活動報告書」としてまとめています。

スポーツには良い環境が不可欠です。各団体がこのことを認識し活動することにより、近年、スポーツと環境の関わりが社会的にも認知されるようになった事は、大きな成果といえるでしょう。

「雪がなければ、スキーができない」など、環境にまつわる〝スポーツ界の心配事〟には、国民の皆さんに身近に感じていただけるようなメッセージ性があると実感しています。その影響力を活かし、我々は環境保全活動を、これまでの「啓発」から「実践」へと、一歩前進させる時期にきているといえるでしょう。

●スローガンは「Think Globally Act Locally」（地球規模で考え、足もとから行動する）

JOCは、IOCが示す環境への取組みを、国内で啓発する役割を担っています。そこで、競技毎に実際的な取り組みを提示したIOC発行の『IOCスポーツと環境・競技別ガイドブック』を翻訳しました。

また、このガイドブックの概要をまとめたマニュアルを独自に制作するとともに、「Think Globally Act Locally（地球規模で考え、足もとから行動する）」というスローガンを制定しました。

環境保全に対する姿勢を明確に打ち出し、その指針に基づき実践していくことにより、我々スポーツ界から環境保全を訴えていく必要があるのです。

●出来ることから取り組み始める

では、具体的に我々は何を実践していくのか。それにはまず、自分たちが排出しているCO_2などの温室効果ガスの量を知ることです。

人間は生きている限り、さまざまな温室効果ガスを出し続けます。地球温暖化を防ぐ手段のひとつでもある「カーボンオフセット」を推進するためには、まず、スポーツ界における温室効果ガスの排出量を数値化し、次にそれを相殺できるような手立てを考えなくてはなりません。

各スポーツイベントにおける排出量を環境家計簿として記録し、その排出量に応じて、例えば冷暖房の温度調節や植樹活動を行うといった具体的な行動をとっていく。入場料の一部を植樹活動にあてたり、水力発電のための資金援助を行ったりという方法もあるでしょう。

しかし、スポーツ団体の中には資金に恵まれず、これらの活動が難しい場合も少なくありません。そういった時には、アスリートが持つ影響力を活用して社会にもっと削減努力を働きかけていただきたいと思います。

子供たちにとって、憧れのトップアスリートが行動し、発言することの影響力は非常に大きいものです。また、オリンピックで感動を与えたアスリートたちの行動は、子供たちだけでなく、広く国民の皆さんにも共感していただけるはずです。

●2016年の東京大会を機により良い環境を

2016年に東京都が開催を目指しているオリンピック・パラリンピックは、「環境」がテーマです。オリンピックという世界最大のスポーツイベントの場で、多くの人が環境について考えることによる影響は、非常に大きなものになります。

また、東京都の大会招致プランは、「10年後の東京」という行政施策とも密接につながっています。それには、オリンピック・パラリンピックを機会に植樹活動や都市空間の緑化、東京の最先端技術を駆使して大気中の有害物質であるVOC（揮発性有機化合物）の処理装置を普及化させていくなど、社会生活の改善に活用する考えが記されています。単にスポーツイベントとしてではなく、オリンピック・パラリンピックをきっかけにして、街をより良い姿に変えていくという考えは、素晴らしいことだと思います。

空気汚染や温暖化による雪不足、海岸侵食による砂浜減少などによって、スポーツ環境は年々悪化しています。今、私たちが行動をおこさなければ環境はさらに深刻化し、子供たちの世代、そしてその次の世代へと、負の遺産が受け継がれていくことになります。スポーツ界全体が、よい環境を取り戻すために出来ることを行わなければなりません。我々スポーツ関係者が行動の輪を拡げていき、仲間を募り、その活動が国民の皆さんの目に留まることで、さらに環境保全活動は拡大していくでしょう。そのために、JOCは、スポーツの持つ「チカラ」を活用し、啓発と実践という2本柱で、今後の環境保全活動を推進していきます。

4 「スポーツと環境」グリーンアクションフォーラム　開催報告

Report of The Green Action Forum

■開催概要

JOCは、2008年10月12日（日）、チーム・マイナス6%（環境省）との共催により、「“スポーツと環境”グリーンアクションフォーラム」を開催。

このイベントは、これまで加盟競技団体の協力を得て、チーム・マイナス6%（環境省）とともに行ってきた温暖化防止の啓発活動をさらに進め、全国のスポーツファンに対して、一人ひとりが生活の中で出来る温暖化防止行動の実践を呼びかけることを目的として行い、「スポーツと環境 アクション決議」を採択。

■ 名　　称：「スポーツと環境」グリーンアクションフォーラム
■ 主　　催：財団法人日本オリンピック委員会
■ 共　　催：チーム・マイナス6%（環境省）
■ 後　　援：読売新聞社
　　特定非営利活動法人東京オリンピック・パラリンピック招致委員会
■ 協　　力：Sports Graphic Number ／月刊ソトコト／
　　財団法人日本陸上競技連盟／財団法人日本水泳連盟／
　　財団法人全日本スキー連盟／財団法人日本レスリング協会／
　　社団法人日本フェンシング協会／財団法人全日本柔道連盟
■ 日　　時：平成20年10月12日(日)10：00 ～ 12：00
■ 会　　場：丸ビルホール
■ 参 加 者：本会関係者、一般、メディア　　計204名

■ プログラム：〈オープニングスピーチ〉
　日本オリンピック委員会 会長　竹田 恆和
　環境大臣　斉藤 鉄夫

〈パネルディスカッション〉
IOCスポーツと環境委員会 委員　水野 正人
JOCスポーツ環境専門委員会 委員長　板橋 一太
国連環境計画 金融イニシアチブ 特別顧問　末吉 竹二郎

〈トークセッション〉
北島 康介（日本水泳連盟）
太田 雄貴（日本フェンシング協会）
谷本 歩実（全日本柔道連盟）
キャスター　山本 浩（アナウンサー・NHK解説委員）

■決議内容

スポーツと環境 アクション決議

～この星の子供たちのため、日本のアスリートは足元から行動します～

―― この会議に集った日本のスポーツ関係者は ――

Ⅰ.

多くの仲間に日常生活における地球温暖化防止を呼びかけ、
自ら率先して「チーム・マイナス６％」の６つのアクションを実践します。

Ⅱ.

スポーツ活動における「カーボンオフセット・スポーツイベント」の実施など
地球温暖化防止対策に取り組み、東京オリンピック招致が標榜する
「カーボンマイナス・オリンピック」の実現に向けて行動します。

Ⅲ.

世界の仲間と共に、スポーツを通して人も地球も健康である
「低炭素社会」を目指します。

平成20年10月12日
スポーツと環境　グリーンアクションフォーラム
参加者一同

5 スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について

Issues regarding awareness and inplementation activities

(1)スポーツ環境委員の活動

田嶋幸三副委員長〈(財)日本サッカー協会〉…… 95
佐野和夫副委員長〈(財)日本水泳連盟〉……97
山本征悦委員〈(財)日本陸上競技連盟〉……99
橋爪 功委員〈(財)日本テニス協会〉……100
伊藤 晃委員〈(財)日本バレーボール協会〉 ……101
朝倉正昭委員〈(財)日本体操協会〉……103
平松純子委員〈(財)日本スケート連盟〉……105
鎌賀秀夫委員〈(財)日本レスリング協会〉 ……106
山口 香委員〈(財)全日本柔道連盟〉……108
土田 忠委員〈(財)日本アイスホッケー連盟〉……109
松岡修造委員〈スポーツ環境アンバサダー〉……110
別所恭一委員
〈JOC環境パートナー 佐川急便(株)〉……111

(2)各競技団体等の活動

(財)全日本スキー連盟 ……112
(社)日本ホッケー協会 ……112
(財)日本バスケットボール協会……113
(財)日本セーリング連盟 ……113
(社)日本ウエイトリフティング協会‥115
(財)日本ハンドボール協会 ……116
(財)日本自転車競技連盟 ……117
(財)日本卓球協会 ……117
(財)全日本軟式野球連盟……118
(社)日本馬術連盟 ……118
(社)日本フェンシング協会 ……119
(財)全日本柔道連盟 ……119
(財)日本バドミントン協会……120
(社)日本ライフル射撃協会……121
(財)日本ラグビーフットボール協会‥121
(社)日本山岳協会 ……122
(社)日本カヌー連盟……123
(財)全日本ボウリング協会……123
日本ボブスレー・リュージュ連盟 …124
全日本アマチュア野球連盟……125
(社)日本トライアスロン連合……125
(社)日本スカッシュ協会……126
(社)全日本テコンドー協会 ……127
日本カバディ協会 ……128
日本セパタクロー協会……128

(3)東京オリンピック・パラリンピック招致委員会の活動……129

(1)スポーツ環境委員の活動

Activities of the member of JOC Sport and Environment Commission

田嶋幸三 副委員長

(財)日本サッカー協会専務理事／環境プロジェクト・リーダー

日本サッカー協会では、「チーム・マイナス6%」「クリーンサポーター活動」の活動継続とともに、今年度は、実際に複数スタジアムの視察・調査等を実施。活動レベルの設定についての研究・議論を深めることができた。以下にJFAの活動、Jクラブの活動を報告する。

◇Jリーグ

「Jリーグ百年構想」に向けて活動する中で、ゴミ分別回収やホームタウン清掃など環境面の取り組みを継続した。また、今年度は、8都県地球温暖化防止一斉行動(エコウェーブ)を後援、2008年7月、10試合にてグリーン電力証書を活用したカーボンオフセットを実施した。

その他クラブ・トピックス

ロアッソ熊本	カーボンオフセットゲームの開催(2008年4月)
大宮アルディージャ	エコ宣言、公式サイトに特設ページ設置(2008年7月)
	エコクラブ(eco club)宣言(2008年7月)
清水エスパルス	エコブック制作・配布による啓発活動(2008年7月)
鹿島アントラーズ	環境保全・水質浄化キャンペーン(2008年8月)
名古屋グランパスエイト	カーボンオフセットチャレンジマッチ(2008年8月)
横浜FC	ストップ温暖化大作戦かながわ　最優秀賞受賞(2008年11月)
アビスパ福岡	アビスパ福岡ファミリーエコスポーツ教室(2008年12月)

◇JFA

①環境プロジェクト

- スタジアム調査活動
  (茨城県立カシマサッカースタジアム・味の素スタジアム・静岡県小笠山総合運動公園エコパスタジアム・神戸総合運動公園ユニバー競技場)
- 環境省および関係団体・外部有識者の方々と共同で、環境負荷削減ガイドラインを作成
  「スポーツの試合開催等における二酸化炭素排出量の把握及び削減のためのマニュアル（試行版)」

②JFAグリーンプロジェクト

- 全国に芝生の校庭やグラウンドが広がる活動を応援
- 「ポット苗方式芝生化モデル事業」
  都道府県サッカー協会、サッカークラブ、自治体、学校、幼稚園・保育園を対象に芝生の苗を無償提供

（50万株を2008年7月・12月にそれぞれ提供／また、日本代表戦会場においても来場者プレゼントにて配布）

③「チーム・マイナス6%」

• 従来活動に加え、2008年9月よりJFAハウスにてペットボトルキャップ回収活動を開始

④クリーンサポーター活動

〈通算活動実績〉　開催回数（94試合）－参加人数（13,098名）

過去3年の実績

年度	実施回数	参加人数			
		合計	平均	最大	該当競技会
2006年	15	2,044	136.3	296	AFCアジアカップ2007予選大会（対イエメン代表）
2007年	18	1,850	102.8	174	キリンチャレンジカップ2008（対チリ代表）
2008年	18	2,985	165.8	388	キリンカップ2008（対コートジボワール代表）

※参考;回収した紙コップは、約68万個、トイレットペーパー4.5万個分の再生に相当（2008年末時点）

佐野和夫 副委員長

（財）日本水泳連盟会長／スポーツ環境委員長

（財）日本水泳連盟スポーツ環境委員会の活動は5年目を迎え、連盟活動の一環として競技会を中心に定着し、また、環境省チームマイナス6%とのコラボレーションも、すっかり根付いた状況となっている。また、水泳3団体（本連盟および（社）日本マスターズ水泳協会、（社）日本スイミングクラブ協会）が共通認識を持って水を通した活動としても、『第1回エココンテスト』開催など、新たな側面を展開し始める事ができ、今年度さらに国際大会開催も控え身近な積極的活動を試みたい。

1. 2008年度日本水泳連盟 スポーツ環境委員会活動報告

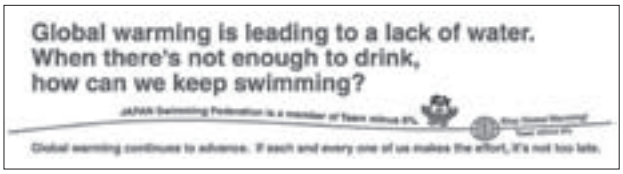
①第1回エココンテスト

本連盟のほか、関連2団体として（社）日本マスターズ水泳協会・（社）日本スイミングクラブ協会と共催し、エココンテストとして各所属団体・グループ・会員等から環境活動についての報告を受け、年間表彰を行う。このあらたな動機付けにより、さらに現場での積極的活動を推進した。

エコ活動コンテストリーフレットおよび表彰

②国際大会における英語版バナー掲示

従来の日本語横断幕やポスターに加え、国際大会におけるアピールをより一層効果的にするために、各環境グッズの英語版を作成し、参加した海外選手・役員にも、本連盟の活動への理解と協力を促進した。



環境英文横断幕

③大会プログラムや機関誌月刊『水泳』を活用しての啓発活動

本連盟主催大会のプログラムや機関誌月刊『水泳』に環境活動のPR広告を掲載し、本連盟の活動を周知し、協力を促した。

JAPAN SWIM 2008大会プログラム

JOCジュニアオリンピックカップ水泳大会プログラム

月刊水泳

プログラムにおける環境広告（見開き2ページ）

2. 2009年度「スポーツと環境」水泳からのアクションプラン

①スポーツ環境活動報告ブースの設置

本連盟の主催大会で、観客席の一角（ロビーなど）や受付エリアに、スポーツ環境委員会の活動を報告するブースを設け、役員・選手・観客などに告知する。

1）水泳連盟スポーツ環境委員会の活動や、環境アンバサダーの活動報告パネルの展示

2）エココンテスト入賞作品の展示

②インターネットを活用した啓発活動

1）本連盟のホームページ内に「スポーツ環境委員会」の特集ページを設け、スポーツ環境委員会の活動を報告する。

2）ホームページの更新の頻度をアップし、情報を発信するだけでなく情報交換の場としても、活用してもらう。

3）キャラクター「ぱちゃぽ」や環境アンバサダーからの情報発信を行う。

③広報誌の積極的な活用

本連盟機関誌月刊『水泳』や、水泳専門誌「スイミングマガジン」「SWIM」などに特集ページを組んでもらうように働きかける。

例1）環境アンバサダーがエココンテスト入賞クラブを訪ねて、その活動を報告するなど、企画ページを作成し、連盟および関連団体の活動を、メディアに積極的に紹介する。

例2）関係団体である(社)日本マスターズ水泳協会や(社)日本スイミングクラブ協会の機関誌にも同様に働きかけ、ある一定の時期（「緑の週間」や、世界環境デーなど）に、各方面で一斉に掲載される状況をつくり、インパクトある報告書とする。

（担当委員／有久 暢、齋藤 由紀）

山本征悦 委員

（財）日本陸上競技連盟事務局長

本連盟は、JAAFグリーンプロジェクトを昨年よりスタートさせ環境保全、啓発啓発・実践活動を、日本陸連として独自の「環境ポスター」と「横断幕」を主催大会で掲示し、JOCポスター「子どもたちに健やかなスポーツ環境を」も併用し啓発に努めた。

2007に開催した世界陸上大阪大会から展開されたIAAFグリーンプロジェクトを、日本陸連の環境活動の基本として継続活動するため、総務委員会総務部にJAAFグリーンプロジェクトチームを設置し、全国の主要主催大会に委員を派遣し主催者・主管陸協と一緒に「記念植樹」を実施するとともに、「チーム・マイナス6%」の会員宣言者の募集を実施し、啓発活動は年間を通して継続的に実施した。

また、本年度から記念植樹だけでなく「1本の木から林に森に」を今後の目標に「緑の募金」を募り、多くの方に地球環境保全と地球温暖化防止に陸上競技が少しでも力になれるようご協力を頂くことを願い、各大会での募金活動も開始した。今後、如何に継続し展開するかが課題である。

陸連主催の駅伝・マラソン大会では応援の小旗の廃止を提案・実行した。環境省「チーム・マイナス6%」のホームページにも陸連の活動が紹介されたが、地域によって地球環境に対する考え方に大きな差があることも実感した。今後は地域陸上競技協会等が陸上競技大会を開催するに当たり、本連盟は地球環境保全の推進を支援しながら環境活動を継続する方向に指導していく。

平成20年度グリーンプロジェクト活動競技会 報告

横断幕、陸連グリーンプロジェクト環境ポスター、JOCポスター、グリーンプロジェクト記念植樹、チーム・マイナス6%会員募集

大　会　名	場所	実施日	植樹	宣言数
長野オリンピック記念長野マラソン大会	長野県	4月19日（土）20日（日）	桜	269
2008日本選抜陸上競技和歌山大会	和歌山県	4月20日（日）	ホルトノ木	0
織田幹雄記念国際陸上競技大会	広島県	4月29日（祝・火）	八重桜	60
日本陸上競技選手権大会	神奈川県	6月26日（木）～29日（日）	しだれ桜	834
全国小学生陸上競技交流大会	東京都	8月29日（金）30日（土）		716
スーパー陸上競技大会2008川崎	神奈川県	9月23日（祝・火）		347
おおいた国民体育大会（63回国体）	大分県	10月3日（金）～7日（火）	ホルトノ木	411
ジュニアユース陸上競技選手権大会	鳥取県	10月17日（金）～19日（日）	ハナミズキ	592
ジュニアオリンピック陸上競技大会	大分県	10月24日（金）～26日（日）		133
東京国際女子マラソン記念大会	東京都	11月15日（日）		354
全国都道府県対抗女子駅伝競走大会	京都府	2009年1月11日（日）	染井吉野	
全国都道府県対抗男子駅伝競走大会	広島県	2009年1月18日（日）	欅	
びわ湖毎日マラソン大会	滋賀県	2009年3月1日（日）	桜	103
名古屋国際女子マラソン大会	愛知県	2009年3月8日（日）		70
東京マラソン2009	東京都	3月19日（木）～21日(土)	後日の予定	523

橋爪 功 委員

（財）日本テニス協会環境委員長

テニス協会に環境委員会が設立されて4年目に入り、47都道府県協会内に環境担当者が決まり各地での環境保全の活動が具体的となって前進がみられた。

1.テニス界における環境保全の調査と啓発・実践活動

（1）JTA主催14大会をはじめ、コーチャーズカンファレンス、修造チャレンジなどのジュニア合宿で環境バナーやポスターの掲出、写真撮影を実施した。

（2）昨年に引き続き環境省、JOCとともに「チームマイナス6%」活動の一環として横断幕の掲出と「イザワクリスマスオープン」と「全日本室内選手権大会」で、プログラム広告を実施した。

（3）テニスの日の全国共同イベントとして、各テニス団体の協力の下、47都道府県の会場でイベント終了後「クリーンアップ大作戦」を実施したが、この新しい取り組みはその後のアンケートでも好評だった。また「テニスdeエコ」のキャッチフレーズは、3週間にわたるイベント（テニスの日、東レパンパシフィックオープン、AIGオープン）での環境保全活動で使用された。

2.都道府県協会との連携では、テニスの日の啓発活動、「クリーンアップ大作戦」や「環境だより」の発信を通じて前進しつつある。

3.啓発・実践活動の一環として、地球温暖化阻止をテーマとした「リボンマグネット」を制作して「全国レディース」と「全日本選手権大会」で100枚を販売した。

4.JOC主催の「スポーツ環境委員会」、「地域セミナー（広島）」「スポーツ環境担当者会議」などに各担当者が出席し、情報の共有と交流を深めることができた。

伊藤 晃 委員

（財）日本バレーボール協会執行役員/環境委員長

昨年度までは、JVA主催大会でのメッセージバナー、大会プログラム広告による加盟団体、全国大会開催地での啓発活動を主体に活動して来たが、今年度も引き続き全国大会での啓発活動を行うと共に、何か新しいことを手がけていかなくてはと、（財）日本バレーボール協会評議員70名を環境委員に指名し、加盟団体、全国各地でより細かく環境の重要性を浸透させてもらうため、大会の挨拶にはバレーボール協会として環境への取り組みをお話しに入れてもらい、大会では「ゴミを出さない」を合言葉に進めてもらった。 インドアーでは「CO2削減にみんなが手を挙げれば　温暖化はブロックできる」、ビーチには「海面上昇で砂浜が消える　温暖化は私たちのコートを奪う」のメッセ―ジバナーのもと、温暖化ストップの掛け声を挙げ、選手、役員、観客の協力のもと、啓発活動、実践を進めてきた。

1. JVA主催大会における、メッセージバナーによる加盟団体、全国各地への啓発活動

以下それぞれの大会での、メッセージバナーの展示による、加盟団体役員・選手、全国各地の観客への啓発、また各大会プログラムに環境広告のページを入れる事を必須にし、関係者にアピールした。大会当日は、役員を中心に「ゴミを出さない」運動を実施。

	競技会名	開　催　期　間	都道府県	開催地
【9人制】				
1	第60回全日本実業団女子選手権大会	7/4(金)～7/7(月)	和歌山	和歌山市
2	第61回全日本実業団男子選手権大会	7/11(金)～7/14(月)	愛知	名古屋市
3	第28回全日本クラブカップ女子選手権大会	7/31(木)～8/3(日)	長野	大町市
4	第28回全日本クラブカップ男子選手権大会	8/7(木)～8/10(日)	福井	福井市
5	第7回全国社会人男子　優勝大会	10/16(木)～10/19(日)	福岡	北九州市
6	第7回全国社会人女子　優勝大会	10/16(木)～10/19(日)	沖縄	那覇市
7	第78回全日本総合男子選手権大会	11/20(木)～11/23(日)	山口	山口市
8	第77回全日本総合女子選手権大会	11/21(金)～11/24(月)	山梨	甲府市
9	第7回スーパー9・オールスターズ・フェスティバル	12/11(木)～12/14(日)	北海道	釧路市
【6人制】				
1	第57回黒鷲旗 全日本男女選抜大会	5/1(木)～5/6(火)	大阪	大阪市
2	第41回全日本実業団男女優勝大会	7/11(金)～7/14(月)	沖縄	那覇市
3	第28回全日本クラブカップ男子選手権大会	7/31(木)～8/3(日)	奈良	大和郡山市・桜井市・香芝市
4	2008東西インカレ男子王座決定戦	7/25(金)～7/27(日))	茨城	つくば市
5	第61回 全日本高校女子選手権大会	8/2(土)～8/6(水)	埼玉	川越市

	競技会名	開　催　期　間	都道府県	開催地
6	第 61 回 全日本高校男子選手権大会	8/6(水)～8/10(日)	埼玉	所沢市
7	第 28 回全日本クラブカップ女子選手権大会	8/7(木)～8/10(日)	大阪	大阪市
8	第 35 回 全国高等学校定時制・通信制大会	8/8(金)～8/12(火)	神奈川	平塚市
9	第 28 回全日本小学生大会	8/12(火)～8/15(金)	東京	東京
10	第 38 回全日本中学校選手権大会	8/21(木)～8/24(日)	石川	金沢市
11	第 43 回 全国高等専門学校体育大会	8/22(金)～8/24(日)	北海道	苫小牧市
12	第 11 回全国ヤングクラブ交流大会	9/20(土)～9/21(日)	大阪	大阪市・門真市
13	第 61 回スーパーカレッジ　男子大学選手権大会 第 55 回スーパーカレッジ　女子大学選手権大会	12/1(月)～12/7(日)	東京他	東京他
14	第 11 回全日本男女学生選抜・東西対抗戦	12/13(土)～12/14(日)	東京	東京
15	第 22 回全国都道府県対抗中学大会	12/25(木)～12/28(日)	大阪	大阪市・貝塚市
16	第 29 回 地域選抜リーグ	1/10(土)～3/1(日)		全国各地
	〃　　プレーオフ	3/14(土)～3/15(日)	東京	東京
17	第 40 回　全国高等学校選抜優勝大会	3/20(金)～3/26(木)	東京	東京
18	平成 20 年度　天皇杯・皇后杯 全日本 6 人制バレーボール選手権大会 ブロックラウンド セミファイナルラウンド ファイナルラウンド	 9月～10月 12月 12/21(日)～12/23(火)	 神奈川 神奈川	 全国各地 川崎市 川崎市

特に12月天皇杯皇后杯ではコートサイドに2枚の温暖化ブロック看板を挙げアピール、プログラムにも温暖化防止の広告を掲載した。

2. 国際大会「2008北京オリンピックバレーボール世界最終予選」『ワールドリーグ2008』『ワールドグランプリ2008』での啓発活動

2008北京オリンピックバレーボール世界最終予選が5月17日～ 25日女子、5月31日～ 6月8日男子大会が休みを入れ14日間の長期に渡り東京体育館で行われ、男・女共オリンピック出場権を獲得、非常に盛り上がった。テレビも14日間ゴールデンタイムで放映、会場にメッセージバナーの展示、大会プログラムに温暖化防止の広告を掲載し、多くの観客をはじめ、選手、役員に啓発活動をアピール。特に大会役員には、ゴミを出さない、ゴミを最小限にを合言葉に活動、ワールドリーグ2008、6月28・29日東京大会、7月5・6日愛知大会、7月19・20日大阪大会、ワールドグランプリ2008、7月9日～ 13日横浜決勝大会でも、同様の活動を行った。

来年度も今年度同様、日本バレーボール協会主催大会でのメッセージバナーの展示、プログラムでの掲載を必須に、ビーチ、国際大会を含め啓発活動を行いたい。また各全国連盟、各都道府県にも評議員を中心にきめ細かい活動を広く浸透させ、啓発から実践へ全国的に行いたいと思っている。

朝倉正昭 委員

(財)日本体操協会理事／環境委員長

二酸化炭素（CO2）や大気汚染物質など温室効果ガスの排出削減を定めた京都議定書から12年、世界各国もそれぞれ排出削減目標や、それを達成するための削減量に取り組んでいる。日本も「90年比でマイナス6%」「50年までに現状から60 ～ 80%減」の削減目標に努力しているが、目標達成は危うい状況にある。我々スポーツ界においても、1990年代に入りスポーツにおける環境保護と地球温暖化防止活動が取り上げられ、日本でもIOC・JOC・環境省の指導の下、各スポーツ団体に環境委員会を設置し、いろいろな形で地球温暖化対策に取り組んでいる。

この中、日本体操協会でも2003年より環境委員会を設置、各競技大会や催事などで温暖化防止キャンペーンの横断幕を会場に掲示したり、アナウンスによる啓発活動、並びに独自の実践活動に取り組んでいる。

●活動内容

1. 加盟団体に対する環境啓発横断幕設置の協力依頼

各種大会やイベントにおいて、それぞれの加盟団体や主管団体が横断幕（3種類）やポスターを掲揚し、環境への取組みをアピールした。

月　日	種別	主な大会名	会　場	活動母体
4/12～13	体	第29回オリンピック体操競技第二次選考会	代々木第一体育館	環境委員会
5/5～6	体	第29回オリンピック日本代表決定競技会	岡山・桃太郎アリーナ	環境委員会
5/23～25	新	第6回全日本新体操ユースチャンピオンシップ	代々木第一体育館	新体委員会
8/1～2	新	全国総体（新体操）	埼玉・県立武道館	高校体連盟
8/6～8	体	全国高校総体（体操競技）	埼玉・熊谷ドーム	高校体連盟
8/12～17	体	全日本ジュニア体操競技選手権大会	横浜文化体育館	ジュニア連盟
8/18～20	体	第39回全国中学校体操競技選手権大会	長野・真島スポーツアリーナ	中学体育連盟
8/29～31	新	第18回全日本新体操クラブ選手権大会	東京体育館	新体操連盟
8/31～9/2	体	第62回全日本学生体操競技選手権大会	埼玉・熊谷ドーム	学生体連盟
9/5～7	新	第60回全日本学生新体操選手権大会	神奈川・海老名総合運動公園体育館	学生体連盟
9/12～14	新	第8回全日本新体操クラブ団体選手権	東京体育館	新体操連盟
9/13～15	体	全日本社会人体操競技選手権大会	福井・鯖江市総合体育館	社会人連盟
9/28～10/1	新体	第63回国民体育大会（新体操・体操競技）	大分・別府市	環境委員会
10/10～12	新	イオンカップ世界新体操クラブ選手権大会	東京体育館	新体操連盟
10/18～19	新	第26回全日本ジュニア新体操選手権大会	代々木第一体育館	新体委員会
10/31～11/2	体	第62回全日本体操競技選手権大会	新潟・リージョンプラザ	環境委員会
11/1～2	一	2008　日本体操祭	代々木第二体育館	一般体委員会
12/5～7	新	第61回全日本新体操選手権大会	千葉ポートアリーナ	環境委員会
2/27～3/1	新	第11回全日本新体操チャイルド選手権	東京体育館	新体操連盟

月　日　種別	主な大会名	会　場	活動母体
5月～12月	ワールドカップ、全日本選手権大会　他	大阪、北海道、山形、他	トランポリン

体：体操競技　新：新体操　一：一般体操

2.「チームマイナス6%」の環境啓発横断幕を9ブロック体操協会に各1枚を、またJOC作成の環境啓発ポスター 3枚を配布し、各ブロック大会並びに県大会等で掲示し、地方における啓発と実践活動を行った。

3. 各大会において、「地球温暖化防止」の啓発について以下のアナウンスを実施

『日本体操協会は、地球温暖化防止活動「CO2削減・チームマイナス6%」に参加しています。地球温暖化が、このまま続けば、やがてスポーツ活動どころではなくなる時代が訪れることを真剣に心配しているからです。私達の魅力ある体操競技・新体操を、これからも継続し、後世に楽しんでもらうため、私達は普段の日常生活の中でも環境問題を認識し、今後も更に、地球温暖化防止啓発活動に取り組んでまいります。皆様も、是非、ご協力ください!!』

4. 炭酸マグネシュウム対策（体操競技）

①炭酸マグネシュウム容器を地球型に改良（セノー株式会社様のご協力による）し、粉が外部に粉塵化することを最小限に抑えることに成功した。

②炭酸マグネシュウムの固形化を進めるため、外国の品を収集し、業者と選手の意見を元に固形化開発研究に取り組んでいる。

5. 各競技会での速報用紙等の「紙2割節減」への協力依頼（体操競技・新体操・トランポリン）

大会速報のモバイルサイト掲載を実施、その他用紙節減の工夫を求め、各大会毎で用紙節減を実現した。また事務局内でもFAX送信を電子メール送信に変更し、紙の節約に取組み始めた。

6. 各競技会場でのゴミ分別収集への協力依頼

体操競技・新体操・トランポリンの競技会場で「ゴミ分別への協力」をアナウンスしているが、競技会場は飲食物持込禁止の為か、ゴミの量はわずかではあるが、積極的にゴミ分別に協力して頂いている。

7. 各加盟団体並びに各都道府県組織における「環境委員会」設置の推進

JOCスポーツ環境委員会の指針のもと、地球温暖化防止活動を更に推進するためには、それぞれの加盟団体に「環境委員会」の設置を更に具体化し、それぞれが主体的に温暖化防止活動に取り組む姿勢が求められる。設置方の推進を更に力を入れたい。

8. 環境アンバサダー（塚原光男氏協会副会長）の環境保全活動の推進

JOCスポーツ環境委員会やJOC行事等において、環境保全啓発活動にご協力いただいている。

◎今後の課題と目標

1. 炭酸マグネシュウムの早期固形化の実現を目指しているが、研究開発はまだまだの状況にある。
2. 各加盟団体並びに各都道府県組織における「環境委員会設置」と温暖化防止対策への各団体の主体的取組み活動の推進をはかる。
3. 各大会参加選手の温暖化防止活動への実践活動とキャンペーンへの協力を更にお願いする。

平松純子 委員

（財）日本スケート連盟フィギュア委員

（財）日本スケート連盟にスポーツ環境委員会の組織が立ち上がってから5シーズンが経過した。

昨シーズンは、主要国内大会や、日本国内で行われた国際競技大会にスポーツ環境担当委員を設け、よりきめ細かい啓発、実践活動に努めた。

主要国内大会

大会名	会期
SBC杯第15回全日本スピード距離別選手権大会	2008年10月24日～ 26日
JOCジュニアオリンピックカップ 第77回全日本フィギュアジュニア選手権大会	2008年11月23日～ 24日
第77回全日本スピード選手権大会	2008年12月17日～ 18日
第32回全日本ショートトラックスピードスケート選手権大会	2008年12月20日～ 21日
第77回全日本フィギュアスケート選手権大会	2008年12月25日～ 27日
第35回全日本スプリントスピードスケート選手権大会	2008年12月28日～ 30日
JOCジュニアオリンピックカップ 第32回全日本ジュニアスピード選手権大会	2009年1月9日～ 12日

日本開催国際大会

大会名	会期
2008NHK杯国際フィギュアスケート競技大会	2008年11月28日～ 30日
2008/2009ショートトラックワールドカップ長野大会	2008年12月5日～ 7日
2008/2009ワールドカップスピードスケート長野大会	2008年12月13日～ 14日
ISUフィギュアワールドチームトロフィー 2009	2009年4月15日～ 19日

上記大会の各会場、並びに第64回国民体育大会冬季大会スケート競技会においてもスポーツ環境ポスターの掲示を行った。

また、3Rの推進では、

リデュース：エネルギーや資源を大切にするため、大会でも電力消費量、印刷物の削減、プロトコールなどのDVD化などを実施して紙の使用量を減らす事に努めた。

リユース：紙の再利用、競技役員が大会中使用する紙コップなどは名前を書いて再使用することなどを促した。

リサイクル：ごみの分別の徹底により新しい資源を生み出す事への手助けの推進を行った。

今後の課題、目標としてスケート連盟の全員がスポーツと環境問題、保全に対してより積極的に取り組んで行きたいと思っている。

鎌賀秀夫 委員

（財）日本レスリング協会スポーツ環境委員長

1.会場における環境保全啓発活動

	競技会名/開催地	開催日	参加数	備考
1	ジャパンビバレッジ杯 全日本女子選手権大会 東京都世田谷区・駒沢オリンピック公園 総合運動場体育館	平成20年 4月5～6日	143団体 469名	横断幕、プログラム掲載 ポスター掲示
2	JOCジュニアオリンピックカップ 2008年度全日本ジュニア選手権大会 神奈川県横浜市・文化体育館	平成20年 4月22～23日	1,125名	横断幕、ポスター掲示
3	2008年東日本学生リーグ戦 東京都世田谷区・駒沢オリンピック公園 総合運動場体育館	平成20年 5月8～11日	36大学	横断幕、ポスター掲示
4	沼尻杯 全国中学生選手権大会 茨城県水戸市・県立スポーツセンター	平成20年 6月25～26日	259学校 412名	横断幕、ポスター掲示
5	平成20年度全日本選抜選手権大会 東京都渋谷区・国立代々木競技場第二体育館	平成20年 6月25～26日	136名	横断幕、プログラム掲載 ポスター掲示
6	第25回全国少年少女選手権大会 北京オリンピック代表選手壮行会 東京都渋谷区・国立代々木競技場第一体育館	平成20年 7月25～27日	177クラブ 1,563名	横断幕、プログラム掲載 ポスター掲示 パンフレットの配布
7	平成20年度全国高等学校総合体育大会 三笠宮賜杯 第55回全国高等学校選手権大会 埼玉県東松山市・大東文化大学東松山校舎 総合体育館	平成20年 8月1～4日		横断幕、ポスター掲示
8	第13回関東幼児会 千葉県鎌ヶ谷市・鎌ヶ谷市民体育館	平成20年 8月17日	18クラブ 83名	横断幕、ポスター掲示
9	女子レスリング世界選手権2008 東京都渋谷区・国立代々木競技場第一体育館	平成20年 10月11～13日	41カ国・地域 145名	
10	国際レスリング連盟世界女子コーチクリニック 東京都北区・ナショナルトレーニングセンター	平成20年 10月15～18日	15カ国・地域 88名	ポスター掲示
11	天皇杯 平成20年度全日本選手権大会 東京都渋谷区・国立代々木競技場第二体育館	平成20年 12月21～23日	282名	横断幕、プログラム掲載 ポスター掲示
12	第21回少年少女レスリング選手権大会 東京新宿ライオンズクラブ旗争奪戦 東京都新宿区・スポーツ会館	平成21年 2月11日	32クラブ 244名	横断幕、プログラム掲載 ポスター掲示
13	カレリン・アレキサンドル氏のレスリング指導 東京都北区・ナショナルトレーニングセンター	平成21年 1月29日	77名	
14	第13回全国少年少女選抜東京大会 東京都渋谷区・国立オリンピック記念 青少年総合センター	平成21年 3月7～9日	87クラブ 343名	横断幕、プログラム掲載

2.機関誌・大会プログラムでの啓発活動／ JOCポスター、環境省ポスター

	大会プログラムに掲載した競技会		
1	ジャパンビバレッジ杯 全日本女子選手権大会	5	天皇杯 平成20年度全日本選手権大会
2	平成20年度全日本選抜選手権大会	6	第21回少年少女レスリング選手権大会
3	第25回全国少年少女選手権大会	7	第13回全国少年少女選抜東京大会
4	女子レスリング世界選手権2008		

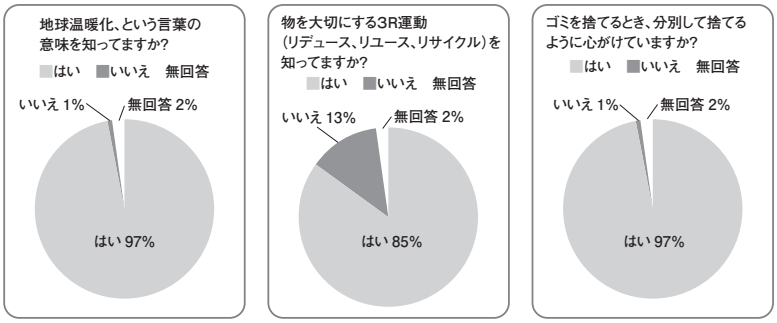
※協会機関誌、春、夏、秋、冬号へ掲載

3.大会での啓発活動

1)シニア女子世界選手権大会

IOCやJOCが環境問題の啓発活動を何故始めたか、その経緯と国内の競技団体や当協会の活動内容を写真パネルなどで紹介するブースを会場内に設けた。また、環境省の「チームマイナス6%」のチーム員募集コーナーや環境省キャラクターチーム員であるPINGUコーナーを設置し、選手・役員、そして会場入場者に啓発活動を行った。

2)アンケート調査／全国少年少女選抜東京大会選手権出場者、小学4～6年生343名を対象に行った。



2008年度調査結果

3)イラストを募集

ローカル大会ではあるが、環境に関するイラストを募集する。優秀作品は大会プログラムの表紙に掲載すると共に、応募作品全てをプログラムに掲載した。また、大会の際に来場者が応募作品を見ることができるよう会場内に掲示した。

4.本年度のまとめ

本年度は、協会が主催する大会に加え、協会の傘下団体が主催する大会での啓発活動へと徐々に広がってきたと思える1年であった。また、東京オリンピック招致活動の一環として開催された、シニア女子世界選手権大会での啓発活動では、会場入場者、選手・役員に対して、日本のスポーツ界の環境活動の取り組みなど、写真パネルを展示して見てもらったことは、新しい啓発活動の方法であり、機会があれば大会やイベントで行いたいと思う。

大会を通じて環境保全の啓発活動がどの程度浸透しているか、活動の実践経験や意識について、都道府県協会や傘下団体の皆さんを対象にしたアンケート調査を行う予定であったが、実施に至らず、不本意な点もあった。来年度は必ず実施したいと思う。

個人的な意見ではあるが、各競技団体の実例が記載されている「スポーツ環境委員会報告書」は、活動のためのバイブルと言っても過言ではないと思う。特に日本水泳連盟の取り組みは、目を見張る内容で、毎年新しい活動が紹介されている。追いかけても、追いかけても、背中が見えてこない。団体毎の違いはあると思うが、この報告書を参考に来年度も活動していきたい。

山口 香 委員

（財）全日本柔道連盟国際委員／柔道ルネッサンス委員

財団法人全日本柔道連盟は、地球規模での環境問題の重要性を認識し、柔道にかかわるすべての人々（役員、選手、指導者、大会スタッフ、観客の方々など）に環境についての啓発活動を実施した。連盟の中に環境委員会は設けていないが、柔道ルネッサンス委員会（柔道の教育的側面を見直し、人間教育を実践してくプロジェクト）を中心に、大会会場でのマナー、社会的な責任などの呼びかけを行ってきた。屋内競技であることや、シーズンスポーツでないために、自然の影響を受けにくいために、どのような形で関係者にアプローチしていけば効果的か、柔道界でできることは何なのか、未だに手探りの状態での活動ではあるが、日本柔道が競技においても環境活動においても世界の模範的な役目を果たし、リードしていけるよう今後も努力したい。

●20年度に行った環境保全・啓発活動

以下の大会において、環境保全・啓発活動を実施した。具体的には、会場でのバナー・ポスターの設置、ゴミの分別、ゴミ軽減の呼びかけなどである。

- 全日本選抜柔道体重別選手権大会（4月5～6日　福岡国際センター）
- 皇后杯全日本女子柔道選手権大会（4月20日　横浜文化体育館）
- 全国少年柔道大会（5月5日　日本武道館）
- 全日本ジュニア柔道体重別選手権大会（9月13～14日　埼玉県立武道館）
- 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会（11月15～16日　千葉ポートアリーナ）
- 嘉納治五郎杯東京国際柔道大会（12月12～14日　東京体育館）

●今後の課題と目標

- 会場でのバナーやポスターの設置、ゴミの分別などについては地道な啓発活動を継続して実施していく。
- これまではシニアの大会を中心に活動を行ってきたが、子どもやジュニアの大会や地方の大会においても実施していきたい。
- 年度ごとのキャッチフレーズや目標を掲げ、成果が見えるような活動をしていきたい。

土田 忠 委員

（財）日本アイスホッケー連盟環境委員長

本連盟は今年度より地球環境問題を更に積極的に取り組むため、環境省の「チームマイナス6%」へ参加することになり、環境保全への啓発活動に加え具体的な実践活動をスタートした。

今年度の主たる国内・国際大会での環境啓発活動

期　間	大会名	会　場	活動内容
2008年9/20～ 2009年3/23	2008～2009アジアリーグ	東京、苫小牧、釧路、日光他	横断幕、ポスター パンフレット
2008年12/21～30	第32回東京都秋季少年大会	東京（Dydoドリンコアイスアリーナ）	横断幕、ポスター パンフレット
2009年1/28～2/1	第63回国民体育大会　表彰式	東京都大会議場	横断幕、ポスター パンフレット
2009年1/28～2/1	第64回国民体育大会	青森（新井田インドアリンク、南郡山アイスアリーナ、ふくちアイスアリーナ）	横断幕、ポスター パンフレット
2009年2/9～15	第76回全日本選手権	東京（Dydoドリンコアイスアリーナ） 横浜（新横浜スケートセンター）	フェンス広告、プログラム広告、横断幕、 ポスター
2009年3/12～15	第28回全日本女子選手権（A）	横浜（新横浜スケートセンター）	横断幕、ポスター パンフレット
2009年4/11～12	第14回全日本オールドタイマー選手権	帯広（帯広の森アイスアリーナ）	横断幕、ポスター パンフレット
2009年4/4～29	関東大学リーグ戦	東京（Dydoドリンコアイスアリーナ）	横断幕、ポスター、 パンフレット
2009年4/28～5/5	第11回ピーウィー国際大会	八戸（新井田インドアリンク、 南部山アイスアリーナ）	横断幕、ポスター パンフレット

今後全国都道府県連盟でのスポーツ環境委員会の組織作りを行い、全体としてスポーツと環境の問題に対して、より積極的に取り組んでいきたい。

エコプロジェクトの一環として作成したリユースカップ

松岡修造 委員

JOCスポーツ環境アンバサダー
（財）日本テニス協会理事待遇／環境委員

〈修造チャレンジトップジュニアキャンプ〉開催時に、会場内におけるポスター掲出や横断幕の提示、ゴミの分別など啓発活動を積極的に行った。

■修造チャレンジ開催概要

日程	対象	会場
2008年 10月14日（火）～ 19日（日）	松岡修造とJTAナショナルチームに選抜された14歳以下の男子ジュニア選手18名 （前半と後半に分けて開催）	荏原湘南スポーツセンター
2009年 3月10日（火）～ 13日（金）	松岡修造とJTAナショナルチームに選抜された15歳以下の男子ジュニア選手13名	ナショナルトレーニングセンター

●2008年10月

●2009年3月

別所恭一 委員

JOC環境パートナー
佐川急便株式会社 理事

1.「スポーツ発電リレー」

オリンピックデーランにおいて「スポーツ発電リレー」を開催。普段何気なく使っている電気を自分で発電するためにはどれだけの労力が必要かを伝え、省エネの重要性を伝えるために来場者に自転車発電を体感いただいた。

【スポーツ発電リレー参加者数と発電量（2008年度実績）】

開催日	大会名	参加者数	発電量	※参考 CO2 換算
2008.5.18	デーラン大阪大会	520 人	670.16Wh	253.32
2008.6.29	デーラン青森大会	264 人	267.91Wh	101.27
2008.9.28	デーラン士別大会	106 人	102.67Wh	38.81
2008.10.13	オリンピックフェスティバル	500 人	530.00Wh	200.34
2008.10.26	デーラン神戸大会	220 人	206.80Wh	78.17
2008.11.2	デーラン長野大会	260 人	173.00Wh	65.39
2008.11.16	デーランひたちなか大会	200 人	248.00Wh	93.74
2008.12.7	デーランさいたま大会	180 人	212.400Wh	80.29
2009.3.15	デーラン宇和島大会	230 人	246.20Wh	93.06
2009.3.22	デーラン鳥取大会	215 人	227.10Wh	85.84
合計		2,695 人	2,884.24Wh	1,090.2

2. 北京オリンピック

北京オリンピック開催期間中は、現地のジャパンハウスにブースを設置。オリンピックデーランで寄せられた日本代表選手団への激励メッセージを掲示するとともに環境啓発活動を実施した。

3. 社外環境イベント

広く一般に環境保全活動を推進していくため、地方自治体や省庁、団体が主催する環境イベントにも出展し、消費者に向けた環境啓発活動を実施。また、佐川急便の環境保全活動の紹介とともに、JOCの環境オフィシャルパートナーとしての取り組みも紹介した。

イベント名	開催日	開催場所	主催
エコライフ・フェア 2008	6月7日～8日	都立代々木公園	環境省 他
エコプロダクツ 2008	12月10日～12日	東京ビッグサイト	日本経済新聞社　他

(2) 各競技団体等の活動

Activities of the JOC affiliated NFs and organizations

(財)全日本スキー連盟

近年の温暖化による雪不足やスキーシーズンの短縮で、厳しい状況を強いられている中、(財)全日本スキー連盟 (SAJ) は、最も自然環境に対して敏感でなければならない団体であり、環境保全活動を行うことはスキーヤーにとって義務であると考える。その考えのもと、当連盟では、2005年から次世代の子ども達や多くの人々に「雪を通じた感動的な体験」、「親子の絆を深める機会」、「自然に対する感謝を表す活動」、「健康や楽しみを得るための機会」を提供する「I LOVE SNOW キャンペーン」を展開し、多くの環境保全に関する啓発活動を今まで展開している。

具体的には、以下の活動を継続している。

1. SAJ会員10万人に対して、チーム・マイナス6%への加入促進活動
2. SAJ加盟団体及び公認スキー学校への「I LOVE SNOW キャンペーン」ステッカー配布による環境保全に関する啓発活動
3. 「FUN FESTA」や「感謝の夕べ」といったイベントを開催し、出演選手から来場者やマスメディアに向けての環境保全メッセージの発信
4. 「I LOVE SNOW キャンペーン」ホームページを開設し、選手からの「自然との共生」メッセージの発信
5. 全日本選手権、インターハイ等の大会時にバナーを掲示し、出場者やスキー場来場者に対して環境保全に関するメッセージの発信
6. 3万人を集めるスキー情報発信イベントに出展し、ステッカー販売等を通して一般スキーヤーに対して環境保全に関する啓発活動

また、2009年3月のFISフリースタイルスキー世界選手権猪苗代大会では、「自然との共生」が大会理念に掲げられ、スキー競技で初めて「カーボンオフセット」の大会が開催され、出場選手が着用するビブ(ゼッケン)には、「ストップ温暖化　チーム・マイナス6%」のメッセージが印刷された。本大会では、上村愛子選手の二つの金メダル獲得をはじめとした日本選手の活躍が大きく報道され、スキー界全体が環境保全に取り組んでいることがアピールできた。

今後もSAJは、すべてのスキーヤーと共に環境保全に取り組んでいく考えである。

スポーツ環境委員長　村里 敏彰

(社)日本ホッケー協会

当協会は主管連盟に依頼し、啓発・実践活動を行った。活動の一環として、全国大会会場にスポーツと環境の横断幕の掲揚、ポスターの掲示を行った。

今後も全国の方々に広めていけるように、より多くの啓発・実践活動を考えている。

（財）日本バスケットボール協会

平成20年9月に新役員および担当職務が決まり、急ぎ、国内バスケットボール界最大のイベントである全日本総合選手権大会（平成21年1月開催）の準備に掛かったが、新任の役員ばかりで手間取り、充分な準備が出来ないまま開催することになった。環境活動についても何から手を付けて良いか判らない状況であったが取り敢えず横断幕を作り会場内に掲げ、大会プログラムに環境への取組みを掲載した頁を設け、協会としての環境への取組みの決意を表すことにした。

また、傘下団体の一つの日本バスケットボールリーグ（JBL）については「GREEN ACTION！JBL」と銘打ち、“チーム・マイナス6%”と協働、「地球温暖化問題」にリーグ・チーム・選手が一体となり取組み、試合会場にJICAブースを設置する等、啓発活動を継続して推進している。

1. シーズンの中間に行っているオールスター戦（H20/12/23）は、今年度の開催地である宇都宮市が勧めている「もったいない運動」とのコラボレーションを行い、ハーフタイムには福田栃木県知事、佐藤宇津宮市長にもご挨拶を頂き、市民の皆さんと一緒に実践啓発活動を行った。
2. レギュラーシーズン上位4チームで行われたプレーオフにおいては、会場内へのロゴ掲出に留まらず、入場者への“チーム・マイナス6%”チーム員登録勧奨（6日間・1,551名登録）、場内アナウンス、TV中継番組内で環境への取組みを紹介する等、立体的なPR活動を実施した。

平成21年度以降については、協会組織の特別委員会の中に木内専務理事を委員長とした「環境委員会」を設けた。今後、各競技団体の活動を手本にさせて頂き、傘下団体と協同で啓発活動を活発化するよう努力していきたい。

（財）日本セーリング連盟

（財）日本セーリング連盟（JSAF）では、平成16年度から「残したいのはきれいな海」というスローガンを掲げて環境キャンペーンを展開してきた。このキャンペーンは、きれいな海を未来世代に残すために「海ゴミ」を減らす行動を通じて、セーラーの環境意識を高めることを目的としている。

具体的な活動としては、環境スポンサーと各加盟団体のご協力の下、上記のスローガン入り横断幕を大会会場に掲げ、帆走指示書に「海にゴミを捨てない」ことを明記し、大会の省エネ・省資源を促進し、更に浮遊ゴミの回収とビニールゴミ削減のために木綿製のJSAFエコバッグを配布してきた。

平成20年度は、従来の活動に加え、一般のセーラーの環境意識も高めるために「海の日」を「海ゴミを考える日」と位置付け、加盟団体が主催する「海の日」イベントの参加者全員にJSAFエコバッグを配布してゴミの削減を謳った。この「海の日」環境キャンペーンは大変好評で、全国で35団体のイベントで実施した。このキャンペーンを通じて20枚の横断幕が掲げられ、4,450枚のエコバッグがゴミの回収などに使用されて実際の環境美化にも繋がった。

平成21年度からは「海の日」を「セーラーの環境デー」として、希望者を対象に環境意識の高いセーラーの証であるJSAF環境バージー（三角旗）を掲げていただくこととなった。また、将来を担う子どもたちの心を育むために、小中学生を対象として「海（水辺）とヨット（舟）」をテーマとした絵画コンテストを企画して、優秀作品については、次の年からの「海の日」環境キャンペーンのポスターの図柄としたり、その他の色々な企画に利用して行きたいと計画している。

環境委員長　岡田 達雄

『海の日』環境キャンペーン　参加団体一覧

団体名	イベント名	開催日程	配布数
徳島ヨットクラブ	海の日記念ヨット体験試乗会	7月21日	120
外洋西内海	Balcom BMW CUP 2008	7月20～21日	225
外洋南九州	鹿児島カップ火山めぐりヨットレース	7月18～23日	260
外洋北海道	「風を見よう。潮を見よう。ついでにゴミを見つけようセーリング」	7月12～27日	100
外洋西内海	第3回バルコムBMW杯	7月20～21日	300
高知県セーリング連盟	マリンフェスティバルinYasu	7月21日	75
関東420連絡会	関東420級オープンヨットレース	7月20日	20
大阪北港ヨットクラブ	天神祭奉納ヨットレース	7月20～21日	145
愛知県ヨット連盟	海陽ヨットハーバーの清掃活動	7月20日・8月17日	60
葉山マリーナヨットクラブ	第11回真鶴レース	7月20～21日	80
東京都ヨット連盟	若洲ヨット祭り	7月21日	370
和歌山県セーリング連盟	わかやまディンギーオープンレース	7月13日	50
和歌山県セーリング連盟	和歌山県知事杯レース	7月20日	75
熊本県セーリング連盟	宇土マリーナカップ	7月26～27日	110
佐賀県ヨット連盟	Clean up camping and sailing	7月21日	100
琵琶湖ヨット倶楽部	BAY CAP 第5戦	7月13日	30
宮城県セーリング連盟	ジュニア・レディースセーリング体験教室	7月20～21日	120
外洋いわき	「きれいな海を残そう」キャンペーン	7月21日	30
瀬棚の海を愛する仲間たち	海の日旬間ヨット試乗会＆ビーチクリーン	7月21日	50
鳥取県セーリング連盟	境港大漁カップヨットレース	7月20～21日	100
神奈川県セーリング連盟	葉山エメラルドセーリングカップ2008	8月17日	200
外洋津軽海峡	第21回みちのく銀行青函カップヨットレース	7月19～20日	225
山口県セーリング連盟		7月21日	370
岩手県ヨット連盟	岩手県ヨット個人選手権大会	7月20日	80
岩手県ヨット連盟	榎本武揚没後100周年記念事業「帆船あこがれ」宮古実行委員会	7月24～26日	100
富山県セーリング連盟	海竜マリーナ周辺海岸清掃	7月6日	200

団体名	イベント名	開催日程	配布数
茨城セーリング連盟	第13回泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル	7月20～21日	145
鎌倉市セーリング協会	市民ヨット教室	7月19日	35
神奈川県セーリング協会	海の日記念　相模湾江ノ島・葉山ヨットラリー	7月21日	110
横浜港ボート天国実行委員会	横浜港ボート天国	7月13日・ 8月7日	300
全日本実業団 ボードセイリング連盟	第一回実連すいかカップ	7月21日	100
兵庫県セーリング連盟	海上クリーニング	7月21日	30
北港学生ヨット連盟	第20回大阪市長杯市民ヨットレース	7月20日	35
なごやジュニアヨットクラブ	Ｂ＆Ｇヨット大会	7月19～20日	100

（社）日本ウエイトリフティング協会

当協会主催大会の審判・監督会議時に、当協会の環境保全啓発活動について説明し、出席者に環境保全を念頭に置いた競技会運営を心がけるよう呼びかけている。

全国高校総体、国民体育大会、社会人選手権大会・国体記念杯女子大会では、開催地自治体がゴミの分別収集を行った。

全日本学生連盟では、競技大会の監督・審判会議において、ゴミの分別・減量化・持ち帰りの呼びかけを常に行うとともに、清掃班を編制して3～4時間毎に競技会場トイレの清掃を行った。競技大会開催にともなう競技役員等の昼食は、大阪府羽曳野コロセアムで開催する西日本学生連盟主管の全日本学生個人選手権大会並びに全日本大学対抗選手権大会（2部）では会場内食堂の通常の食器を使用したランチメニューで、横浜市磯子スポーツセンターで開催する東日本学生連盟主管の全日本新人選手権大会・全日本大学対抗選手権大会（1部）では紙と経木でできた容器の弁当で対応し、環境への負荷軽減の配慮をしている。また、競技役員等の飲料用プラスチックカップは、その都度洗浄して大会期間中使用している。

全日本学生連盟に協力を仰ぎ、競技大会での環境保全への様々な取り組みを試み、評価し、広報することで、環境配慮の意識や環境保全への取り組みが全国の都道府県協会・競技者・競技役員に波及するよう活動している。

環境委員長／常務理事　岡本 実

全日本学生新人選手権大会で率先して
トイレ清掃をする村上智彦全日本学生
連盟委員長（法政大学）

（財）日本ハンドボール協会

全世界的な環境問題を改善していくためには、我々一人一人の自覚が不可欠である。そこで、日本協会、各都道府県協会、各連盟に「環境（専門）委員会」を設置し、啓発運動を展開してゆくこととした。

1. 総務部の中に「環境委員会」を設置した（2007/11/1より）。
2. JOCにならい日本ハンドボール協会の環境方針として、まずは5Rの推進*を決定。
3. 環境省が主導するプロジェクト「チーム・マイナス6% **」に参加し、協力・連携する。
4. 各都道府県協会、各連盟にまずは「担当」の設置を促し、専門委員会設置の準備をして貰う。
5. 環境保全の啓発活動を4の担当（又は委員会）と連携し、大会等で全国展開する。

*5Rの推進　リフューズ（Refuse：環境負荷となるものを購入しない）
リデュース（Reduce：排出量を抑制）
リユース（Reuse：排出物をそのまま利用）
リフォーム（Reform：形を変えて再利用）
リサイクル（Recycle：資源として再利用）

**「チーム・マイナス6%」のCO2削減のための6つのアクション
ACT1　温度調節で減らそう（冷房は28℃、暖房時の室温は20℃にしよう）
ACT2　水道の使い方で減らそう（蛇口はこまめにしめよう）
ACT3　自動車の使い方で減らそう（エコドライブをしよう）
ACT4　商品の選び方で減らそう（エコ商品を選んで買おう）
ACT5　買い物とごみで減らそう（過剰包装を断ろう）
ACT6　電気の使い方で減らそう（コンセントからこまめに抜こう）

6. 具体的活動

1）大会における啓発

環境ポスター、環境バナーを会場内に掲出し広報した。

ハンドボール向け環境維持行動規範の推進（大会運営にあたっての注意事項とする）。

- 競技場やコートに行く際には、可能な場合はいつでも公共交通機関や自転車を使ったり、徒歩にする。
- 可能な場合は、環境保護と持続可能な開発基準にあった製品の使用を考慮する。
- トイレ、洗面所などでは節水を心掛ける。
- 競技場やコート、更衣室に決してゴミを残さない（食べ残し、ビン、カン、ビニール袋、使い古した服、割れたボール等々）。それらのゴミは、家に持ち帰る。ビンとカンはリサイクルする。
- 不要な場合は、照明や電気製品のスイッチを切る。

2）チーム・マイナス6%の普及

都道府県協会・連盟に「チーム・マイナス6%」News Letterの再配信

3）事務局におけるクリーン購入・エネルギー節約

エコ商品の購入、ペーパーレス化、クールビズ

環境委員長　兼子 真

（財）日本自転車競技連盟

自転車競技は、地球に優しい自転車を機材として使用するスポーツである。

しかし、より一層の環境保全への取組みが求められる中、各大会において地道な啓発活動を行った。

・バナー、ポスターの掲示

・パンフレットの配布

・ゴミの分別

なかでも、三重県四日市市では大会を記念し、（財）イオン環境財団とともにコース沿いに桜130本を植樹し、平成18年度からの3年間で合計480本となった。また、毎年5月に国際レースの会場となっている長野県飯田市では、市長が率先して自転車を活用した環境保全活動に努め環境モデル都市にも選定された。

なお、今後の課題としてプログラム、組み合わせ、結果ほかの印刷に大量に消費される、大会開催での紙類削減が挙げられる。

本連盟としてこの課題克服に取り組み、より一層のエコスポーツを目指す。

事務局長　久保田 茂

（財）日本卓球協会

日本卓球協会環境委員会は、平成17年度に設置された。

翌18年度より、環境ポスター、標語の掲示と環境委員会で作成した分別ゴミ箱を全国大会会場に設置する啓発活動を、大会開催地の主管団体そして会場関係者にご協力をお願いし、実施してきた。

2009年5月の世界卓球では、選手・役員にペットボトルを3本支給し大会会場、練習場、ホテル等に設置した給水場で給水してもらい、資源の有効活用をはかった

平成20年1月に開催した全日本卓球選手権大会では、会場の東京体育館の大型映像装置を利用しての環境ポスター等の掲示を行い、大会参加の選手はもとより大勢の観客と関係者に環境問題に対して強い関心を持ってもらう機会となった。

平成20年度も、これまでの環境委員会の活動を継承し、環境問題に対し、息の長い継続性のある活動としたいと考え、今まで通り以下の加盟団体、大会会場にご協力をお願いしてきた。また、平成21年1月の天皇杯・皇后杯平成20年度全日本選手権大会の会場東京体育館においては、「チーム･マイナス6%」のチーム員登録ブースを設け、参加選手、運営役員、観客の皆さんのご協力により、916名の登録があった。新しい一歩を踏み出した平成20年度であった。ご協力いただいた関係各位に対し心より御礼を申し上げたい。啓発活動へのご理解とご協力ありがとうございました。

ご協力いただいた大会会場と主管団体（平成20年度）

大会名	会 期	会 場	所管団体
全国ラージボール大会	6月19～22日	ひらつかアリーナ	神奈川県卓球協会
全日本（ホープス・カブ・バンビ）	7月25～27日	グリーンアリーナ神戸	兵庫県卓球協会
全国ホープス大会	8月6～8日	東京体育館	東京都卓球協会

大会名	会 期	会 場	所管団体
全日本クラブ選手権大会	8月28～31日	グリーンアリーナ神戸	兵庫県卓球協会
全国レディース大会	9月19～21日	郡山総合体育館	福島県卓球協会
国民体育大会	9月28日～10月2日	杵築市文化体育館	大分県卓球協会
全日本(団体の部)	10月17～19日	長岡市市民体育館	新潟県卓球協会
全日本(マスターズの部)	11月7～9日	坂出市立体育館	香川県卓球協会
全日本(カデットの部)	11月22～24日	宮崎市総合体育館	宮崎県卓球協会
天皇杯・皇后杯　全日本 (一般・ジュニアの部)	1月13～18日	東京体育館	東京都卓球協会
全日本高校選抜大会	3月26～28日	愛媛県武道館	愛媛県卓球協会
全国ホープス選抜大会	3月27～29日	高岡市竹平記念体育館	富山県卓球協会
全国中学選抜大会	3月28～29日	那覇市民体育館	沖縄県卓球協会

(財)全日本軟式野球連盟

財団法人全日本軟式野球連盟では、平成20年度全国大会6大会各会場においてバナー、ポスターの掲出、パンフレットの配布を行った。

平成17年度より連盟としての環境保全啓発ポスター、チラシを作成、競技会場で掲出・配布し当連盟関係者・大会参加者及び観客に向けて環境保全の啓発を促し環境保全意識の向上を図っている。

また、今年度よりバットの廃材をリサイクル加工してミニバットストラップを作成し、会員向けに販売した。バットの廃材リサイクルという目的以外に、この収益の一部は使用可能の状態で不要となった軟式野球ボールを必要としている国へ寄贈する費用として使う趣旨で販売している。当連盟各支部に協力を促し不要となった軟式野球ボールを回収し、12月末に中国・ブルキナファソ・エクアドルへ各70ダース(840個)、平成21年1月に香港へ約56ダース(681個)寄贈した。

今後は、グラブ・ヘルメット・キャッチャー用具・ユニフォーム等、ボール以外の用具の再利用についても検討していきたい。

専務理事　大山則夫

(社)日本馬術連盟

1. 主催大会における活動

当連盟主催競技大会(9競技)において、スポーツ環境に対する実践活動を下記により展開している。

① JOC、LEFロゴマーク入りの横断幕の掲揚
② JOC環境委員会配布のポスターの掲示
③ JOC環境委員会配布のパンフレットの配布
④ ゴミの分別収集

2. 当連盟発行月刊誌を通じての実践活動
　① JOC環境委員会配布のポスターの掲載
　② JOC環境委員会開催フォーラム等の報告記事の掲載

3. その他の取り組み
　① エコバッグを馬術競技参加者に参加賞として配布

（社）日本フェンシング協会

当協会の平成20年度の主な活動は以下の通りである。

1. 高円宮牌フェンシング・ワールドカップ（平成20年5月9日～ 11日・東京体育館）におけるゴミ分別収集の徹底、環境保全バナーの掲示、環境ポスターの掲示を行った。
2. JOCジュニアオリンピックカップフェンシング選手権大会（平成21年1月11日～ 14日・駒沢公園体育館）におけるゴミ分別収集の徹底、環境保全バナーの掲示、環境ポスターの掲示を行った。
3. その他大会（全日本選手権大会、国民体育大会、その他協会主催大会）における環境保全バナーの掲示、環境ポスターの掲示を行った。また、オリンピック出場選手を中心に啓発活動を展開し、ジュニア選手層へのアピールを行った。
4. 北京オリンピックでの太田雄貴メダル獲得を機に環境保全キャンペーンイベントへ参加している。従来の環境委員会は役員を中心に構成されていたが、競技を通じての環境活動をより活発に行っていけるよう、選手を含めた委員会とするよう検討中である。
5. 破損した装備品回収の一元化推進により、再資源化を図っている。
6. 事務局ではペーパーの再利用・ペーパーレス化により環境保全に努めている。

事務局長　藤原 義和

（財）全日本柔道連盟

財団法人全日本柔道連盟では、前年度に引き続き、柔道ルネッサンス委員会と事務局が中心となって、環境保全に関わる啓発・実践活動に取り組んだ。

当連盟主催の下記大会において、横断幕・ポスターを会場内に掲示し、北京オリンピックメダリストや当連盟役員とも協力して、スポーツと環境保全活動の啓発に努めた。練習会場においては、担当

の係員を配置し、選手たちによる自発的なゴミ分別を徹底した。

1. 皇后盃全日本女子柔道選手権大会（平成20年4月20日、横浜文化体育館）
2. 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会（平成20年11月15～16日、千葉ポートアリーナ）
3. 嘉納治五郎杯東京国際柔道大会（平成20年12月12日～15日、東京体育館）

平成20年度も、単に全国レベルの大会だけでなく、都道府県柔道連盟・協会における柔道ルネッサンス委員会が主導し、多くの都道府県レベルの大会・講習会等において、観客や保護者に対するゴミ持ち帰りの呼び掛け、ゴミ分別の徹底、参加者全員による大会終了後の会場内清掃等、会場美化運動を実施している。

柔道界としては、嘉納治五郎師範の遺訓である「精力善用」「自他共栄」という柔道の根本原理を、「人と自然との共存」というテーマにおいて応用実践することで、今後も環境保全に努めていきたいと考えている。

総務課長　坂本 健司

（財）日本バドミントン協会

本会では平成18年4月1日より、初めて環境委員会を正式に立ち上げ、今年が3年目となる。

今年も昨年と同様の活動だが、環境委員会としてはより環境保全の意識を高めることを中心に行うこととした。

評議員会、理事会にてより多くの会員に案内していただくためにパンフレットを配布し環境保全の意識を高めることを徹底した。

また、本会の主催する競技会19大会にポスターを配布し、開催会場での掲示を依頼した。また、国内で行われる国際3大会においても同様の活動をしている。特に観客の多い日本リーグは全国18ヵ所にて開催しており、特に重点的に配布した。

その他、昨年と同様に国内事業部と連携をとり、大会参加者、主催大会すべての開催県・主管団体に対して以下三つのお願いをして、大会要項に必ず記載することとした。

依頼事項

（1）ゴミの分別収集に協力してください。

（2）部屋から出るときにはエアコン、テレビ、ライトのスイッチを消してください。

（3）マイ歯ブラシを持参して大会に参加してください。

今年は特にゴミの分別収集には力をいれた。今回、初めての試みとして、国内最高の全日本総合選手権大会（他にシニア大会等）を中心に、役員、出場選手全員に環境保全の意識を高めるためにエコバッグを参加賞として約2000枚提供した。

バドミントンは風の影響があると競技に支障をきたすため、体育館内は閉切りにして、空調を使用する機会が多くなるが暖房は極力使用しないこととし、冷房についても喚気を行うことにより、少しでもエネルギー浪費の削減に努めている。

（社）日本ライフル射撃協会

日本ライフル射撃協会では、総務委員会内に環境問題を扱う「環境部会」を設置し、環境保全への取り組みと、会員の環境意識向上を図る施策の立案と実行を担当する。

昨年に引き続き使用銃弾（鉛弾）の回収と処理作業に注力した。そのほか、環境ポスターやパンフレットの会員への配布による啓発活動やゴミの分別回収など地道な活動を行った。

今後も環境保全とライフルスポーツの振興に努める。

総務委員会環境部会長　松丸 喜一郎

（財）日本ラグビーフットボール協会

日本ラグビーフットボール協会は、管理委員会に環境部門を設置12年目を迎え、環境部門委員によりJOC、各スポーツ団体等が既に行っている環境活動への取り組み事例の研究及び検討を行い、『社会貢献活動の1つと位置付け、ラグビーを通じて環境保全に関する啓発・実践活動の推進を図る』ことをテーマとして下記の事業を実施した。

1. 事業活動

①平成20年4月1日、日本協会として『環境保全活動推進宣言』を行った

②『チーム・マイナス6%』（環境省主管）加盟メンバーとして環境保全活動への推進協力継続

③広報委員会との連携・協力体制により環境PR活動推進を図る

④トップリーグ事業委員会とのコラボレーションによる相乗効果を図る

⑤12月5日開催のJOC環境担当者会議に参加し他団体の取り組み事例の研究

⑥すべての実践活動を広報PRに連動させ、更なる環境啓発に向けた相乗効果を図る

2. 具体的な実施内容

①広報活動（環境啓発PR）

広報委員会との連携によりHP、機関紙、大会プログラム、メンバー表等への環境保全活動推進掲出

- 「One for green, All for earth.」のタイライン活用
- 「チーム・マイナス6%」の露出
- 7月7日「クールアース・デー」をHPにてPR配信（七夕ライトダウン、ノーカーデー、1人1日1kgのCO2削減運動）

②試合（競技場）を観客・ファンへの環境啓発活動のチャンスと捉えてのPR推進、JOC環境協力バナー（横断幕）を作成し試合グラウンドに掲出

③試合開催時の場内アナウンスにより、ゴミ分別回収協力による資源再利用

④NPO法人グリーンバードとのエコラボ協力によるゴミ持ち帰り運動（専用ゴミバッグ配布）と試合後のボランティア清掃活動の実施

⑤トップリーグ参加チームと日本協会による「Try For Greenプロジェクト」を展開。トライ数に応じた寄附により、森林保全活動支援を行う（網走市への植林活動）

One for green, All for earth.

平成21年度は、日本ラグビーフットボール協会としての更なる環境保全推進のためチーム一丸となって環境活動の推進を進めていく。

環境部門　高野 敬一郎、児玉 隆一郎、岩上 教行

（社）日本山岳協会

当協会における環境保全に関する活動は、登山者がフィールドとしている山岳地域の自然環境保護と環境保全を中心に活動している。具体的には

①独自制度である「自然保護指導員制度」の普及推進
②自然保護委員総会（各都道府県に1名配置）の開催
③環境省等関係する団体と連携した自然環境保護活動
④山岳地域におけるゴミ捨て防止、トイレマナーの向上等の推進
⑤各地域における清掃登山等の実践

等年間を通して活動している。

一方、地球温暖化の影響と考えられる現象が各地で認められるのが昨今である。その一つに高山地帯におけるシカの食害（高山植物の激減）がある。そこでこの実態を少しでも把握する為、平成20年度から関係する山岳団体と共同して高山地帯における「山の野生鳥獣目撃レポート」事業を計画し、平成21年4月から実施している。地球環境の変化は先ず植物の分布に影響する。貴重な高山植物を保全するためより活動を強化していくこととしている。

◆登山者のマナー

1 自然を傷めないようにする
　植物の搾取、湿地帯等への踏み込み等をしない。

2 水場を汚さない
　残飯等は持ち帰る。洗剤は使用しない。水場の上流には立ち入らない等。

3 山に持ち込んだものは必ず持ち帰る
　山では焼却しない。ゴミを埋めない。携帯用灰皿の持参。

4 ゴミを持ち込まない工夫
　飲料水は水筒、テルモスを利用。食材は多く持ち込まない。食べられる量だけ調理する。

5 トイレマナーを守る
　登山口で済ませ、また、携帯トイレの使用を習慣付ける。

6 その他
　野性動物への配慮（ペットの持ち込み等）、移入植物の侵入への配慮。

（社）日本カヌー連盟

本連盟では、「環境対策委員会」において従来行ってきた「クリーンリバー・クリーンウォーター活動」の推進とJOCスポーツ環境委員会提供ポスター及び横断幕を国内主要競技大会において掲示し、大会期間中の環境保全に対する啓発活動を行ってきた。

「クリーンリバー・クリーンウォーター活動」は1981年より各種大会において利用する河川、湖等において競技会開催期間中の水上及び周辺施設内の清掃を行うことを主にして継続的に活動している。

元々自然環境下で行うスポーツであることから、環境保全に関しては選手・役員共に関心は高いが、観客を含め、更に環境に対する意識を高めるべく活動を行っていきたい。

環境対策委員長　八鍬 美由紀

（財）全日本ボウリング協会

当協会におけるスポーツと環境保全についての取り組みは、前年度に引き続き常設委員会である「普及開発委員会」が担当した。当協会が主催する全国大会で、「監督会議」や「選手ミーティング」で環境保護とルール、マナーの遵守について注意喚起を行い、大会中は場内アナウンスやポスター掲示、パンフレットの配布等により、選手や役員はもちろん、応援や観戦に来場した方々に対してもマナーの向上を促すことが活動の中心となっている。

最も重要な競技面については、足元を汚してプレーに悪影響を与えないために水分（ドリンク類や用具クリーナーなど）、パウダー類（滑り止め、汗止め）の競技エリア内での使用を禁止するルールを設け、選手同士の意識にも訴えかけてきたが、最近では国内ルールの基準となっている国際ルールが、このことについてより厳しく改正される動きがある。マナーのレベルからルールに上がることで、選手の意識がさらに向上することを期待したい。また例年ジュニア選手や初心者に向けてはマナー意識の定着を目指して細かい指導を続けており、全国大会はもちろん強化選手合宿等の行事の際に、指導者がレクチャーを行っている。

ボウリング競技の大会は民間施設のボウリング場を借りて行うため、控え室等を設けることが難しい、観覧エリアと競技エリアが非常に近いなどの懸念は多数あり、競技環境を維持するためには来場者全員がマナーを守る必要がある。最近では地方行政との連携により大会を開催し、競技場近隣の公共施設に休憩所を設けるなどの手配ができるようになり、特に飲食のスペースを別にすることで必然的に競技場内を汚す恐れも少なくなってきている。こういったスペースにはポスター掲示を行い、弁当等のごみを分別して片付けさせるため指導役のスタッフも配置することで、参加者全員が自らマ

ナーを守った行動を取るよう促すことができ、より強く環境保護をアピールすることができた。

当協会としては今後も「施設を大事にすることが、自分の最高のプレーを引き出す」ことを強くアピールし、競技者同士で意識が向上していくよう促してゆきたいと考えている。

日本ボブスレー・リュージュ連盟

当連盟の環境保全に関する日常的な取り組みとしては、今季開催された世界リュージュジュニア選手権長野大会始め全日本選手権大会等各種大会、競技会運営では、分別袋等を用意し、ゴミの分別、持ち帰りに努めている。また、事務局ではエネルギー節減の他コピー機変更に伴い、PCから直接FAXやプリンターとして使用したり、会議資料のコンパクト化、ペーパーレス化とコスト節減に心がけ、ものを大切にする3R（Reduce、Reuse、Recycle）実行に日々努めている。

そり競技施設自体が人工トラックの場合は、環境に配慮しながらも自然の山を切り開き、莫大な費用をかけて建設した上に冷却施設や電気代等、毎年のランニングコストも大きい。それに反して、競技人口が少なく、競技施設の他の利用価値がないということ、それだけで環境に配慮したスポーツと胸を張って言えないのが現状である。

そこで、スポーツと環境保全に関する啓発・実践活動として実践していることに、競技施設長野市ボブスレー・リュージュパーク（スパイラル）の夏場の環境整備作業がある。例年、地元長野県連盟は8月の最初の日曜日と決め、8年前から「夏フェスタ・イン・スパイラル」という名称で、この事業を行っている。最初は普及・強化の一環として、夏場にもそり競技の普及をはかろうという目的で始めた。

この日は連盟の選手・役員だけでなく、地元の長野市浅川地区の住民を中心に構成された「浅川スパイラル友の会」・施主の関係者で構成された「リュージュ振興会」・地元の浅川小学校という団体が集まり、広大な敷地内の草刈りやゴミ拾いを行う。今回は参加者が100名を超えた。選手も一緒に参加し、地域住民や子ども達と汗を流しながら、この活動を行っている。子ども達にとって、選手たちが自分のお世話になっている競技施設の草刈りをしている姿を見るということは、大変なインパクトがあるし、自分もあんなスポーツ選手になってみたいという気持ちを持てるのではないかと期待している。汗を流して自分の競技する場所をきれいにしている選手の姿を目の当たりにすることは、未来ある子ども達に、そのような意識を育てる活動こそ、大きな意味でスポーツを通じた環境保全の啓発活動になると考えた。

さらに、そりスポーツと環境という面で考えていきたいことがある。雪国で自然と生まれた子ども達のそり遊びがある。現在、競技施設が長野市ボブスレー・リュージュパークのみという状況の中では、選手は増やしたい、しかし増やせば十分な練習量が期待できないといったジレンマがある。もう一度、私たちはそりの原点に戻り、ふんだんにある雪を使った普及活動ができないか考えている。もともと、そり遊びが持っている楽しさに目をつけて、普及活動ができないかということである。そこにはアイデアや工夫、また情報提供のあり方など、子ども達に興味を起こさせるための壁はあると思うが、それこそ環境を生かしたスポーツ活動となるはずである。スポーツにとって恵まれた環境とは何だろうと考えると、私たちはまず与えられた自然環境を活用すること、それが環境保全への意識を育てる一つと考え、今後もそり競技発展のため、努力していこうと思う。

事務局長　池田 芳正

全日本アマチュア野球連盟

●日本野球界としての取組み

北海道にあるアオダモの木は、バット材として世界一と言われている。ただし、バット材として適するまでには70年以上もかかるため、将来的な木製バットの安定供給について危惧されていた。

しかしながら、近年、北海道大学大学院農学研究課や北海道森林管理局の調査、研究により植林技術が確立され、平成14年には「NPO法人アオダモ育成の会」を設立することができた。

これにより、植林技術者と各種野球団体の代表者が中心となって、毎年計画的に苗木を植林して将来の野球バット用材の確保を図るとともに、植林や草刈りなどをとおして植栽環境保全にも貢献できるようになった。

野球界としては、野球を愛する人々の熱意で北海道の大自然の環境保全に貢献しながら、世紀を越えて“バットの森”を育てていきたいと願っている。

スポーツ環境委員会委員長／ 事務局次長／
NPO法人アオダモ育成の会事務局長　内藤 雅之

●平成20年度植樹報告

日時	場所	参加者	植樹本数
7月5日	新冠国有林2164林班ろ小班	約180名	1,000本
8月2日	苫小牧国有林1298林班か小班	約100名	200本
9月20日	由仁町道有林119林	約170名	500本
10月18日	苫小牧東部地域つたもり山林内	約50名	100本

(社)日本トライアスロン連合

2002年にJTU環境委員会を立ち上げて以来、様々な活動及び啓発を続けてきた。毎年同様な活動をしているが、少しずつ確実に啓発は広がっていると自負している。

本年度は改めて以下の基本方針を確認したい。

1. 3R(リデュース、リユース、リサイクル)を積極的に導入します。
2. 自然環境に配慮した大会運営を目指します。
3. 大会会場では環境負荷の少ない運営を目指します。
4. 関係者の環境配慮に関する取り組みを促進します。

2008年度は横断幕の設置のみであった。次年度はパンフレット、ポスター等々を各大会会場及び会議等に持参、掲載しアピールすることを考えたい。併せてISO14001の取得も念頭に入れ、活動、啓発に努力する。

以下に、愛知トライアスロン協会が行った環境美化推進宣言を紹介する。

「大会参加者・大会関係者の皆様へ」

平素より、大会等ご協力ありがとうございます。
皆様方もご存じかと思いますが、トライアスロンという競技は、自然を舞台に行っています。水質・大気汚染などにも影響されます。昨今、競技コース周辺のゴミ問題など大会開催が危ぶまれるようなことも起きています。

愛知県トライアスロン協会では、皆様のご協力で「にっぽん音吉トライアスロン大会」（美浜町）のゴミ拾いなど環境美化運動を行ってまいりました。この度、より一層環境美化に力を入れていきたいと考え、“環境美化推進”宣言をし、皆様にもご協力をお願いしたと思います。

1. 大会会場内のゴミ箱を制限します。ゴミの分別、ゴミの持ち帰りにご協力をお願いします。
2. 競技中に出たゴミは、コース上に捨てないように各自で工夫し持ち帰りもしくは各コースに設置してあるエイドステーションにお願いしましょう。
3. レース後の会場内・競技コース周辺に落ちているゴミは拾うように心がけましょう。
4. 駐車場内の自家用車のアイドリングストップにご協力をお願いいたします。
5. トライアスリートとしての普段のトレーニングや生活にも環境美化に心がけましょう。

皆様のご協力で、大会がより一層盛り上がり継続されていくことを願います。

日本トライアスロン連合も（JTU）も、トライアスロン環境スローガン「水・風・大地との共生……トライアスロン」を掲げて環境美化運動を促進しています。

これからの世代を担う若年層に標準をあわせ、普及の一部ととらえてより一層の努力をしていきたい。

環境委員会　鈴木 信之

（社）日本スカッシュ協会

屋内コートで競技を行うスカッシュでは、毎回民間施設を借りて大会を行うのだが、大会会場のルールに沿った分別と、排出されるゴミを減らすことが、会場利用に当たり非常に重要な案件である。当協会では、エコロジーキャンペーンのマークを作成し、公式ウェブサイトや会場掲示などで積極的にエコロジーを呼びかけている。

1. マイボトルキャンペーン

地球環境の未来を担うジュニア選手にエコロジーの認識を持って貰う事を主眼にした、協会主催ジュニア大会でのエコロジーキャンペーンである。ペットボトル使用量削減をテーマに、マイボトルでマイドリンクを作って飲む様に誘導する。会場に氷を入れた冷水タンクを備え、ジュニアにわかりやすいポスターを作成した。8月に開催したジャパンジュニアでは、協賛の大塚製薬によるボトルとドリンクパウ

ダーの提供があり、選手と保護者の両者による積極的なマイボトル利用がみられた。3月に行った全日本ジュニアでは、協賛によるパウダー提供が無かった事と、涼しい季節のため8月ほどの積極的な利用は見られなかったが、マイカップの利用呼びかけも加えて、観客などの利用も有り、好評であった。

2. 分別徹底キャンペーン

大会での会場利用には付き物のゴミであるが、意識を持って分別することで、会場への感謝や、大会をお仕着せではない自分達の大会である意識を高める効果をも得られる。協会主催のすべての大会に於いて、分別や個人ゴミの持ち帰りを意識しているが、特に最高峰の大会である全日本選手権大会では、毎年、高い意識を持ってゴミの分別を徹底している。選手の意識も高く、徹底した分別が実現している。

（社）全日本テコンドー協会

（社）全日本テコンドー協会は、当協会主催すべての大会において主管団体と協力し、会場清掃、ゴミ分別、ゴミ持ち帰り運動を徹底実行している。

大会プログラムにおいても環境問題について掲載し、会長挨拶の中でもかならずスポーツを通して環境問題解決をリードしていこう、小さなスタートではあるがみんなの心掛け次第で次世代の環境に劇的な変化をもたらしてくれることを信じていると呼びかけている。

大会プログラム掲載大会

NO	大会名	開催期日	開催地	参加人数
1	第1回全日本ジュニア選手権大会	平成20年7月27日	長野県 松本市総合体育館	286名
2	第2回全日本学生選手権大会	平成20年12月7日	ナショナル トレーニングセンター	177名
3	第2回全日本選手権大会	平成21年2月8日	駒沢 オリンピック公園運動場	138名
4	第2回全日本プムセ選手権大会	平成21年3月21日	愛知県 岡崎中央総合体育館	105名

日本カバディ協会

日本カバディ協会では、平成19年4月に環境委員会を設置し、今年度も引き続きスポーツと環境保全の啓発、実践活動を行った。

主な活動内容は、当協会が主催した大会（全日本選手権大会、東日本大会、西日本大会）でのポスターの掲示、パンフレットや、夏はうちわの配布。また、ゴミは分別して持ち帰る、冷暖房の電源には触らない等のアナウンスを流したり、大会プログラムに注意事項を記載し、環境保護を呼びかけた。

事務局における活動としては、ペーパーレス化推進の為、文書データは郵送やFAXでの送受信を避け、Eメールによる連絡事項のやり取りを極力行った。コピー、FAX用紙の両面使用を徹底し、ゴミの削減、資源節約に努めた。また、事務所を出るときは電源を抜くなどのエネルギー、コスト削減にも心がけている。

カバディは、ほとんど道具を必要としないエコなスポーツである。今後、もっと積極的に環境保全を呼びかけ、カバディの発展と共に、環境問題にも取り組んでいきたい。

事務局長　河合 陽児

日本セパタクロー協会

日本セパタクロー協会では、環境委員会のメンバーが中心となり、平成20年度もスポーツと環境保全に関わる啓発・実践活動を積極的に推進してきた。

事務局では、チーム・マイナス6%で紹介されているCO2削減生活のアイデアなどを参考にして、空調の温度調節や稼働時間の短縮、照明のこまめな消灯、不使用時のPC電源オフ等、主に電力使用の抑制を中心とした対策を実施してきた。あわせて、ゴミをなるべく出さないよう努力し、廃プラスチックのリサイクルができるように、ペットボトルはキャップ、包装プラスチック、ボトルと細かく分別して捨てるように推進した。

主催事業（全日本選手権、全日本オープン、JOCジュニアカップ）の実施にあたっては、JOCスポーツ環境専門委員会から提供されたポスター及びチラシを会場内で掲示・配布し、スポーツと環境保全活動の啓発を行うとともに、ゴミの分別または持ち帰りを呼びかけた。また、役員及び参加者に公共交通機関の利用を徹底した。さらに、学生連盟主催の大会（学生選手権、学生オープン）においても、環境ポスターの掲示を行い、ゴミの分別収集を実施するとともに、各人が普段の生活においても環境保全に対する意識向上に努めるよう指導した。本会環境委員会のメンバー、寺本進選手が中心となり、各種大会会場やイベント会場などで地球環境保全の重要性を呼びかけている。

今後は、国際協会にスポーツ環境委員会を設置するように働きかけ、国際レベルでの展開もぜひ推進していきたいと考えている。

環境委員長　三澤 勝

(3) 東京オリンピック・パラリンピック招致委員会の活動

Activities of the Tokyo 2016 Bid Committee

2016年オリンピック・パラリンピック競技大会は、“Winning the Earth's future（未来を勝ち取るオリンピック）”を環境コンセプトとして掲げている。

様々な環境問題に直面する世界最大規模の都市・東京の中心で、環境負荷の少ない自然と調和した大会を開催することにより、持続可能性の都市モデルを世界に示していく。

東京オリンピック・パラリンピック招致委員会は、財団法人日本オリンピック委員会やオリンピアン、学識経験者、NGOの代表者で構成する環境専門家委員会が策定した大会の環境マスタープラン「2016年東京オリンピック・パラリンピック環境ガイドライン」に基づき、東京都とともに下記の取組を実践する。

1. 環境負荷の最小化

2016年東京大会は、世界初のカーボンマイナスオリンピックを実現する。施設建設における資材の製造から廃棄に至るまでのカーボン排出や、海外からの移動を含む観客の移動・宿泊に伴うカーボン排出も算定するなど、過去のオリンピック競技大会等と比較して、より厳格、かつ広範に排出量を算定する。

半径8km圏内に82%の会場を集約するコンパクトな会場計画、既存会場や公共交通機関の活用により、計画段階からカーボン排出量を最小化する。その上で、会場・施設の低エネルギー・省エネルギー対策、再生可能エネルギーの導入、カーボンマイナスプログラムの展開など世界最先端の環境技術を総動員し、大会に伴って排出されるカーボンを上回る量のカーボンを削減する。

2. 自然と共生する都市環境の再生

大会会場・施設は、自然の光や風を取り入れるパッシブデザインを採用し、低カーボン、低エネルギー型施設とする。また、緑に包まれたスタジアムをはじめ、屋上・壁面等に緑化を施した、環境共生都市を体現するデザインとする。

大会開催を通じ、緑を大幅に増加させるとともに、各クラスターをグリーンロード・ネットワークで結び、水と緑の回廊に包まれた美しい都市として東京を再生する。

3. スポーツを通じた持続可能な社会づくり

オリンピックの発信力を活かして、人々の環境意識をさらに向上させるとともに、環境配慮の行き届いた行動を促していく。

都内の小中学校、ユースキャンプ参加者、観客等を対象に、スポーツを通じた地球環境への貢献を目指すオリンピック環境学習を、アスリートや各国NOC、NGOの協力を得て、幅広く展開する。

また、カーボンマイナスプログラムの一環として、国内外のスポーツクラブが提案する環境プロジェクトを技術的・財政的に支援するエコスポーツプログラムを実施する。

(4) JOCスポーツ環境活動者一覧

Activities person of Sport and Environment

本会加盟団体スポーツ環境担当一覧

List of environment commissions in each JOC affiliated NFs and organizations

団体名／設置年月	委員会名／役職／氏名	副委員長・委員ほか	事務局
(財)日本陸上競技連盟 ／H.11.4	JAAFグリーンプロジェクト 総務委員会・総務部 環境担当部長　石上敬久	座長：瀬戸邦宏 副委員長：有澤政雄（アドバイザー） 委員：高村佐太郎、齋藤文子、五味　恵、甲斐澄子、牛島英輔	
(財)日本水泳連盟 ／H.17.4	スポーツ環境委員会 委員長　佐野和夫	委員：岩崎恭子、末広昭人、山口善久、齋籐由紀、鷲見全弘、岡田奉代、草分容子、長谷川雪恵、泉　正文、有久　暢、小川知伸	総務次長 小川知伸
(財)日本サッカー協会 ／H.19.3	環境プロジェクト リーダー　田嶋幸三	メンバー：岡田武史、濱口博行、羽生英之、真田幸明、加賀山　公 幹事：湯川和之、藤ノ木　惠、玉利聡一、窪田慎二	
(財)全日本スキー連盟 ／H.10.10	スポーツ環境委員会 委員長　村里敏彰	委員：吉田英一、冨田政利、林　辰男、山田　隆、古川年正、斎藤二郎、瀬尾　洋、佐藤　昭	事務局担当者 宮沢賢一
(財)日本テニス協会 ／H.17.4	環境委員会 委員長　橋爪　功	副委員長：宗　中正 常任委員：秋山英宏、飯田　剛 委員：佐々木信子、吉田友佳、九鬼まどか、松岡修造、秋山　忠、大西哲夫、生沼明人	
(社)日本ボート協会 ／H.19.6	安全・環境委員会 委員長　清水一己	委員：小沢哲史	事務局 竹内麻記子
(社)日本ホッケー協会 ／H.20.12	総務委員会 環境部会 委員長　　寺田一夫	委員：西中武士、安岡裕美子	事務局長 西中武士
(財)日本バレーボール協会 ／H.13	スポーツ環境委員会 委員長　浅草和敏	副委員長：橋口陽一 委員：西部卓志、上杉　忠	
(財)日本体操協会 ／H.15	総務委員会 環境対策部　森末慎二	総務委員会	
(財)日本バスケットボール協会 ／H.21.4	環境委員会 委員長　木内貴史	副委員長：山田章博 委員：成澤偉三郎、品田奥義、有本　功、羽角国広、松岡憲四郎、弘田充宏	事務局長 松岡憲四郎
(財)日本スケート連盟 ／H.16.10	スポーツ環境委員会 委員長　山崎弘雄	副委員長：岩島直己	
(財)日本レスリング協会 ／H.15.4	スポーツ環境委員会 委員長　鎌賀秀夫	委員：木名瀬重夫、真田栄作、本田原　明、吉澤　昌、白井正良、関　貴史	
(財)日本セーリング連盟 ／H.16.4	環境委員会 委員長　岡田達雄	副委員長：荒居達雄 委員：豊崎　謙、菊地　透、長嶋匡之、瀧山朗子	事務局長 武村洋一
(社)日本ウエイトリフティング協会 ／H.17	スポーツ環境委員会 委員長　岡本　実	副委員長：平良朝治 委員：野呂紀代志、橋本建郎、星野忠人、舟喜信生、後藤節哉	
(財)日本ハンドボール協会 ／H.18.11	環境委員会 委員長　兼子　真	担当常務理事：伊藤宏幸 委員：家永昌樹、羽田裕一、村上　隆	事務局長 兼子　真
(財)日本自転車競技連盟 ／H.20.3	総務委員会 委員　久保田　茂		事務局長 久保田　茂
(財)日本ソフトテニス連盟 ／H.21.4	広報委員会 環境部会 委員長　柳下秋久	委員：藤原伸二、神崎公宏、宮下恭子、津田　誠、田鹿明彦	事務局担当者 竹田　稔

団体名／設置年月	委員会名／役職／氏名	副委員長・委員ほか	事務局
(財)日本卓球協会 ／H.17.6	環境委員会 委員長　後藤広子	担当理事：小川敏夫 副委員長：中村喜和 委員：若尾輝夫、佐藤正喜、折居克春、佐藤　勲	事務局長 井関律人
(財)全日本軟式野球連盟 ／H.17.5	環境担当委員会 委員長　牧野勝行	委員：大山則夫、熱海奈津美	事務局員 熱海奈津美
(社)日本馬術連盟 ／H.17.5	スポーツ環境委員会 委員長　土橋武雄	委員：矢作直也、小山　香	事務局長 五島　崇
(社)日本フェンシング協会 ／H.15	総務委員会 環境部会 委員長　川口大三	副委員長：河原塚　淳 委員：冨田智子、釜井昭人、佐藤　衛、永井　誠	事務局長 藤原義和
(財)全日本柔道連盟 ／H.13.1	柔道ルネッサンス特別委員会 委員長　山下泰裕	副委員長：細川伸二 総務：小志田憲一 委員：山口　香	事務局担当者 坂本健司
(財)日本ソフトボール協会 ／H.16.4	スポーツ環境委員会 委員長　鈴木　征	委員：尾﨑正則、三宅　豊、興水健治	事務局長 横田博之
(財)日本バドミントン協会 ／H.18.4	環境委員会 委員長　今井茂満	副委員長：近岡　昭 委員：池田公子、本多修治	
(社)日本ライフル射撃協会 ／H.17.11	総務委員会 環境部会 部会長　松丸喜一郎	委員：永谷喜一郎、平井宏治、田村恒彦、深川史麻、 黒岩顕彦	
(社)日本近代五種・ バイアスロン連合 ／H.18.3	環境委員会(近代五種部門) 委員長　荒木大三	副委員長：太田敏範 委員：若松歳明	事務局長 坂野　勝
	環境委員会(バイアスロン部門) 委員長　角館昭二	副委員長：梅原弘史 委員：田中英一、成田寛志、滝澤　健	
(財)日本ラグビーフットボール 協会 ／H.19.4	管理委員会 環境部門 部門長　高野敬一郎	環境委員：児玉隆一郎、岩上教行、片山良太	事務局長 岡本武勝
(社)日本山岳協会 ／S.52	自然保護委員会 委員長　若月東兒	常任委員：青木敏雄、梅山義弘、小高令子、斎藤長作、 徳永邦光、廣田　博、小原美子、三ツ木達男、 杉本憲昭、松隈　豊、山口泰雄、岩﨑繁夫、 細野賢治	常務理事 若月東兒
(社)日本カヌー連盟 ／H.17.4	環境対策委員会 委員長　八鍬美由紀	委員：本田　泉	事務局 岩上禎宏
(財)日本アイスホッケー連盟 ／H.19.4	環境委員会 委員長　土田　忠	副委員長：菱沼征夫 委員：石川伸吉、谷田順一、細谷妙子	事務局担当者 細谷妙子
(社)全日本銃剣道連盟 ／H.16	環境委員会 委員長　佐藤吉紀	委員：大塚　亨、関　高、村井敏夫、西尾耕一郎、 東　昭夫、伊藤武人、上萬　淳、上村　正、 渡辺邦夫	総務部次長 藤田廣大
(財)全日本ボウリング協会 ／H.16	普及開発委員会 委員長　榎本隆明	副委員長：黒河敏一 委員：金安利和、荻野和男、伊藤　寛、青木　稔、 多田真行	事務局員 宮内久美子
全日本アマチュア野球連盟 ／H.18.5	スポーツ環境委員会 委員長　内藤雅之	委員：柴田　穣	
(社)日本トライアスロン連合 ／H.14	JTU環境委員会 委員長　鈴木信之	副委員長：松生治子 委員：小金澤光司、中島あゆみ	事務局長 中山正夫
日本カバディ協会 ／H.19.4	環境委員会 委員長　九重　卓	副委員長：林　佳子	事務局長 河合陽児
日本セパタクロー協会 ／H.17.4	環境委員会 委員長　三澤　勝	副委員長：寺本　進 委員：飯田義隆	事務局長 矢野順也

JOCスポーツ環境アンバサダー

JOC Sport and environment ambassadors

氏　　名	出場大会	競技名	出場種目
瀬古　利彦	1984 ロサンゼルス 1988 ソウル	陸上競技	男子マラソン
岩崎　恭子	1992 バルセロナ 1996 アトランタ	水泳	女子200m平泳ぎ 女子4X100mメドレーリレー
岡田　武史	1984 ロサンゼルス予選	サッカー	監督
荻原　健司	1992 アルベールビル 1994 リレハンメル 1998 長野 2002 ソルトレーク	スキー	ノルディック複合団体 ノルディック複合個人
松岡　修造	1988 ソウル 1992 バルセロナ 1996 アトランタ"	テニス	男子シングル
大林　素子	1988 ソウル 1992 バルセロナ 1996 アトランタ	バレーボール	女子チーム
塚原　光男	1968 メキシコ 1972 ミュンヘン 1976 モントリオール	体操	男子
黒岩　敏幸	1992 アルベールビル 1994 リレハンメル 1998 長野	スケート	スピードスケート
八木沼　純子	1988 カルガリー		フィギュアスケート・ 女子シングル
小林　孝至	1988 ソウル	レスリング	フリースタイル
阿武　教子	1996 アトランタ 2000 シドニー 2004 アテネ	柔道	女子

(5)スポーツと環境に関するアンケート集計結果について

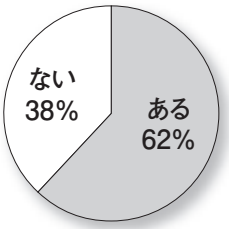
Results of the questionnaire regarding environmental activities of NFs

JOC加盟55団体を対象に5年前から、「スポーツと環境」に関するアンケートを実施。活動の現状や浸透状況を把握しつつ、今後の指針づくりにも役立てている。

平成20年度は85%の回答が得られ、その6割の団体で「スポーツ環境委員会」あるいは「環境保全プロジェクト」が設けられ、5年前のほぼ3倍にのぼっている。

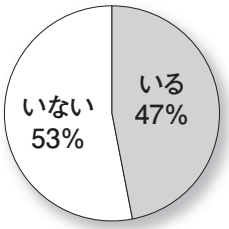
【平成20年度】

1 貴団体にスポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクト等はありますか

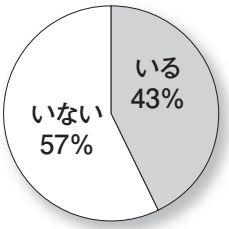


2 貴団体で環境保全啓発のため実施されている活動について

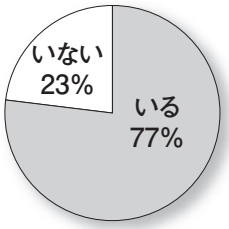
ア 団体・組織にかかわる人々にマニュアルなどで啓発している



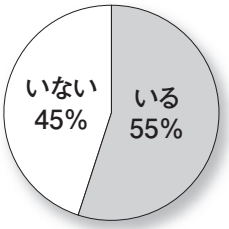
イ 選手・コーチにマニュアルなどで啓発している



ウ トップ選手や影響力のある人々に機会があれば環境保全のアピールをするようすすめている



エ 環境に配慮した用品・用具を使用し、また選手に推奨している

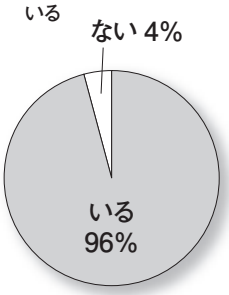


オ その他

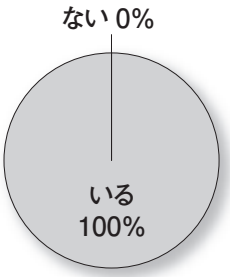
- ピンバッジの製作、配布、my 箸の利用、月刊「水泳」の環境ページを設けて活動報告
- 会員登録申込の用紙にチーム・マイナス6%チーム員宣言を加えている。また会員証(約11万人)にチーム・マイナス6%ロゴを掲載してアピールしている
- 公認指導者養成講習会、コーチャーズカンファレンスでの啓発
- 協会の「環境方針」を策定した
- 9 ブロックに啓発横断幕を配布し、地方の啓発を進めている
- JSAF エコバッグの配布、横断幕の貸出
- 「この星にスポーツを」の横断幕を100枚製作し各支部に2枚ずつ配布
- 主催競技大会の出場者に参加賞としてエコバッグを配布
- ソフトボールの環境標語と公募、優秀作の横断幕を作成。大会時のフェンスに掲示
- 「環境保全活動」推進を宣言。機関紙、プログラムにチーム・マイナス 6%ロゴ掲載
- ポスターを利用しゴミの分別・清掃を実施
- 会場内の美化について場内アナウンスで啓発
- 木製バッド材の植林
- 水質保全活動(横浜)

3 競技会における環境保全のため実施されている活動について

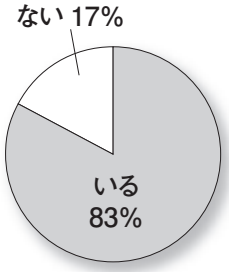
ア 競技者にできるだけ良い環境で競技をさせるよう配慮をしている



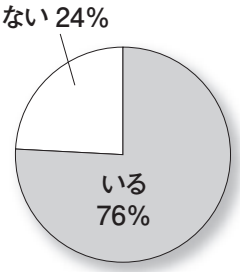
イ ゴミの分別を実施している



ウ ポスター貼付など何らかの方法で環境保全を啓発している



エ 今後競技会場建設が計画されるときは環境保全に配慮している



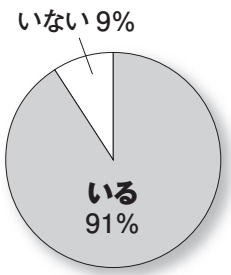
オ その他

- 横断幕の製作、掲示、my 箸の製作配布、使用
- TM6% バナー活用、チャンピオン、関係者との写真撮影
- 炭酸マグネシウムを固形化使用に推奨している
- 学連主催競技会ではトイレ清掃を実施
- 大会実施時にスローガンを掲げている
- ソフトボール会場での受動喫煙防止対策指針を制定
- 大会要項に環境活動に関する依頼事項を記載
- プログラムに環境活動推進ロゴ等を掲載。トップリーグを核としたトライの森推進スタート
- マイボトルによるドリンク推奨
- 大会会場、講習会場でのゴミは持ち帰るよう依頼している

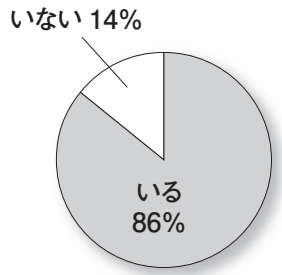
4 JOC スポーツ環境委員会活動報告書は活用されていますか

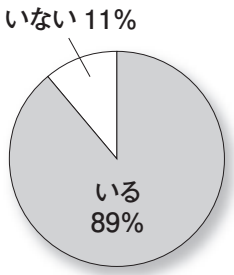
いると答えられた場合：どのように活用していますか

ア 活動の参考として参照している



イ いつでも閲覧できるように設置している

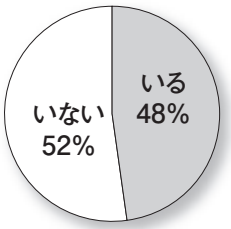




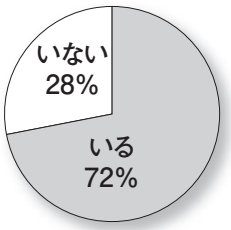
ウ その他

- 月刊誌「馬術情報」に環境委員会の報告を掲載
- コーチ・選手の現場へ回覧している
- 事務所内、閲覧戸棚に保管
- 施設設備業者に提供している

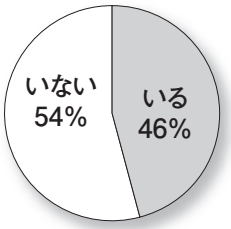
5 機関誌、大会プログラム等に環境保全について掲載していますか



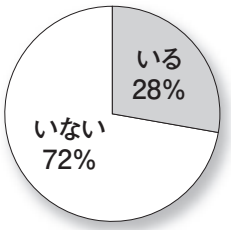
6 事業実施の時に、横断幕、ポスター及びパンフレットを配布していますか



7 会議、大会開催時に環境についてのスピーチを行っていますか



8 貴団体は環境省の「チーム・マイナス６％」のメンバーに登録していますか



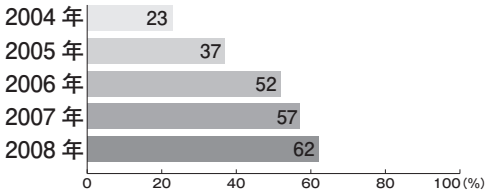
9 最後に、スポーツと環境についてご意見等がございましたらお書きください

- 協会役員が入れ替わったばかりです。今までは何も取り組んで来なかったことを知りました。これからスポーツの世界での活動方法・取り組み方等を教えていただきながら活動していきます。
- 今年度から、「海の日」環境キャンペーンを開始しました。
- 今年1月に開催した全日本選手権大会の会場（東京体育館）の大型映像スクリーンに環境ポスター等の画像を放映しました。このようなとき、JOCの環境用宣伝画像、動画等のデータを提供していただけたらと思います。
- 今後できるだけ啓発、活動するよう留意し、努力していきたい。

【年次推移】

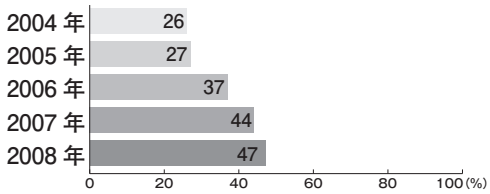
※数値はすべて「はい」の割合

1 貴団体にスポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクト等はありますか

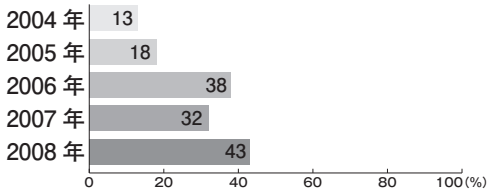


2 貴団体で環境保全啓発のため実施されている活動について

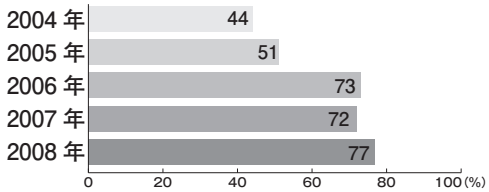
ア. 団体・組織にかかわる人々にマニュアルなどで啓発している



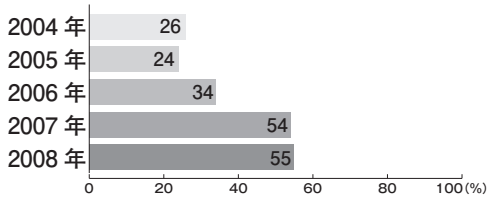
イ. 選手・コーチにマニュアルなどで啓発している



ウ. トップ選手や影響力のある人々に機会があれば環境保全のアピールをするよう進めている

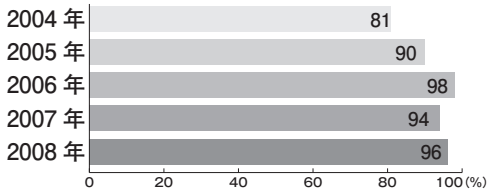


エ. 環境に配慮した用品・用具を使用し、また選手に推奨している

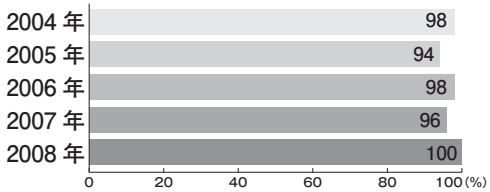


3 競技会における環境保全のため実施されている活動について

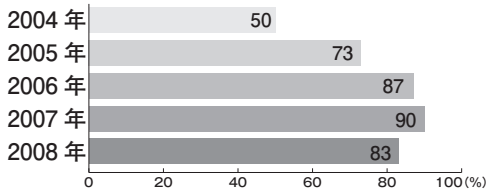
ア. 競技者にできるだけ良い環境で競技をさせるよう配慮をしている



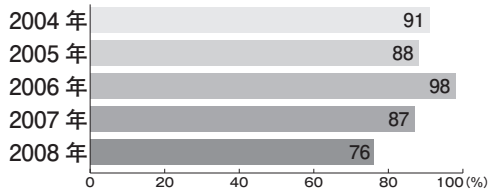
イ. ゴミの分別を実施している



ウ. ポスター貼付など何らかの方法で環境保全を啓発している

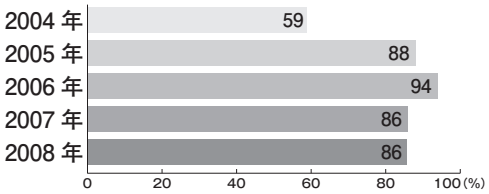


エ. 今後競技会場建設が計画されるときは環境保全に配慮する

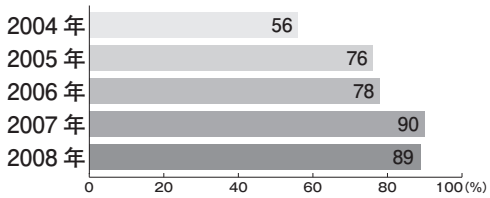


4 JOC スポーツ環境委員会活動報告書は活用されていますか

ア. 活動の参考として参照している



イ. いつでも閲覧できるように設置している



(6)国際大会での活動

JOC environmental activities at the International Games

[第29回オリンピック競技大会(2008／北京)]

「オリンピック選手として環境に対する認識を持ちましょう」

文明の発達は私たちの生活を便利にしたが、それは莫大な量の資源・エネルギーに依存し、大量の二酸化炭素ガスを排出し地球温暖化を進めた。

さて、昨年、地球温暖化について厳しい報告書を出した「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」と、環境問題に具体的な事例を挙げて警告するアメリカ合衆国の映画「不都合な真実」にノーベル平和賞が授与された。以来、世界のメディアが環境保全に対して報道する機会が増えつつある。

過去一万年に亘り、地球の平均気温は全く変化すること無く、その結果としてこれだけ広い生物多様性に繋がった。この平均気温がここ30年で少しずつ上昇しつつあり、気候や生態系に大きな変化を起こしつつある。例えば海面の温度上昇が大量の水蒸気を発生させて大雨を降らせ、時には非常に強大な台風となり、多くの地域に深刻な被害を起こしている。

国際オリンピック委員会は約20年前からオリンピック運動はスポーツ・文化に環境を加えた三本柱で形成されるとの認識を持ち、1995年にはスポーツと環境委員会を設置、より広くスポーツ界における環境保全を啓発し、またオリンピック大会を始めスポーツの現場での実践活動を推進して来た。

日本オリンピック委員会も2001年以来、スポーツ環境専門委員会がIOC、国内競技団体、スポーツ関連団体、また環境省とも密接に連携し、スポーツ界での啓発・実践活動を進化・加速させている。国内競技団体の多くが、ゴミの分別回収や紙コップの再利用など3Rs(リデュース「減らす」、リユース「再利用」、リサイクル)の運動に取組んでいる。

また、2016年のオリンピック東京招致活動では環境を重視し、環境に配慮したオリンピックの実現をめざして努力が重ねられている。

低炭素社会を実現するために、何か活動をするなら炭酸同化作用をする樹木を増やしカーボンオフセット(炭素相殺)をしようという運動も始まっている。

私たちの社会には大きな環境問題があることをオリンピック選手としても認識し出来る対策にご協力頂きたいと思っている。

日本代表選手の皆さんがこのオリンピック大会で目覚しい成果を上げられることを期待する。

財団法人日本オリンピック委員会
スポーツ環境専門委員会

［第24回ユニバーシアード冬季競技大会（2009／ハルピン）］

スポーツ環境活動への協力依頼
「地球温暖化防止に高い意識を持ち、出来ることを実行しましょう」

ハルピンで開催される第24回ユニバーシアード冬季競技大会に参加される選手・役員の皆さんが実力を存分に発揮し素晴らしい成果を上げられることを期待している。

選手・役員の皆さんも十分に認識されていると思うが、近年、地球温暖化が大きな気候変動を引き起こし私たちの社会生活に極めて深刻な影響を与えている。温暖化で降雪量が減少しつつあり、池や湖の天然のリンクが凍らなくなる等、特に冬季スポーツは厳しい現実を突き付けられている。幾つメダルを取ろうと、前人未到の世界記録を作ろうと、温暖化が深刻な気候変動を起こし、もし人類を含む生態系が絶滅するなら何の意味も無くなってしまう。

地球や人類の長い歴史の中で世界の人口はこの100年で約4倍の60億人に増加した。20世紀に石油や石炭をエネルギー源として文明は加速度的に発展し、生活は非常に便利になった反面、大量のエネルギー消費から温暖化ガスのひとつである二酸化炭素ガスを排出し地球の平均気温は上昇し続けている。

IOCは1990年代初頭に、オリンピックムーブメントは今までの「スポーツ」と「文化」に加え「環境」の三本柱で推進されるものと表明し、1995年にはスポーツと環境委員会を設置した。2001年にはJOCも設置し、これらの委員会が中心になりスポーツ界の環境保全活動を関係競技団体、スポーツ関係者や環境省と連携して強力に推進している。

現在、日本スポーツ界では、選手を含む全てのスポーツ関係者が連携を密にして、環境問題の現実を認識し具体的な対策を理解してもらう啓発活動と環境保全対策を実行する実践活動の二つを展開している。

私たちは限りある資源、エネルギー源を大切に使うために、それらを節約し、再利用し、リサイクルしなければならない。エネルギー節減のために余計な電灯のスイッチを小まめに切る。「混ぜればゴミ、分ければ資源」と言う言葉が示すように、全てのものを分別することで再び資源として再利用する。又、CO2を吸収し酸素を放出する樹木を増やすことも重要な活動となる。

選手の皆さんは、その言動が注目されている。スポーツだけではなく日常生活においても社会の模範になるように環境問題を良く理解し、スポーツ界の温暖化防止、環境保全活動に努めていただけるようお願いする。

財団法人日本オリンピック委員会
スポーツ環境専門委員会

(7) 環境省との連携について

Collaboration with the Ministry of Environment

オリンピックは地球以外で開催できない
環境省「チーム・マイナス6%」との連携について

この星の子どもたちのため、日本のアスリートは足元から行動します

地球温暖化は日本温暖化

すでに始まっている地球温暖化。もう待ったなしの状況。地球規模の現象だけでなく、日本各地でも異常事態が頻発している。例えば海ではサンゴの白化現象、大型クラゲの大発生、漁期の変化、農作物では果実の収穫地の変化、米どころの変化、さらに昆虫の生息地の変化など、各地で起こっている一つひとつに直面しているだけでは実感が希薄でも、こうして事実を羅列するだけで、温暖化の実感レベルは高まるのではないだろうか。もしこのまま各地の収穫物に変化が起こると、その土地の産業への影響は明白だ。そうなるとその産業に従事する人の生活に影響してくる。ただ気候が変化するだけで生活の基盤を脅かすことになってしまう。この気候変動の問題を最小限の被害に留めることができるのは、私たち人間の行動である。

JOCは、京都議定書に基づき温室効果ガスを削減するための大規模国民運動「チーム・マイナス6%」に2005年の発足時から参加し協力、連携を深めてきた。世界各国の大会や合宿などで実感する温暖化の危機。これを肌で感じているアスリートたちが模範となり温暖化防止に役立てるよう、JOCおよびJOCに加盟している国内スポーツ競技団体が率先して行動を起こしている。

深まるチーム・マイナス6%とのコラボレーション

JOCとチーム・マイナス6%は、一人でも多くの人々への気付きとなるよう、そして未来の子どもたちのために、今の私たちにできることを考えるきっかけとなるよう、スポーツ界から顔の見える情報発信をしていきたいと考え、2006年2月のトリノオリンピックからアスリートや環境アンバサダーが自ら実感している地球温暖化の事実をメディアやイベントを通じて発信。また2007年度からは、日本人の四季感にあわせた最適なタイミングで、これらの取り組みの発表を行うことが重要だと考え、年間を通じて様々なスポーツ大会やイベントなどから発信している。そして2008年度は北京オリンピックをフックに、JOCはチーム・マイナス6%の連携をさらに深化させ、「“スポーツと環境”グリーンアクションフォーラム」を主催した。

地球温暖化の危機意識を啓発する横断幕イベント

2007年度から始めた、選手、大会関係者がそのスポーツからの温暖化防止メッセージが書かれた横断幕を持って行う記念撮影。このアクションは撮影された写真が様々なメディアに載ることで大きな情報発信となるが、何よりも横断幕を持ったアスリートや大会関係者が地球温暖化の危機意識を「私ごと化」する機会でもある。そして、その大会プログラムには、メッセージと、当該競技のトップアスリートの肖像を使用した国内スポーツ各競技団体と、チーム・マイナス6%のコラボレーション広告を掲載し、参加選手や観客の方々に向けて発信している。さらにその大会会場にはチーム・マイナス

6%のチーム員登録ブースを設けて、大会に参加する選手や運営スタッフ、そして観客の皆さんに参加を促して、その輪が確実に広がっている。

「オリンピックは、地球以外で開催できない。」

2008年度は、北京オリンピックが環境を大きくテーマに掲げ国を挙げて取り組んだ。JOCでは、出場選手全員に環境意識を強く持ってもらえるようチーム・マイナス6%と連携して「Stop Global Warming」と記されたマイバッグを製作、壮行会で鴨下大臣（当時）から手渡していただいた。そして、その結果報告をメダリストが集合した初の新聞広告として実施。さらにポスターにして全国のスポーツ施設に掲出して力強いメッセージを発信している。

スポーツの感動の力を環境アクションに

北京オリンピックの感動がまだ残る10月12日、JOCはチーム・マイナス6%との共催で、「“スポーツと環境”グリーンアクションフォーラム」を東京・丸ビルで実施。これは地球温暖化防止のためにスポーツ界がどのような役割を果たすかを考えるイベント。開会の挨拶で竹田恆和会長は「スポーツ界はその影響力を活かし、低炭素社会実現に大きな力になるべき」と宣言、また斉藤環境大臣はスポーツが持つ影響力を発揮して欲しいと期待のエール。第1部では、末吉竹二郎国連環境計画金融イニシアチブ特別顧問と水野正人副会長、板橋一太スポーツ環境委員会委員長が、カーボンオフセットの意義を理解しながら、アスリートのメッセージが環境アクションを生む力になる、つまりスポーツの感動が環境の力になるとトーク・ディスカッション。そして第2部では、北島康介選手、谷本歩実選手、太田雄貴選手がそれぞれ思いを語り、最後に「スポーツと環境 アクション決議」を読み上げて閉会した。

カーボンマイナス・オリンピック

2016年のオリンピック開催を目指す東京は、カーボンマイナス・オリンピックを目指すことを表明し、「人を育て、緑を守り、街を躍動させる」という3つのテーマで招致活動を展開。このオリンピックが開催されるということは、日本が環境に取り組む姿勢を世界に知らしめるチャンスにもなる。JOCは、チーム・マイナス6%そして市民の皆さんと一緒に、地球温暖化防止のため、低炭素社会に向けた取組みをますます広げていきたいと考えている。

Number×ソトコト
アスリート環境宣言表紙

(8)スポーツと環境についてのレクチャー原稿

Lecture draft on Sport and Environment

短い一言のご挨拶の機会がある時は次の一言をお願いします。

「私達スポーツを愛するものは環境保全の大切さを理解し温暖化防止などにエネルギー・資源の節減やゴミの分別などできる事から実行しましょう」

スポーツと環境について5分レクチャー原稿

5分のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1.スポーツと環境についての理解

(1)スポーツを愛する私たちも皆、地球人

①スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係が無いと思われるかも知れませんがそれは幻想です。

②人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に環境保全を実行する義務があります。

(2)私達の宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります

①地球に生きる全ての生態系は地球の外で生きて行く事は不可能なのです。

②ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生き続けても地球からのバックアップなしには生き続けられません。

③よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うために環境保全を実行する必要があります。

(3)Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、身の回りのできる事を実行する)

①環境保全を推進するにあたり大切な事はまず地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、又その原因がどこにあるかをしっかり知ることです。

②そして、地球規模で起こっている問題を考えつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てばできる簡単な事です。

2.協力依頼

(1)まず、環境でどのような問題があるかを理解しましょう

①地球規模で温暖化が進み、それが原因で気候が大きく変動し、私たちの環境が破壊されています。

②農業、漁業、多くの産業が気候変動によって大きな打撃を受けています。

③生態系の根本である食物連鎖が途切れて絶滅種が多くなりつつあります。

(2)高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています

①エネルギー資源を節減する為に3R(Reduce, Reuse, Recycle)の実行

a. 削減 (Reduce)。まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。(例:電気や紙の削減)

b. 再使用 (Reuse)。同じモノをできるだけ多い回数使うように工夫をすることです。例えばサイズの問題で着る事ができなくなったウェアーを使える人に回してはどうでしょう。

c. リサイクル (Recycle)。使えなくなった物を上手く分解して素材ごとにリサイクルし再び資源として使用することです。(例:ペットボトル→繊維)

②夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫で冷暖房のエネルギー使用を削減

a. 冬には暖かい下着を着用し、或いはもう一枚重ね着をする事で暖房の温度を少し下げることができます。(ウォーム・ビズ)

b. 夏はできるだけ涼しい服装や、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げる事ができます。(クール・ビズ)

③ゴミは分別してリサイクルをしやすいように工夫する。

a.『混ぜればゴミ、分ければ資源』の言葉通り、廃棄物を分別する事で資源として再利用やリサイクルが可能になります。

b. 日常生活やスポーツ活動の中でも分別を心がけましょう。

④温暖化の源である二酸化炭素を減らす為に炭酸同化作用（二酸化炭素を吸って酸素を放出する作用)をする樹木を増やす手伝いをしましょう。

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行しましょう。

スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進する事が大切です。できればスポーツマンが模範的活動を推進し社会の中で環境保全のリーダーとなるように願っています。

スポーツと環境について15分レクチャー原稿

15分間のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1.私達は全員地球人です(宇宙船地球号の乗組員)

①46億年前に地球は形成されました。

②300万年前に人類が地上に出現しました。

③1万年前に大家族制による農業革命がおこりました。

④20世紀は人類の転換期(文明の急速発達)でした。

⑤便利な社会になった反面、大量の化石燃料を消費する事によって温暖化が進み、気候が大きく変動し自然の破壊、環境の汚染が進んでいます。

⑥環境問題を列記してみましょう。

a. 地球温暖化

b. オゾン層破壊

c. 酸性雨

d. 野生生物種の減少

e. 森林の減少

f. 地球規模の砂漠化

g. 海洋汚染

h. 有害廃棄物の越境移動

i. 大気汚染

2.スポーツと環境についての理解

①スポーツを愛する私たちも皆、地球人。

a. スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係が無いと思われるかも知れないがそれは幻想です。

b. 人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に環境保全を実行する義務があります。

②私達の宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります。

a. 地球に生きる全ての生態系は地球の外で生きて行く事は不可能なのです。

b. ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生き続けても地球からのバックアップなしには生き続けられません。

c. よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うために環境保全を実行する必要があります。

③Think Globally, Act Locally（地球規模で考え、身の回りのできる事を実行する。）

a. 環境保全を推進するにあたり大切な事はまず地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、又その原因がどこにあるかをしっかり知ることです。

b. そして、地球規模で起こっている問題を考えつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てばできる簡単な事です。

3.スポーツと環境活動の経緯を見てみましょう

①1972年札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林。

②1976年デンバーオリンピック大会開催返上（経済・環境問題）。

③1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた。

④1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた（スポーツ・文化・環境）。

⑤1992年バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加国署名。

⑥1994年IOC100周年パリ・コングレスでスポーツと環境分科会開催。

⑦1995年IOCにスポーツと環境委員会設置。

⑧1995年第1回IOCスポーツと環境世界会議をスイス・ローザンヌで開催。

⑨1997年第2回IOCスポーツと環境世界会議をクウェート・クウェート市で開催。

⑩1999年 第3回IOCスポーツと環境世界会議（ブラジル・リオディジャネイロ）でOlympic Movement's Agenda 21（オリンピック運動の環境保全規約書）を採択、IOCで承認された。

⑪2001年4月JOCにスポーツ環境委員会設置、活動を開始。

⑫2001年11月第4回IOCスポーツと環境世界会議を長野で開催。
"Give The Planet A Sporting Chance" Olympic Movement's Agenda 21の実践。

⑬2003年第5回IOCスポーツと環境世界会議をイタリア・トリノで開催。
スポーツ関係者（選手、役員、IOC, IF, NOC, NF, OCOG, 地方政府、観客、放送、スポンサー、サプライヤー、建設業者など）が有機的に連繋を取り合い、環境に対してパートナーシップを組むことが決議された。

⑭2005年第6回IOCスポーツと環境世界会議をケニア・ナイロビで開催。

⑮2007年第7回IOCスポーツと環境世界会議を中国・北京で開催。

⑯IOCジャック・ロゲ会長がIOCのスポーツ界における環境保全活動を認められ国連環境計画から「地球のチャンピオン」として表彰を受けた。

⑰IPCC（気候変動に関する国際パネル）の第4次報告と映画「不都合な真実」がノーベル平和賞を受賞。

⑱IOCはUNEPが進める「10億本の植樹キャンペーン」の支持を表明。

4.協力依頼

(1)まず、環境保全のキーワードを列記し、その意味を述べて見ましょう

(2)「持続可能な開発」と「持続可能性」

①『持続可能な開発』は92年リオ・サミットの頃のキーワードでした。すなわち経済の発展が

過ぎれば環境破壊は壊滅的に進む。片や環境保全を厳しく実行すると経済が疲弊して社会システムが崩壊する。そこで経済の発展と環境保全のバランスを丁度いい所に折り合いをつけて、人類が持続可能な社会の開発をしようというものです。

②『持続可能性』は逆に人類を地上に持続させる為にはどのような仕組みを作るべきかを考える方法です。いずれにせよ社会のどのような要素にもどこかで折り合いをつける必要があるのです。

(3) 循環型社会の形成

①これは消費財や食品などの廃棄物を全て資源としてリサイクルし、新しい製品にしてそれを消費して行くという循環型の社会形成を目指すものです。

②例えば、食品の生ゴミをある一定期間（約25日）酵素処理をすると素晴らしい肥料になります。これを用いて野菜を育成すると食品は循環している事になります。

③各種プラスチック製品、金属製品を上手く分別回収、リサイクル処理をすると再び資源として製品の原材料になります。

④これを繰り返す事により新しい資源の節減が図られるのです。

(4) ゼロ・エミッション

①ゼロ・エミッションとは排出物ゼロと言う意味です。

②循環型社会形成には不可欠の考え方で社会は排出物を出さない。すなわち今までの排出物を分別回収すれば、それらはまた資源となるのです。

③特に製品を生産している工場は原材料の切れ端や削りカスなどを今までは廃棄物としていましたが、上手く分別して新しい資源として工場から運び出せば、その工場の排出物はゼロになるのです。

④ゼロ・エミッションのキーワードは「混ぜればゴミ・分ければ資源」です。

(5) 高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています

①エネルギー資源を節減する為に3R（Reduce, Reuse, Recycle）の実行。

a. 削減（Reduce）。まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。（例：電気や紙の削減）

b. 再使用（Reuse）。同じモノをできるだけ多い回数使うように工夫をすることです。例えばサイズの問題で着る事ができなくなったウェアーを使える人に回してはどうでしょう。

c. リサイクル（Recycle）。使えなくなった物を上手く分解して素材ごとにリサイクルし再び資源として使用することです。（例：ペットボトル→繊維）

(6) 夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫で冷暖房のエネルギー使用を削減

a. 冬には暖かい下着を着用し、或いはもう一枚重ね着をする事で暖房の温度を少し下げることができます。（ウォーム・ビズ）

b. 夏はできるだけ涼しい服装や、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げる事ができます。（クール・ビズ）

(7) 温暖化の源である二酸化炭素を減らす為に炭酸同化作用（二酸化炭素を吸って酸素を放出する作用）をする樹木を増やす手伝いをしましょう

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行してください。

スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進する事が大切です。できればスポーツマンが模範的活動を推進し社会の中で環境保全のリーダーとなるように願っています。

スポーツと環境について30分レクチャー原稿

30分間のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1.私達は全員地球人（宇宙船地球号の乗組員）

(1)46億年前に地球は形成されました
(2)300万年前に人類が地上に出現しました
(3)1万年前に大家族制による農業革命がおこりました
(4)20世紀は人類の転換期（文明の急速発達）でした
(5)便利な社会になった反面、大量の化石燃料を消費する事によって温暖化が進み、気候が大きく変動し自然の破壊、環境の汚染が進んでいます

2.環境問題を列記し問題とその影響を見てみましょう

Ⅰ.地球温暖化

二酸化炭素などの「温暖化ガス」が増加する事によって地球の平均気温が上昇
(1)海面水位上昇による土地の喪失
(2)豪雨や干ばつなどの異常気象の増加
(3)生態系への影響や砂漠化の振興
(4)農業生産や水資源への影響
(5)マラリアなど熱帯性の感染症発生数の増加

Ⅱ.大気汚染と酸性雨

化石燃料の燃焼などにより生じる硫黄酸化物や窒素酸化物などが大気中で酸性の化合物となり、雨などに取り込まれ地上に降る現象
(1)森林の衰退
(2)湖沼や河川などの酸性化とそれによる生態系への影響
(3)歴史的な遺跡や建造物などへの影響

Ⅲ.オゾン層の破壊

「CFC」などの人工化学物質が地球を取り巻く「成層圏」に存在しているオゾン層を破壊する事
(1)皮膚がんや白内障の増加
(2)免疫抑制などによる人の健康への影響
(3)動植物の生育阻害など生態系への影響
(4)大気汚染などの影響

Ⅳ.野生生物の減少

森林（熱帯林）の破壊、海洋汚染、砂漠化、地球温暖化、酸性雨によって野生の動植物が減少し種の絶滅問題
(1)遺伝子資源の減少
(2)観光・レクリエーション資源の減少
(3)生態系の破壊

(4)食物連鎖の破壊

V.森林の減少

焼畑耕作や放牧地・農地への転換、過度の薪炭材採取、不適切な商業伐採などによる熱帯雨林、ロシア、カナダの北方針葉樹林の減少問題

(1)そこに生息する野生生物種の減少
(2)土壌(表土)の流失
(3)森林に蓄積された炭素がCO_2となって放出される事による温暖化の進行
(4)水源の涵養機能や熱循環、海と陸との相互作用機能の低下

VI.地球規模の砂漠化

干ばつなどの気候的要因のほかに、放牧地の再生能力を超えた家畜の放牧や薪炭材の過剰採取などによる砂漠化

(1)食糧生産基盤の悪化
(2)生物多様性の喪失
(3)貧困の加速
(4)気候変動への影響
(5)都市への人口の集中
(6)難民の増加

VII.海洋汚染

タンカー事故や海洋への汚染物質の投棄、河川などを通じた陸起源の汚染物質の流入、沿岸の開発など様々な人為的要因により進行

(1)生態系の破壊
(2)漁業資源や観光資源の喪失
(3)有害物質汚染による海洋生物への影響と海洋生物経由の人体への影響

VIII.有害廃棄物の越境移動

海洋に投棄されたり、沿岸から流出する汚染物質や工業廃棄ガスなどが海や大気の流れにより世界中に広がる問題

3.スポーツと環境についての理解

(1)スポーツを愛する私たちも皆、地球人

a. スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係が無いと思われるかも知れないがそれは幻想です。

b. 人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に環境保全を実行する義務があります。

(2)私達の宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります

a. 地球に生きる全ての生態系は地球の外で生きて行く事は不可能です。

b. よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うために環境保全を実行する必要があります。

c. ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生きていても地球からのバックアップ無しには生き続けられないのです。

(3) Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、身の回りの出来る事を実行する)

a. 環境保全を推進するにあたり大切な事はまず地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、又その原因がどこにあるかをしっかり知ることです。

b. そして、地球規模で起こっている問題を考えつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てば出来る簡単な事です。

4.スポーツと環境活動の簡単な経緯を見て見ましょう

①1972年札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林。
②1976年　デンバーオリンピック大会開催返上(経済・環境問題)。
③1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた。
④1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた(スポーツ・文化・環境)。
⑤1992年バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加国署名。
⑥1994年IOC 100周年パリ・コングレスでスポーツと環境分科会開催。
⑦1995年IOCにスポーツと環境委員会設置。
⑧1995年第1回IOCスポーツと環境世界会議をスイス・ローザンヌで開催。
⑨1997年第2回IOCスポーツと環境世界会議をクウェート・クウェート市で開催。
⑩1999年 第3回IOCスポーツと環境世界会議（ブラジル・リオディジャネイロ）でOlympic Movement's Agenda 21（オリンピック運動の環境保全規約書)を採択、IOCで承認された。
⑪2001年4月JOCにスポーツ環境委員会設置、活動を開始。
⑫2001年11月第4回IOCスポーツと環境世界会議を長野で開催。
"Give The Planet A Sporting Chance" Olympic Movement's Agenda 21の実践。
⑬2003年第5回IOCスポーツと環境世界会議をイタリア・トリノで開催。
スポーツ関係者(選手、役員、IOC, IF, NOC, NF, OCOG, 地方政府、観客、放送、スポンサー、サプライヤー、建設業者など）が有機的に連繋を取り合い、環境に対してパートナーシップを組むことが決議された。
⑭2005年第6回IOCスポーツと環境世界会議をケニア・ナイロビで開催。
⑮2007年第7回IOCスポーツと環境世界会議を中国・北京で開催。
⑯IOCジャック・ロゲ会長がIOCのスポーツ界における環境保全活動を認められ国連環境計画から「地球のチャンピオン」として表彰を受けた。
⑰IPCC(気候変動に関する国際パネル)の第4次報告と映画「不都合な真実」がノーベル平和賞を受賞。
⑱IOCはUNEPが進める「10億本の植樹キャンペーン」の支持を表明。

5.協力依頼

(1)まず、環境保全のキーワードを列記し、その意味を述べて見ましょう

(2)「持続可能な開発」と「持続可能性」

①『持続可能な開発』は92年リオ・サミットの頃のキーワードでした。経済の発展が過ぎれば環境破壊は壊滅的に進み、片や環境保全を厳しく実行すると経済が疲弊して社会システムが崩壊する。そこで経済の発展と環境保全のバランスがちょうどいい所に折り合いをつけて、人類が持続可能な開発をしようというものです。

②『持続可能性』は逆に人類を地上に持続させる為にはどのような仕組みを作るべきかを考える方法です。いずれにせよ後のような要素もどこかで折り合いをつける必要があるのです。

(3) 循環型社会の形成

①これは消費財や食品などの廃棄物を全て資源としてリサイクルし、新しい製品にしてそれを消費して行くという循環型の社会形成を目指すものです。

②例えば、食品の生ゴミを酵素である一定期間（約25日）処理をすると素晴らしい肥料になります。これを用いて野菜を育成すると食品は循環している事になります。

③各種プラスチック製品、金属製品を上手く分別回収、リサイクル処理をすると再び資源として製品の原材料になります。

④これを繰り返す事により新しい資源の節減が図られるのです。

(4) ゼロ・エミッション

①ゼロ・エミッションとは排出物ゼロと言う意味です。

②循環型社会形成には不可欠の考え方で社会は排出物を出さない。すなわち今までの排出物の分別回収をすれば、それらはまた資源となるのです。

③特に製品を生産している工場は原材料の切れ端や削りカスなどを今までは廃棄物としていましたが、上手く分別して新しい資源として工場から運び出せば、その工場の排出物はゼロになるのです。

④ゼロ・エミッションのキーワードは「混ぜればゴミ・分ければ資源」です。

(5) 高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています

①エネルギー資源を節減する為に3R（Reduce, Reuse, Recycle）の実行。

a. 削減（Reduce）。まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。（例：電気や紙の削減）

b. 再使用（Reuse）。同じモノを出来るだけ多い回数使うように工夫をすることです。例えばサイズの問題で着る事が出来なくなったウェアーを使える人に回してはどうでしょう。

c. リサイクル（Recycle）使えなくなったものを上手く分解して素材ごとにリサイクルし他の物資にして使用することです。（例：ペットボトル→繊維）

(6) エネルギーを節減する工夫、夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫をして冷暖房の負荷を下げる

①冬には暖かい下着を着用し、またもう一枚重ね着をする事で暖房の温度を少し下げることが出来ます。（ウォームビズ）

②夏は出来るだけ涼しい服装をし、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げる事が出来ます。（クールビス）

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行してください。

6.スポーツと環境に関与する要素には次のようなものがあります

(1) 会場立地

①スポーツ施設の立地について、まわりの空気や水が基準以上でなければ選手・コーチの健康を損なう可能性がある。

②施設建設が自然を大きく破壊する事がないように配慮する。

③特に冬のスポーツ施設の立地が天然記念物の生息地に掛からないように配慮する。

(2) 施設

①施設建設に当たっては自然との調和を図るよう最善を尽くす事。

②空調のエネルギー節減のため天窓を上手く配置し、冬は温室効果で暖かく、夏は窓を開放する事で暑い空気を天窓から出す事で涼しさを保つ工夫をする。
③アイスアリーナなどはアンモニアの直接製氷法から間接にし、アンモニアの漏れでの環境破壊や選手の競技環境を損なわないように努める。

(3)運営
①スポーツ大会、競技会、スポーツ教室などの運営に当たっては、資源・エネルギーの節減に努める。特にコピーは両面を使い、できればパソコンなどのディスプレー画面で仕事の処理ができるように努める。
②運営全体での資源・エネルギーの消費量を数値化し計測し、削減に努めるとともに次回にはより削減できるよう工夫をする。

(4)役員
①競技・運営役員はスポーツ環境保全の重要性を認識し、スポーツ界全体の環境保全が実践されるよう啓発活動を行なう。
②役員は身の周りでできる環境保全活動を率先垂範で実践する。

(5)選手・コーチ
①選手・コーチは清潔でクリーンな競技環境で競技や訓練が実施できるよう最善を尽くす。
②選手(特にトップ選手)は衆目を集めるので、環境保全に対しての理解を深め啓発活動の一環としてチャンスがあるごとに環境保全の大切さをアピールする。

(6)オフィスワーク
①スポーツに拘るオフィスはスポーツ環境の概念を良く理解してオフィスワークに活用する。
②資源・エネルギーの削減、またグリーン購入法に基づいて物品購入を行う。

(7)観客
①スポーツ競技会の観客にはポスターやパンフレットでスポーツ環境の意義の理解を深める啓発活動を行なう。
②ゴミの持ち帰り運動を推進し、会場清掃量を削減する。又各々の観客が持ち帰ったゴミは分別してリサイクルに回されるのが望ましい。

(8)用具
①スポーツ品メーカーは環境に配慮した製品を企画製造する。
②完全リサイクルができる「ナイロン6」素材のもの。
③準完全リサイクルは元の原材料には戻らないが形を変えて製品化できるもの。
④リサイクル素材の活用。回収ペットボトルから作られた繊維を利用した製品(混紡をするゆえ品質機能には全く問題はない)。
⑤製造技術を改善し省資源・省エネでスポーツ品を製造する。
⑥有害物質は全く使わない(塩化ビニール・フロンなど)。

(9) メディア

①スポーツを報道するメディアにもスポーツ環境の大切さに対する理解を促進し協力を依頼する。

②メディア活動においても省資源・省エネを促進する。

7.低炭素社会(ローカーボン・ソサエティー)の構築

地球温暖化が気候変動を顕在化させる中、2007年にIPCC（気候変動に関する国際パネル）と温暖化を明快に解説し警鐘を鳴らす映画「不都合な真実」を制作したアル・ゴア米前副大統領にノーベル平和賞が授与された。

高度文明で排出される二酸化炭素ガスやCO2の23倍の温室効果があるメタンガスなどが温室効果ガスとして温暖化を引き起こしている。

二酸化炭素ガスを吸収し酸素を放出する炭酸同化作用（光合成）を用いて炭酸ガスを減少させ酸素を多くするため植樹を促進しつつある。

各種活動で排出される温暖化ガスを植樹する事で相殺することをカーボンオフセットと言い、その植樹の費用を対価として支払う事も可能とされる。

エネルギーと資源の削減などと植樹で大気中の温暖化ガスを減少させることで低炭素社会の構築を目指す事が求められている。その結果として地球温暖化の進行を遅くし、地球の持続可能性を向上できると考えられている。

8.スポーツ環境の活動に必要な要素を列記しました。この活動にゴールはありません。啓発や実践を地道に継続的に進める忍耐力が必要です

①気の長さ

②忍耐力

③継続力

④適正なペース

⑤実効性

⑥リーダーシップ

9.スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進する事が大切です。できればスポーツマンが社会の中で模範的環境保全のリーダーとなるように願っています

6 IOCスポーツと環境委員会について

IOC Sport and Environment Commission

持続可能性を意識した「スポーツと環境」へ

1990年代初頭、フアン・アントニオ・サマランチ前IOC会長によりオリンピック運動は今までのスポーツ・文化に加えて環境を持ってその3本柱にすると提唱されました。1995年IOC100周年オリンピック・コングレスの「スポーツと環境」分科会の決議を経て、IOCには1996年にスポーツと環境委員会が設置されました。爾来、委員会はスポーツ界における環境保全の大切さを啓発し、オリンピック大会における環境保全活動はもとよりメガイベント、NOCとの連携で国内選手権大会から草の根のスポーツ活動まで実現可能な対策を実施してきました。

21世紀に入り、危惧していた二酸化炭素の排出による地球温暖化が進み、我々にも体感できるほど気候変動が顕在化してきました。スポーツ界でも降雪量が激減するとスキー競技が成り立たない事や、気温が異常に高くなる中でのスポーツ競技に対する配慮など気候変動がスポーツに及ぼす影響を憂慮しつつあります。

IOCの委員会でも従来、積極的に活動してきた啓発活動、実践活動に加えてキーワードとしてロー・カーボンを討議し、カーボン排出を抑制するのみならず植樹活動を積極化させる方向にあります。

過去のIOCの世界会議で、環境保全活動はできる限り多くのスポーツ関係者と連携・協力をすることにより、その輪を広げ効果を高めることが求められると決議をしました。このスポーツ関係者とはIOC、NOCs、IFs、NFs、OCOGs、選手、役員、観客、自治体、メディア、スポンサー、施設管理者、施設建設者などスポーツを取り巻く関係者のことです。

2009年3月末にバンクーバーにて「革新と感化：スポーツの力を変革に活かす」をテーマに第8回IOCスポーツと環境世界会議が開催され多くの有益な討議が行われ、特に今後は新しい切り口でスポーツ界の環境保全を進めることが決議されました。

言われて久しい環境に対する言葉「Think globally, Act locally 地球規模で考え、我々ができる事を実行する」が見直され、特に実践力が問われる時代です。スポーツにかかわる皆さんには温暖化の実情をよく認識し、より多くの関係者とできる対策を実行してください。

IOCスポーツと環境委員会
委員　水野 正人

(1) IOCスポーツと環境委員会

IOC Sport and Environment Commission

INTERNATIONAL
OLYMPIC
COMMITTEE

2008 Sport and Environment Commission

Date:	Thursday 29 May 2008
Time:	9.00 am - 12.30 pm & 2.00pm to 4.00pm
Place:	IOC – Salle Coubertin
Organiser:	International Cooperation and Development Dept
Participants:	Members of the Commission, Mr T.A. Ganda Sithole, Ms Nicole Girard-Savoy, Mr Edward Kensington
Objective:	Annual Meeting

Meeting agenda（会議次第）

	SUBJECT	
1	Welcome by the IOC President	IOC 会長による挨拶
2	Response by Commission Chairman	委員長による応答
3	Presentation of new Members	新委員の紹介
4	Approval of the Minutes of 28 October 2007	2007 年 10 月 28 日の会議議事録の承認
5	Overview report by the Commission Chairman	委員長による概要報告
6	Report by the Director of the Department of International Cooperation & Development	国際協力と発展局長による報告
7	Analysis of the 7th World Conference on Sport and the Environment: Feedback from participants	第 7 回スポーツと環境世界会議 ：参加者による分析
8	8th World Conference on Sport and the Environment : update and applying feedbacks	第 8 回スポーツと環境世界会議の最新
9	NOC Case Studies	NOC の事例研究
10	IOC Environment Award -Launch & regulations -Entries & deadlines -Jury and Jury meeting	IOC 環境賞 - 開始と規程 - エントリーと締切日 - 審査員と審査会
11	Regional seminars	地域セミナー
12	Report of the Olympic Solidarity	オリンピックソリダリティーの報告
13	Report of the BOCOG representative	BOCOG 代表の報告
14	Report of the VANOC representative	VANOC 代表の報告
15	Report of the LOCOG representative	LOCOG 代表の報告
16	Report of the SOCHI representative	SOCHI 代表の報告
17	Miscellaneous	その他
18	Next Commission meeting and World Conference	次の委員会会議と世界会議

2009 Sport and Environment Commission

Date:	Sunday 29 March 2009
Time:	9.00 am - 13.00 pm
Place:	Vancouver – Pan Pacific Hotel, Oceanview Room
Organiser:	International Cooperation and Development Department
Participants:	Members of the Commission, Mr T.A. Ganda Sithole, Mr Gilbert Felli, Ms Kathryn Forrest, Ms Elizabeth Sluyter-Mathew ; Ms Michelle Lemaitre, Mr Meinel
Objective:	Annual Meeting

Meeting agenda（会議次第）

	SUBJECT	
1	Welcome by the IOC President (delivered by Vice-President)	IOC会長による挨拶（副会長代読）
2	Response by Commission Chairman	委員長による応答
3	Presentation of new Members	新委員の紹介
4	Approval of the Minutes of 29 May 2008	2008年5月29日の会議議事録の承認
5	Overview report by the Commission Chairman	委員長による概要報告
6	Report by the Director of the Department of International Cooperation & Development	国際協力と発展局長による報告
7	Report by the Executive Director of the Olympic Games	北京オリンピック報告
8	8th World Conference on Sport and the Environment	第8回スポーツと環境世界会議
9	IOC Environment Award	IOCスポーツと環境賞
10	IOC Congress – The role of sport and environment	IOCコングレス – スポーツと環境の役割
11	Presentation of IAKS award	IAKS賞の贈呈
12	Regional seminars	地域セミナー
13	Report from the Olympic Solidarity	オリンピックソリダリティーの報告
14	Report of the BOCOG representative	BOCOG代表の報告
15	Report of the VANOC representative	VANOC代表の報告
16	Report of the LOCOG representative	LOCOG代表の報告
17	Report of the SOCHI representative	SOCHI代表の報告
18	Next World Forum	次回の世界会議
19	Miscellaneous	その他
20	Next Commission meeting	次の委員会会議

(2) 第8回IOCスポーツと環境世界会議

8th IOC World Conference on Sport and Environment

■会議概要

開催期間：2009年3月29日(日)～31日(火)
開 催 地：カナダ・バンクーバー市
出 席 者：IOC、UNEP(国連環境計画)、IOC委員、IOCスポーツと環境委員、NOCs(80)、IFs(20)、OCOG、研究機関、NGOs、申請都市、その他関連団体(93カ国、413名)
テ ー マ：「イノベーション&インスピレーション(革新と感化)；スポーツの力を変革に活かす」
プレゼンテーション：水野IOCスポーツ環境委員　他

第8回スポーツと環境世界会議 決議

第8回スポーツと環境世界会議は、各国内オリンピック委員会、各国際競技連盟、オリンピック組織委員会(北京、バンクーバー、ロンドン、ソチ)、開催立候補都市、国際オリンピック委員会代表者、国際パラリンピック委員会、オリンピアン／パラリンピアン、国連環境計画(UNEP)、オリンピックムーブメントパートナー、スポーツおよびレクリエーションイベント主催者、環境団体、調査研究所、その他オリンピックムーブメントのメンバーの出席のもと開催された。

オリンピック冬季競技大会(2010／バンクーバー)およびパラリンピック冬季大会の開催まで1年を切った今、大会を主催する北米先住4民族 (Four Host First Nations)の伝統的領土であるこの地バンクーバーにおいて、本会議が開催されることの意義を認識し、関係者の参加と出席に感謝の意を表す。

本会議の意義を高めた、重要な2テーマがあり、次の通りである。

ⅰ. 現在の世界規模の経済危機は全ての人々に影響を及ぼしている。経済危機によりさらなる課題が生まれてはいるが、「環境と持続可能性の問題は引き続き最優先事項であり続けなければならない」という、またとない機会をもたらしている。経済と環境は、環境に配慮した持続可能性の向上のため、共に対処されるべきである。

ⅱ. スポーツ界において若者の参加が重要なことは、万人が認めるところである。IOCがこれを重要視していることは、強力な環境的内容を含む、教育要素にも重点を置くユースオリンピックが、2010年にシンガポールで初開催されることによっても明らかである。環境問題で未来の世代を人生の早い時期に、持続可能な開発の最高の実践に触れさせ適切な教育を行うことは、将来に亘って影響を与えることになる。

本会議は、上記のテーマを念頭に置き、スポーツを通して持続可能性を高めるために参加者が協力して行う努力を「増幅」させるイノベーション&インスピレーション(革新と感化)の重要な側面に焦点を当てた。

スポーツ、文化に加え、環境がオリンピック・ムーブメントの3本柱として提唱されて14年を経過して、本会議は、この間の努力や成果や多くのサクセスストーリーを振り返る機会を提供した。これが参加者や支持者を増加させるに十分なインスピレーションを提供している。

目に見える成果を挙げるには、創造とイノベーション(革新)が重要な要素であることが認識された。本会議の参加者は、次ように結論し、提言する。

1．持続可能な開発におけるスポーツ界の継続的な関与を確実にするという点において、NOCの果たす役割がますます大きくなる。

- NOCは、それぞれの状況に則し、異なる課題に取り組む必要がある。しかし同時に、NOCがさらなるオリンピック・ムーブメントの持続可能性行動計画に向けた活動において、重要なパイプ役であることを認識することが不可欠である。
- NOCは、オリンピック組織委員会のプログラム、実務、レガシー（遺産）のみならず、開催候補都市の提案や目的に対する理解をさらに深めて行くことが望まれる。NOCが地域社会から支持される具体的な事業をもって国内外のパートナーに働きかけ、また契約上の取極めには持続可能な活動に向けた規定を含むようにすることが推奨される。
- NOCは、具体的な環境活動を実施するために地方自治体とパートナーシップを構築することが奨励される。

2．IF（国際競技連盟）は、世界中のスポーツ組織において、持続可能性を前進させるために重要である。

- 各IFは、スポーツを通じた持続可能性の原則を発展させその原則を各国の国内競技連盟に普及させること、そのための政策を立て、関連する計画を支援することが奨励される。

3．OCOG（オリンピック組織委員会）は、スポーツ施設およびイベントの企画立案、実現、跡利用（遺産）におけるイノベーション（革新）の重要な発信源となる。

- スポーツ界は、オリンピック組織委員会および開催候補都市により提供された実例を研究し、それぞれの事業において適切な規模で応用する可能性を探るべきである。
- オリンピック組織委員会は、最高水準の持続可能性と跡利用（遺産）を行うオリンピック競技大会を創造、推進するために、最新の革新的手法と技術を活用する能力を持っている。
- これらのベストプラクティス（最高レベルの実践）を共有し伝えていくことは、オリンピック/パラリンピックの持続可能性を引き続き進展させるために必須である。
- オリンピック競技大会は、環境への認識を高めるために他に類を見ない機会を提供するとともに、地域社会における環境問題への新たな手法の開発と、『環境規範』の実施を促す。そしてこれらによって、より上質の新たな地域水準が達成されることになる。

4．オリンピックムーブメントの企業スポンサーは、スポーツ・地域社会・スポンサーの間で相互に利益をもたらすスポーツイベントを生み出す上で引続き重要な役目を果たす。

- 本会議は、オリンピックムーブメントのスポンサーに、持続可能な実践活動や技術をオリンピック関係者と共有し、可能な資源（資産）を教育目的に導入（投下）し、若者の環境（保護・知識）に対する意識度と関与と能力を向上させることを奨励する。

地域社会に基礎を置く組織は、地元の参加、革新と感化、また最高レベルの実践活動の普及を促進する核となることから、スポーツおよび環境活動において必要不可欠な要素である。

アスリートは、重要なお手本となる。持続可能性のアジェンダ（行動計画）の推進へのアスリートの協力は、人々、特に若者の行動に影響を与え、感化する潜在的力を持っているからである。

本会議に参加したスポーツ選手の言葉をもって、本会議を終了する。

「最も革新的な精神を持つものは若者である。環境と最も調和できるのも若者である。」

バンクーバー、ブリティッシュコロンビア、カナダ

2009.3.31

■会議報告者所感

第8回IOCスポーツと環境世界会議組織委員会
ディビッド・チェルノシェンコ
カナダ、バンクーバー
2009年3月31日

1. 理論から実践への動きは着実に進行している

1995年の第1回会議（ローザンヌ）では環境問題への熱意（aspiration）が話題の中心でスポーツは何が出来るのかが議論されたが、今回の会議では実際にどのようなことが行われたか、将来に向かってどのような約束が行われたかなどが議論された。発展が見られた。

2.「持続可能なスポーツ」の活動は今や単なる「スポーツ＋環境」活動を越えつつある。

真にそれを追求すれば社会や経済との関わりが避けられない。従来の単なる環境保護活動から「持続性あるスポーツ」（sustainable sports）や「スポーツを通じた持続性」(sustainability through sports)の実現に主軸を置き社会活動として環境問題に関わる方向に展開を見せている。

3. アスリートの豊かな経験談の重要性

今回の会議ではアスリートの「経験談」が参加者を感動させたが、アスリート自身が経験を人に語ることの重要性を認識したという点が重要である。

経験談は聞く人に情報をもたらし発想を広げる。行動計画（Action plan）や行動原則（Principle）などよりも人を動かす力を持っている。

4. スポンサーは「革新」のパートナーとなる可能性を秘めている

スポンサーも人間として環境問題には関心。スポンサーは邪魔物ではなく一緒に行動できるよう働きかけることが必要。何かをする上で「スポンサーから動かされる」のではなく「スポンサーを動かす」ことが必要。成熟したパートナーシップ関係ではスポンサーは革新者になる、単なる利益追求者としてみるべきではない。

5. 実際に行われた環境活動についてはどのような効果を挙げたかについての評価とその報告が重要

環境活動が改善され、継続するために重要なことである。何がうまくいっており、何がうまくいっていないかの評価が必要。Green wash（外見は環境に配慮しているが実効が上がらない）ではないかなどと無駄な議論をしないためにも必要。透明性を確保し評価を可能にすることも必要。

6. 若者を巻き込め

多くの若者は環境に敏感。若者の情熱は大事。若者が参加し真のパートナーになればパワーを発揮してくれるし、われわれの目を覚まし感化してくれる。

7. 環境問題を理解する地域社会の構築

地域は単なる「場所」ではない。そこは環境問題への関心が高まる場所であり、幾つかの関係者にとっては唯一接触できる場でもある。感化の対象として重要でありパートナーとして不可欠である。

［将来に向かっての挑戦］

1. 自分が影響を及ぼすことのできる範囲に的を絞り働きかけること

個人の活動やリーダーシップが効果を挙げるために必要なことである。

2. 与えられた解決法では我々は団結できない。価値と原則がわれわれを結びつける

それぞれに置かれた状況は異なるので解決策は一つではない。共通の解決法というものはない。普遍的な原則や価値に従って活動することが重要である。

3. コミュニケーションで新機軸を見出す事

人を感化するにはコミュニケーションが必要だがコミュニケーションの方法には工夫が必要。経験談もその一つ。

4. フェアプレイは問題解決策の発見につながる

スポーツの特性（フェアプレイ）が（環境問題に対して）解決策を見出す共通の努力を生み出す。

5. 環境の劣化を防ぐことより環境をさらに改善することに関心を持とう

人間はより良いものをのぞむ。単に悪化を防ごうとするだけではない。単なる回復や現状維持ではなく改善を。

プログラム

第一日目
環境の革新へ向けたスポーツ

08:30−09:30	開会式
09:30−10:30	基調講演　「不確実な経済下で成果を上げる環境対策の向上」
10:30−11:00	休憩
11:00−12:15	全体会議　「如何にスポーツは環境の責任を取り込むか」
12:15−13:45	昼食対談　「リーダーシップの現況に関する意見交換」
13:45−15:00	分科会 1　「緑から金メダルへ：革新的スポーツ施設」
	分科会 2　「スリム化に向けて：エネルギー需要の収縮」
15:00−15:30	休憩
15:30−17:00	分科会 3　「環境を核に：運営とサプライチェーンの改革」
	「スポーツ関係者間の協働の促進」水野正人
	分科会 4　「ステップアップ：スポーツのカーボン排出の管理」
17:00−19:30	表彰式　「スポーツと環境賞」授賞式とレセプション

第二日目
意識を高める日

08:30−09:30	講演　「スポーツの力で変化を」
09:30−10:45	分科会 5　「未来のリーダー：スポーツを通じてユースの鼓舞」
	分科会 6　「スポーツ団体：スポーツの改善と持続可能への努力」
10:45−11:15	休憩
11:15−12:30	分科会 7　「共に歩こう：スポーツで強い社会作りを」
	分科会 8　「最大効果：持続可能性を加速するスポンサーの役割」
12:30−15:00	昼食対談　「スポーツの持続可能性の情熱溢れる推進者」
15:00−16:00	閉会式　「ここから何処へ行こうとしているのか」

(3)IOCスポーツと環境・地域セミナー

IOC Regional Seminar on Sport and Environment

■会議概要

開催期間：2008年11月28日(金)～29日(土)2日間
開 催 地：コロンビア・メデジン
出 席 者：アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、コスタリカ、キューバ、ドミニカ共和国、エクアドル、グアテマラ、ホンジュラス、メキシコ、パナマ、パラグアイ、ペルー、プエルトリコ、ウルグアイの17NOC、IOC理事アンドレス・ボテロ氏、IOCスポーツと環境委員の水野正人氏、IOCディレクター・シトーレ氏とロディ・オニャーテ氏(UNEP Information Official)

決　議

17NOC（アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、コスタリカ、キューバ、ドミニカ共和国、エクアドル、グアテマラ、ホンジュラス、メキシコ、パナマ、パラグアイ、ペルー、プエルトリコ、ウルグアイ）、IOC理事アンドレス・ボテロ氏、IOCスポーツと環境委員の水野正人氏、IOCディレクター・シトーレ氏とロディ・オニャーテ氏(UNEP Information Official)は、スポーツを通して持続可能な実践/プログラムの発展を促すためにラテンアメリカに集まった。

セミナーは、IOC スポーツと環境委員会メンバーからのプレゼンテーション、IOC国際協力開発部のディレクター、UNEP代表、コロンビアの環境の専門家と出席しているすべての人々の話を聞いた。

参加者は、環境がスポーツ・文化と共にオリンピック・ムーブメントの3本目の柱であり、そして、オリンピック・ムーブメント・アジェンダ21がこの局面の基礎を作ると認めた。

セミナー参加者は、約束する。

- 特に、若者、アスリート、メディアを対象とし、最大の議題である（平和、持続性、女性、発展、その他）環境について述べる。NOCにとっての環境行動計画を策定する。
- それぞれの国や各国内競技団体と協力して実践されているスポーツと環境プロジェクトによるオリンピックの団結したスポーツと環境プログラムを有効に活用する。
- IOCスポーツと環境賞に価値ある立候補者を選出し、IOCに推薦する。
- カナダのバンクーバーで2009年3月29日～31日で開催される第8回IOCスポーツと環境の世界会議に参加する。
- ラテンアメリカのために地域の／大陸セミナーの設立を考慮して、スポーツと環境情報を共有する。
- 全国／地域の／大陸大会に「環境に配慮しているか」か「環境にやさしい」と宣言する。

参加者は、セミナーのホスト、コロンビアオリンピック委員会、そして会長であるアンドレス・ボテロ氏、メデジン市、メデジンのスポーツ省と2010年の南米の大会の組織委員会のもてなしに感謝する。

(4)IOCスポーツと環境賞

IOC Award for Sport and the Environment

IOCスポーツと環境賞は、スポーツ分野における優れた環境活動について功績を認め、またさらなる実践を奨励することを目的として、IOCスポーツと環境委員会により創設されました。

世界各地の複数の団体が環境関連の賞を制定しており、その例として欧州環境賞（European Better Environment Awards）やUNEPの地球大賞（Champions of Earth Awards）などがあります。こうした環境賞はスポーツも対象としていますが、明確にスポーツを授与対象カテゴリーに定めた賞はありません。

オリンピック・ムーブメントの先頭に立つ組織として、IOCは健全な環境保全を積極的に促進し、行動規範を定めるという強い社会的責任を感じています。この考えを背景にIOCは、具体的に持続可能なスポーツと環境の分野で卓越した活動、イニシアティブ、プロジェクトを顕彰することとし、2年毎に開催するスポーツと環境世界会議の場で授与する賞を創設しました。

各大陸から選ばれた受賞者は、第8回スポーツと環境世界会議の席で表彰された
（IOC Official Websiteより）

FIRST-EVER WINNERS OF THE IOC SPORT AND ENVIRONMENT AWARD

© VANOC/Jon Benjamin

31 March 2009
The very first winners of the IOC Award for Sport and the Environment were announced on the first day of the World Conference on Sport and Environment in Vancouver. The inaugural trophies were presented to five organisations representing the five continents which have made tremendous contributions to the implementation of outstanding practices in the field of sustainable sport and the environment.

How the winners were selected
The entries received illustrated not only the involvement of sport in driving the environment agenda, but also the importance of its contribution. The winners were chosen from among individuals, groups and organisations nominated by National Olympic Committees (NOCs), International Sports Federations (IFs) and Continental Associations. A jury composed of members of the IOC Sport and Environment Commission selected the winners for each continent, taking into account the following basic evaluation criteria: impact of the activity/initiative/project on the promotion of sustainable sport; ability of the activity/initiative/project to be carried on and to serve as a catalyst for sustainable sport practice worldwide; voluntary contributions and innovative approaches.

The first-ever award was awarded to:
- For Africa: Green Africa Foundation
- For America: Oregon Track Club
- For Asia: Beijing Municipal Environmental Protection Bureau and the Beijing 2008 Olympic Games Organizing Committee (BOCOG)
- For Europe: German Olympic Sports Confederation (DOSB),
- For Oceania: "Rainbow Project" by Rowing New Zealand

Who are the winners?
Green Africa Foundation is a Kenyan organisation founded in 2000 to support ecological and environmental conservation with particular focus on arid and semi-arid lands in Kenya, where poverty is most prevalent. Recognising the impact of sport on ensuring environmental sustainability, the Foundation has launched a "Green Africa Sports" department, which sets up guidelines for sports organisers about environmental awareness, proper waste management, and creating and maintaining a green environment. Thus, on the occasion of the IAAF World Cross Country Championships held in 2007 in Mombasa (Kenya), the environmental project set up by the Foundation, in close cooperation with UNEP, was considered by the IAAF as having set a precedent for all future IAAF events. Its activities reach beyond athletics, going from table tennis to canoe kayak, and from golf to boxing.

The Oregon Track Club: The organising committee made the 2008 US Olympic Team Trials the first sporting event in North America to successfully implement and uphold sustainable initiatives such as those outlined in the Olympic Movement's Agenda 21. The Club has been committed to reaching a high standard of sustainability, including integration of sport with environmental, social and economic considerations. Its sustainable efforts have included providing shuttles and promoting cycling, reducing waste and encouraging recycling and composting. The competition area and adjacent Festival, known together as the "Superblock", were powered by 100% renewable energy.

The initiatives led by the **Beijing Municipal Environmental Protection Bureau and BOCOG** have significantly heightened awareness of environmental issues, leading to major advances in the areas of energy consumption, sustainable water consumption, transportation, waste management and air quality. The Beijing Games significantly raised the bar of incorporating sustainability in large scale events. Special efforts through institutional and technical tools implementation, established more than 160 projects within the greater Beijing area that will enhance the environmental legacy of the city and provide its population and visitors with a more environmentally friendly life.

The German Olympic Sports Confederation issues the "Green champions in sport and environment", A Guide to environmentally-sound large sporting events". This publication provides guidance and examples of good practices undertaken in Germany by analysing the ecological impact, such as climate, transport, energy, waste, use of materials, noise, nature and landscape, catering, merchandising and communications, that the different parties involved in sport have on the environment. Through this Guide, the sports community will endeavour and be encouraged to adopt a responsible attitude towards the environmental and sustainable development issues related to the practice of sport. Published by the German Federal Ministry for the Environment, Nature Conservation and Nuclear Safety and the German Olympic Sports Confederation, this Guide intends to encourage not only sports organisations, but also individuals, to be champions for sport and environment.

"The Rainbow Project" by Rowing New Zealand aims to host an environmentally sustainable 2010 FISA World Rowing Championships at Lake Karapiro without compromising New Zealand's unique environment. The Rainbow Project's environmental actions include a carbon emission reduction scheme, a zero waste plan, educational programmes for the next edition, a comprehensive bio-security strategy for inbound equipment, environmental protection for all permanent and temporary infrastructures, and the inclusion of an environmental officer on the organising committee. One of the goals of the Project is that 100% of the spectators in will have the choice to make a positive environmental contribution. With an unquestionable green focus, the 2010 FISA World Rowing Championships should leave a positive and sustainable legacy.

Learn more about promotion of sustainable development

© IOC 2007. All rights reserved.

7 OCAスポーツと環境委員会

OCA Sport and Environment Committee

第1回OCAスポーツコングレス

The 1st OCA Sport Congress 2009

■会議概要

開催期間：3月12日（木）～ 14日（土）3日間
開 催 地：クウェート
テ ー マ：スポーツと環境、アジアの女性スポーツ、アジア競技大会とユーススポーツ、アジアのスポーツ科学、アジアのスポーツマーケティング、アジアのスポーツ統治
内　　容：各テーマに対し約20名（総勢約120名）が3日間に渡りアジアのスポーツ界発展のためプレゼンテーションと意見交換を行った。

＊JOCからは、水野副会長、板橋常務理事、木村国際専門委員長、荒木田理事、河野理事他がスピーチを行った。

クウェート宣言

第1回OCAスポーツコングレスはクウェートに於て、NOC間の緊密性を高める必要を認識し、またアジアの伝統文化の重要性を保持しつつアジアのユースにスポーツ活動の等しい機会を与えるために2009年3月12日～ 14日に招集された。コングレスはアジアのユースがオリンピック教育と、スポーツに於けるドーピング防止の重要性を認識し、オリンピックムーブメントの将来への信条をもってOCA本部にOCAアカデミーを設置することをここに宣言した。

また、「One Sport- One Game, One Game- One Year（アジア総合競技大会で競技を重複させない。アジア総合競技大会は、1年に1大会とする）」の概念を今後考察し、真のオリンピック精神を持ってアジアのオリンピックムーブメントを推進するために全体の状況が最も適切な時期に実行されるべきである。

決　議

1.コングレスは全てのアジアNOCが将来のIOCのガイドラインに則り「グリーン・レガシー」の実践を活性化し、スポーツと環境の重要性を強力に普及することを推奨する。
2.コングレスは全てのアジアのオリンピックムーブメントにIOC女性委員会の活動を含めオリンピック・ソリダリティを通じ、より多くの女性を競技やスポーツの運営に参加させることを促進する。
3.スポーツは草の根からアジア大陸のユースまで広く友情と連帯を持ち、将来のアジアのオリンピックムーブメントを担うアジアのユースは団結し涵養されねばならない。
4.「One Sport- One Game, One Game- One Year（アジア総合競技大会で競技を重複させない。アジア総合競技大会は、1年に1大会とする）」の概念はNOCの負担を軽減するためにも実施されることが望ましい。
5.コングレスはWADAとの密接な協力体制により選手、コーチや役員に対してOCAアカデミーの支持で効果的な教育活動を提供することでドーピング防止を支援する。
6.スポーツ科学の体系的な調査から全てのNOCは技術的協力と技術交流を通じNOC間の緊密性を高めることを結論とする。
7.マーケティングと新しいメディア技術は、大会の収入を創出する主な機軸と捉え、現在の経済混乱の中でコングレスはアジアのオリンピックファミリーにスポーツが持つ公正性、闘志、尊厳を示すことによりスポーツの真の価値を創り、創造的で実現可能なマーケティング手法をもってスポンサーを引きつけアジアスポーツの資金を生み出すために結集する。
8.コングレスは関係NOCの大規模大会の準備に政府当局の協力を得て全てのアジアNOC運営と良好な相互関係を促進することが強く推奨される。

2009年3月14日

プログラム

Thursday 12 March 2009

10:02-10:15	OCA Sport Congress Themes multimedia Screen Show.
10:16-10:34	Key Note Speech by H.E.Sheikh Ahmed Al Fahad Al Sabah(OCA President)
10:35-10:56	Key Note Speech by H.E.Dr.Jacques Rogge(IOC President)
10:57-11:05	Speech by Dr.Reza Gharakhanlou(OCA Sport Commission Director)
11:10-11:30	Press conference for OCA President and IOC President
11:30-11:33	16th Asian Games Guangzhou Stamp Release.
11:33-11:35	Sponsorship Signature Ceremony(361Group)
11:35-11:45	361 Group uniform shows
14:00-	Start of workshops(See Attached Program for Details)
14:00-17:00	Generation of Peace through sport Workshop(Special Program)
16:00-	Contienue Workshops(See Attached Program for Details)

Friday 13 March 2009

09:30-12:00	Start of Workshops(See Attached Program for Details)
14:00-15:30	Continue Workshops(See Attached Program for Details)
16:00-18:00	Continue Workshops(See Attached Program for Details)
20:15-	Transportation to Arraya Ballroom
21:00-	Dinner Hosted by Kuwait NOC at Arraya Ballroom

Saturday 14 March 2009

09:30-12:30	Start of General Presentations(Main Hall)	
14:31-14:32	Sport Congress Photo Show(Back Ground Screen)	
14:33-14:38	Closing Speech of OCA President	
14:38-	MC announcement of the Price Winners for the best Paper	
	Theme1: Sport and Environment	(Winner1&2)
	Theme2: Women Sport in Asia	(Winner1&2)
	Theme3: Asian Games and Youth Sports	(Winner1&2)
	Theme4: Sport Science	(Winner1&2)
	Theme5: Sport Marketing in Asia	(Winner1&2)
	Theme6: Governance of Sports	(Winner1&2)
15:00-	MC announcement of the Price Winners for the best Posters	
	Theme1: Sport and Environment	(Winner1)
	Theme2: Women Sport in Asia	(Winner1)
	Theme3: Asian Games and Youth Sports	(Winner1)
	Theme4: Sport Science	(Winner1)
	Theme5: Sport Marketing in Asia	(Winner1)
	Theme6: Governance of Sports	(Winner1)
15:10-	OCA Sport Congress Director Hand Over OCA President	
	Congress Proceedings and Recommendations File	
15:15-15:30	Award for the OCA Sport Commission and Scientific Board members	
15:30-15:55	Press Conference by OCA President	
15:55-	End of OCA Sport Congress Activities.	

■スピーチ原稿

Key words for Sport and Environment in Asian Continent

OCA Sport Congress, March 12, 2009 Kuwait City, Kuwait

Masato Mizuno
Member of Sport and Environment Commission of the IOC
Vice President of Japanese Olympic Committee

The global warming has been eliciting all kinds climate changes in an unprecedented scale that cause very serious phenomena on the ecosystem, including human being. The 4th report of Int'l Panel on Climate Change has been awarded the Novel prize along with the film "the inconvenient truth" produced by Al Gore. There is no meaning of the Olympic Movement or Gold medals, if the entire eco-system disappears from the planet earth.

In early 1990s, IOC president Juan Antonio Samaranch declared that the Olympic movement consisted of three pillars, i.e. Sports, Culture and Environment. The Sport and Environment Commission of the IOC was formed in 1995 according to the resolution of the IOC Centennial Congress in Paris in 1994. The Commission has been working very hard to execute the awareness and implementation activities in sports world, through the Olympic Games, all kinds of mega sports events, the biannual world conferences, annual regional seminars, and through all sorts of measures carried out by National Olympic Committees (NOCs) around the world.

The IOC has created the guidelines for NOCs to follow in implementation of action plans to conserve environment. They can be summarized as follows;

IOC Identification of key issues and action plan

I.Identification of key issues and action plan

1.Prioritize the issues according to your criteria of importance

2.For each issue, consider the following questions in II

II.Strategies

1.Who is the target group of this change

2.What exactly do we want to achieve (clearly state your goals)?
Realistic and achievable goals!

3.Why is it useful or necessary to make this change? Clearly state the reasons/benefits

4.What are the barriers that may prevent us from accomplishing these goals?

5.Who may be able to assist you inside and outside of your organization?

6.Who do we need to influence/lobby to reach these goals?

7.What tools could be used to influence them (how, when and where)?

III.Action plans

1.What activities should be implemented to achieve your goals? Prioritize activities : Shorter list of activities can be more effective than longer one.

2.How do you plan to implement them (identify clear and specific tasks)?

3.Who should/will be responsible for getting these tasks done? Identify who is in charge

4.What resources are required (human and financial ones)?

5.By when do you plan to have your tasks complete? Set a reasonable timeline.

How will you evaluate the success level of reaching goals? Set specific criteria

The Sports and Environment Committee of OCA has formed and started promoting activities of awareness and implementation among the 45 NOCs in 2007, in accordance with the IOC guidelines.

First, it is essential that each NOC establish its sports and environment commission, consisting of the members of main NFs that affiliate with the NOC.

The most effective way for the NOCs to promote environment measurement is setting up co-operative relationship with NFs. NFs are responsible for governing the sport in the region, fostering and training athletes, hosting wide variety of sports events, such as national and regional championships, grass roots events, including sports clinics and so on. Accordingly, NFs coordinate with NOCs in promoting awareness and implementation activities in each sport in the region.

Based on the resolution at Torino IOC World Conference, the sports world should establish strong partnership with all the stakeholders of the Olympic Games, mega sports events and grass root sports activities, for conserving environment, and developing sustainable society. The stakeholders hereby are IOC, NOCs, IFs, NFs, OCOGs, athletes, officials, spectators, federal and local municipalities, media, sponsors, suppliers, constructors and administrators of competition and practice venues, every one else who is related to sports in any way.

Especially top-level athletes of each country are very influential ambassadors to promote the message of environment protection, through the activities such as putting up posters, banners and distributing leaflet to spectators at sport events. The message should be very simple as every sport-related person should be conscious of saving energy and resources, and of sorting wastes for recycling. Most wastes could be recycled into certain resources, even leftover food can be rich fertilizer, when mixed together with soil and proper enzymes.

To promote the significance of protecting environment, certain media, such as posters, leaflets, and banners, are very effective, being put up in the venues of competition. By turning off lights in offices and venues when not in use, a certain amount of electricity can be saved. It is also quite effective in reduction of paper usage, by not making unnecessary copies or printout, and by using both sides of paper.

And these activities should be continued long term, under strong leadership of top management of NOCs and NFs.

"Carbon offset" is a quite new concept, introduced recently in environment activities. The idea is to offset the emitted amount of carbon dioxide from each and every activity, including sport, by implement certain conservation activities, such as planting trees, saving energy and resources, etc. If there is still some difference of emitted amount left over, then the difference is supposed to be offset by certain amount of money called "credit". Sport world asserts to be offsetting CO2 emission, by promoting healthy and carbon-free lifestyle among the general public, through Olympic and sport Values, with typical examples of very influential top-level athletes advocating carbon-free, sustainable societies in each country.

It is so imperative that the entire NOCs in Asia now set to reinforce our efforts in our environmental activities and strengthen our bondage with NFs in each Asian country.

Speech text of Mr. Itabashi on Feb. 12, 2009,
OCA Congress in Kuwait

Good afternoon. Ladies and Gentlemen.

It is my great pleasure to present activity report of Japanese Olympic Committee on Sport and Environment. I would like to introduce myself. My name is Ichita Itabashi, one of the senior directors of Japanese Olympic Committee and chairman of Sport and Environment Commission of JOC as well.

As you are all aware, the global warming is causing destructive changes on climate all over the world. I don't mention all of them, however it is cruel to let athletes race marathon in heavy smog, for example. Small particles of toxic substances definitely harm athletes' lungs. Sooner or later, there will be no marathon runner in the world if we force athletes to run in such an awful environment.

One more example, what I would like to stress is that global warming destruct winter snow sports like skiing due to the lack of snow in winter. Yes, we can create substitute materials for snow, like water sprayed artificial turf for ski jump and some other ski events. But, it is impossible to cover a mountain with artificial turf for down hill, giant slalom, and slalom competition in Olympic Winter Games. The technique of ski competition for natural snow will be eventually lost forever.

I would like to stress again, it is meaningless to win gold medals, silver medals, or establishing world records, fabulous performance of gymnastics or figure skating, if mankind is exterminated on earth. We must fight against global warming. It is our most important responsibility toward all athletes including future athletes, to protect our earth from serious environmental problems.

The Sport and Environment Commission of JOC was established in 2001, the year we hosted the 4th IOC World Conference on Sport and Environment in Nagano. The theme of the conference was "Give the planet a sporting chance"

We have been striving very hard to conserve environment in sports world in Japan, establishing partnership among our stakeholders, such as athletes, officials, National Federations, sports related organizations, venue managers, sponsors, mass media, local governments and Ministry of Education and Sports, as Masato described in the morning session that it is indispensable to establish partnership among stakeholders in sports according to the resolution made at IOC World Conference in Torino 2005.

The commission consists of the representatives of influential national sports federations such as Athletics, Swimming, Football, Judo, Wrestling, Tennis, Volleyball, Gymnastics, Skating, Skiing and Ice Hockey. The commission meetings are held 5 times a year.

The commission has prioritized their objectives under the guidelines of IOC as you see on the screen. The commission simply has two main objectives. One is awareness and the other is implementation.

In order to promote these objectives, the commission sets strategic action plans with clear targets, achievable goals, and the clear explanation of plans, taking constraint off and assisting gathering members, and create useful tools for them.

Let me explain concrete activities of JOC commission

1.The JOC annual regional seminars. We have hosted them so far in 4 cities, in Osaka, Nagano, Tokyo and Hiroshima, and will host it in Fukuoka this year. Sports related people of the region get together and learn what they should do in the region.

2.The JOC annual Sport and environment Conference for stakeholders of sports, such as NFs, Sponsors and Mass Media since 2004. In this conference, the general guidelines are presented, and the efforts made by each National Sports Federation are also reported.
The result of survey to 55 NFs were reported on that occasion, and we found it quite significant that most of the federations had achieved to implement their separation of waste at their events, and more than half of the federations have formed their own commissions on Sp+Env as you see on the screen.

3.Cooperation with Japanese Ministry of Environment
JOC has excellent relationship with Ministry of Environment regarding the national movement of reducing CO2, abiding by the Kyoto protocol. JOC cooperates with the ministry, by using top athletes, to promote the awareness of importance to protect environment.

4.Obtaining the ISO 14001 certificate for JOC office
JOC office has received ISO 14001 recognition since 2003, establishing its environmental management system, saving energy and resources, reducing amount of waste paper, and purchasing environmentally friendly products.

Under the guidelines of IOC, the commission creates powerful tools to achieve its goals.

1.Action plans for awareness

A) Putting up posters
JOC has created 7 posters in the past years putting them up to disseminate the importance of protecting environments in sports.

B) Putting up banners
JOC has also produced the banners of quite large size, for putting up at the competition sites of the championships and grass roots activities as well. Ministry of Environment has assisted to make banners with some slogans, expressing particular problems of respective sports. For swimming federation, Global warming is leading toward the lack of water. When there isn't enough water to drink, how can we keep swimming?"

C) The commission publishes the annual report that contains pictures and texts of all the kinds of activities done by quite a many national sports federations, the text of lectures on Sports and Environment for those who want to make some lectures at any occasion, the history of environmental work of IOC and JOC.
Leaflets for mass publicity
The commission produces thin and small-size leaflets in over many thousands, for mass objectives like spectators of sports events, lectures and some other events. It is made very easy to read for anyone from children to grown-ups.

D) Publication of Japanese version of IOC Guide on Sport, Environment and Sustainable Development
With cooperation of each sport federation, the commission translated and published the IOC Guide on Sport, Environment and Sustainable Development in Japanese and

small explanatory booklet. It is very useful for sport related people.

E) Environment Ambassadors

The well-known top athletes have formed a group of ambassadors to disseminate influential messages of protecting environment.

2.Now let me explain about some action plans of implementation

A) First, implementation of 3Rs,that is to say, reducing, reusing and recycling of energy and materials, and the separation of wastes under the words, "categorized and separated waste material become resources" , with cooperation of all the affiliated national sports federations. This basic movement has been well accepted by the federations year-by-year and putting up posters and banners have been promoted as well.

B) Promotion of planting trees has been started gradually by several federations such as federations of baseball, cycling and others, for the absorption of CO2 and emission of Oxygen. Carbon neutral concept has also been discussed at the commission, but been concluded at present it is quite difficult to introduce the carbon offset that requires compensation for CO2 emission caused by sports activities.

Now, I would like to introduce some of the good practices conducted by Japan Football Association and Japan Swimming Federation.

Japan Football Association has been quite active for protecting environment, by putting several concrete ideas into action. Clean supporter system has been implemented, which recognizes volunteer junior spectators as clean supporter with certificate, for collecting litters and wastes at stadiums after matches. "My Cup system" is quite unique. Whoever brings their own cups for beverage can buy drinks at lower than regular price, in order to reduce wasted cups at soccer football events.

JFA has experimentally introduced so to speak "carbon offset matches" , trying to work out the overall amount of carbon dioxide emission from the matches, including the one caused by transportation for spectators, for future implementation of carbon offset.

Japan Swimming Federation also plays the role model of environmental activities, with much passion and energy. The federation has been keeping up their efforts, putting up posters and displaying banners at almost all the championships.

JSF has also introduced quite a unique project called "My Chopsticks Project" in which the members of the organizing committee ask people to carry their own washable chopsticks with them all the time, so as to reduce the usage of disposable chopsticks at meals.

Hanging down big plastic bags on the wall for separation of waste is one of the ideas the federation put into action. This year the federation is planning to hold the contest of ideas of swimmers or swimming teams to protect environment widely at competition sites.

I would like to conclude my presentation with our commitment that the JOC Sport and Environment Commission continue and strive our best to keep up our activities, together with our stakeholders for the future generations, and we more than welcome to share our know-how with all the NOCs who gathered here today.

Thank you so much for your attention.

8 関連資料

References

(1)スポーツ環境委員一覧

Member of Sport and Environment Commission

■JOCスポーツ環境専門委員会

JOC Sport and Environment Commission

平成21年3月31日現在

役職名	氏　名	出身団体(NF)	役職(NF)
委 員 長	板　橋　一　太	(財)日本オリンピック委員会	常務理事
Chairman	Ichita ITABASHI	Japanese Olympic Committee, Senior Executive Board Member	
副委員長	田　嶋　幸　三	(財)日本サッカー協会	専務理事／環境プロジェクト・リーダー
Vice-Chairman	Kozo TASHIMA	Japan Football Association	
〃	佐　野　和　夫	(財)日本水泳連盟	副会長・専務理事／スポーツ環境委員長
	Kazuo SANO	Japan Swimming Federation	
委　　員	朝　倉　正　昭	(財)日本体操協会	理事／環境委員長
Member	Masaaki ASAKURA	Japan Gymnastic Association	
〃	伊　藤　　晃	(財)日本バレーボール協会	執行役員／業務推進事業本部　副本部長
	Akira ITO	Japan Volleyball Association	
〃	荻　原　健　司	(財)日本スキー連盟	
	Kenji OGIWARA	Ski Association of Japan	
〃	鎌　賀　秀　夫	(財)日本レスリング協会	評議員／スポーツ環境委員長
	Hideo KAMAGA	Japan Wrestling Federation	
〃	土　田　　忠	(財)日本アイスホッケー連盟	スポーツ環境委員長
	Tadashi TSUCHIDA	Japan Ice Hockey Federation	
〃	橋　爪　　功	(財)日本テニス協会	環境委員長
	Isao HASHIZUME	Japan Tennis Association	
〃	平　松　純　子	(財)日本スケート連盟	フィギュア委員
	Junko HIRAMATSU	Japan Skating Federation	
〃	別　所　恭　一	学識経験者(佐川急便株式会社　理事)	
	Kyoichi BESSHO	JOC Environment Partner	
〃	松　岡　修　造	(財)日本テニス協会	理事待遇／環境委員
	Shuzo MATSUOKA	Japan Tennis Association	
〃	山　口　　香	(財)全日本柔道連盟	国際副委員長
	Kaori YAMAGUCHI	All Japan Judo Federation	
〃	山　本　征　悦	(財)日本陸上競技連盟	総務委員／事務局長
	Seietsu YAMAMOTO	Japan Association of Athletics Federations	
アドバイザー	水　野　正　人	IOCスポーツと環境委員会委員／(財)日本オリンピック委員会副会長	
Adviser	Masato MIZUNO	IOC Sport and Environment Commission, Member	

■IOCスポーツと環境委員会
IOC Sport and Environment Commission

Chairperson	Pál SCHMITT	
Members	Roland BAAR	George KAZANTZOPOULOS
	Michel BARNIER	Masato MIZUNO
	Andrès BOTERO PHILLIPSBOURNE	Mamadou Diagna NDIAYE
	Tore BREVIK	Sunil SABHARWAL
	Enrico CARBONE	Shamil TARPISCHEV
	Yaping DENG	Efraim ZINGER
	Joseph FENDT	VANOC Representative
	Zoumaro GNOFAME	LOCOG Representative
	Johnson JASSON	SOCHI Representative
	Hamad KALKABA MALBOUM	
Director in charge	Director of International Cooperation and Development	

■OCAスポーツと環境委員会
OCA Sport and Environment Committee

Chairperson	Yu Kyung-Sun	
Members	Mohamed Mahid Shareef	Arie Pratignjo Ariotedjo
	Akram Mustapha Zaher	Rashed H. Al Heraiwel
	Murat Saralinov	Meas Sarin
	Ferras Moualla	Hithanadura Udayasena Silva
	U Khin Maung Lwin	

(2) IOCスポーツと環境委員会小史

Brief history of the IOC Sport and Environment Commission

1972年	札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林
1976年	デンバーオリンピック冬季大会開催返上（経済・環境問題）
	1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた
	1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた（スポーツ・文化・環境）
1992年	バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加NOC署名
1994年	第12回オリンピック・コングレス（IOC創立100周年）でスポーツと環境分科会開催・パリ
1995年	IOCにスポーツと環境委員会設置　委員長 パル・シュミット
	第1回IOCスポーツと環境世界会議開催・ローザンヌ
1996年	委員に就任　岡野俊一郎（1996-2001)、水野正人（1996-現在)
1997年	第2回IOCスポーツと環境世界会議開催・クウェート
1999年	第3回IOCスポーツと環境世界会議開催・リオデジャネイロ
	オリンピックムーブメントアジェンダ21採択
2001年	第4回IOCスポーツと環境世界会議開催・長野市
	"GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE"
2002年	極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境・地域セミナー・北京
2003年	第5回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ
	"PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT"
2004年	IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ハバナ
2005年	極東及び東アジア、第2回IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ドバイ
	第6回IOCスポーツと環境世界会議開催・ナイロビ
	"SPORT, PEACE AND ENVIRONMENT"
2006年	IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・クワラルンプール
	IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・キングストン
2007年	第7回IOCスポーツと環境世界会議開催・北京
	"FROM PLAN TO ACTION"
2008年	IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー開催・インチョン
	IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・コロンビア
2009年	第8回IOCスポーツと環境世界会議・バンクーバー
	"INNOVATION AND INSPIRATION: HARNESSING THE POWER OF SPORT FOR CHANGE"
	第1回IOCスポーツと環境賞制定
2011年	第9回IOCスポーツと環境世界会議・ロンドン（予定）
2013年	第10回IOCスポーツと環境世界会議・ソチ（予定）

(3) JOCスポーツ環境委員会小史

Brief history of the JOC sport and Environment Commission

平成13年度(2001年)	JOCスポーツ環境委員会設置　委員長　水野正人 委員　石川徹男、櫻井孝次、佐野和夫、瀬尾洋、早田卓次、平松純子、松岡修造、森健兒 第4回IOCスポーツと環境世界会議主催・長野市 “GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE”(この星にスポーツを！)
平成14年度(2002年)	ファーストポスター、パンフレット作成 極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境・地域セミナー・北京　参加
平成15年度(2003年)	セカンドポスター作成 平成14年度スポーツ環境委員会調査研究報告書作成 7月にISO14001認証登録、IOC加盟202NOCの中で初めて 第5回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ 佐野和夫スポーツ環境委員からJOCの活動を報告 “PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT”
平成16年度(2004年)	サードポスター作成 平成15年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第1回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター (本会関係者、加盟団体、パートナー)
平成17年度(2005年)	ジョイントポスター・パンフレット(第2版)作成 平成16年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 環境省の「チーム・マイナス6%」のメンバーとなる 第1回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・大阪市 第2回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 第6回IOCスポーツと環境世界会議・ナイロビ 佐野スポーツ環境専門委員会副委員長からJOCの活動を報告
平成18年度(2006年)	イラストポスター・横(5th)作成 平成17年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 ISO14001認証を更新登録 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・クワラルンプール 遠藤スポーツ環境専門委員からJOCの活動を報告 第2回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・長野市 第3回スポーツと環境担当者会議開催・国立オリンピック記念青少年総合センター
平成19年度(2007年)	イラストポスター・縦(6th)作成 平成18年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第3回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・東京都 第4回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 第7回IOCスポーツと環境世界会議・北京 佐野スポーツ環境専門委員会副委員長からJOCの活動を報告 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・インチョン 鎌賀スポーツ環境専門委員・JOC及びNFの活動を報告
平成20年度(2008年)	ポスター(7th)作成 平成19年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 IOCスポーツと環境競技別ガイドブック翻訳本作成・同マニュアル・CD-ROM 第4回JOCスポーツと環境・地域セミナー・広島市 第5回スポーツと環境担当者会議・ナショナルトレーニングセンター 第1回OCAコングレス・クウェート 板橋一太スポーツ環境専門委員長からJOCの活動を報告 第8回IOCスポーツと環境世界会議・バンクーバー 板橋一太スポーツ環境専門委員長出席
平成21年度(2009年)	ポスター(8th)作成 平成20年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第5回JOCスポーツと環境・地域セミナー・福岡市(予定) 第6回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター(予定)

(4)オリンピックムーブメンツ アジェンダ21(要約)

Olympic Movement's Agenda 21

1.一般原則

1.1 持続可能な開発

1992年にリオデジャネイロで開催された「環境と開発に関する国連会議」(UNCED)、別名「地球サミット」で持続可能な開発を目指す「リオ宣言」が182ヵ国の創意で採択された。

1.2 UNCED アジェンダ21

各国政府がそれぞれの国家戦略、計画、規制、活動を策定する際の青写真としての役割を果たすだけでなく、非政府組織にもこのアジェンダ21に基づいた独自のアジェンダ21を作成するよう求めている。

2.オリンピックムーブメントにおけるアジェンダ21の目標

傘下のメンバー全員(IOC、IF、NOC、OCOGなど)およびスポーツをする全ての人を対象に持続可能な開発を方針に取り入れられる分野を提案し、また、各個人の行動方法についても指摘している。

3.持続可能な開発に向けてのオリンピックムーブメントの行動計画

3.1 社会経済条件の改善

全ての個人が文化的・物質的ニーズを満たされなければならない。

3.1.1 オリンピズムの価値および持続可能な開発のための行動

持続可能な開発のための国際協力事業を強化し、社会排除と戦う一助となり、新たな消費者習慣を奨励し、健康保護奨励に積極的な役目を果たし、スポーツインフラを振興するに当たり、開発と環境の概念をスポーツの方針に取り入れていく。

3.1.2 持続可能な開発に向けての国際協力の強化

環境と開発がもたらす難題は世界的なパートナーシップを確立しなければ克服できない。特に国連環境計画(UNEP)との協調が大切である。地域レベルではIOCとNOCとが持続可能な開発に向けて共同歩調をとるべきである。また、スポーツ用品業界では使用する材料や工程を介して持続可能な管理に努め、その活動が環境に及ぼす影響を最小限にとどめるべきである。

3.1.3 排除の撲滅

スポーツへの参加を通じて社会的不利な立場にある個人・集団を支援する。

3.1.4 消費者習慣の変化

無公害あるいはリサイクル材料を利用し、原料とエネルギーが節約できるよう製造されたスポーツ用品の使用を奨励する。同時にスポーツ用品・建造物には地域特有の従来型材料を使用するよう働きかける。

3.1.5 健康の保護

ドーピング対策はもとより、栄養、衛生、感染症・伝染病防止、弱者グループの保護、都市住民の健康面を大きく取り上げる。

3.1.6 人の居住環境および定住

スポーツ施設は土地利用計画に従って、自然・人口を問わず、地域の状況に調和して融け込むように建設・改築されるべきである。事前の環境影響調査が条件となっているのが望ましい。また、

スポーツイベントで主催者は以前よりも条件的な改善を目指し、地域住民をより多く関与させることも大切である。

3.1.7「持続可能な開発」概念のスポーツ方針への取り込み

各競技運営団体は持続可能な開発の概念をスポーツ界、スポーツ活動およびスポーツイベント企画の方針・規則や管理制度に取り入れる。

3.2 持続可能な開発のための資源の保全および管理

オリンピックムーブメントは、スポーツと文化に加えて環境をオリンピズムの第三の柱としている。その環境保全活動は社会経済条件の改善に必要な天然資源と自然環境の保全と管理に切り替えられている。

3.2.1 オリンピックムーブメントに関する環境行動の方法

オリンピックムーブメントによる行動はすべて環境に充分配慮しつつ持続可能な開発の精神に則り、環境教育を推奨し、環境保全の一助となる活動をしなければならない。

3.2.2 環境保全区域および田園地帯の保護

スポーツ活動、施設、イベントは環境保全区域、田園地帯、文化遺産と天然資源全体を保護しなければならない。また、これらに関するインフラが環境に与える影響を最小限にとどめるよう配慮しなければならない。

3.2.3 スポーツ施設

既存のスポーツ施設をできる限り最大限に活用し、良好な状態に保ち、安全性を高めて環境への影響を減らす。また、新規施設の建造の前提としては、既存施設では修理しても使用できない場合に限る。

3.2.4 スポーツ用品

環境に配慮したスポーツ用品の製造だけでなく、商品の輸送・流通のためのエネルギー消費を最小限にとどめ、出来るだけ現地の製品を利用することを奨励する。また、品質保証および環境管理に関するISOの認証を取得すべきである。

3.2.5 輸送

再生不可能なエネルギーの消費などを削減するために無公害の生産手段と公共輸送手段の利用促進を目的とした計画を進める。

3.2.6 エネルギー

- 過剰なエネルギー消費を抑える。
- 再生可能なエネルギー源の利用とエネルギーの節約を推奨する新技術、用具、施設、慣行の利用を推進する。
- 再生可能で無公害のエネルギー源を入手することを推奨する。

3.2.7 主要スポーツイベントでの宿泊設備および食事サービス

- アジェンダ21の3.1.6節に従った構造を推奨する。
- 衛生条件を厳守する。
- 地元住民の発展と環境保護に充分配慮して作られた商品・食料を利用する。
- 使用済み製品を最大限に再利用することで廃棄物を最小限に抑える。
- 再利用できない廃棄物を処理する。

3.2.8 水の管理

- 貯水保護および天然水の品質保全を意図した世界的・地域的な活動を奨励し、支援する。
- 地下水または地下水を汚染する危険を持つ慣行はすべて避ける。

- スポーツ活動から生じた排水が必ず処理されるようにする。
- 単にスポーツ活動でのニーズを満たすために特定の地域での全般的な水の供給を脅かさない。

3.2.9 有害な製品、廃棄物、公害の管理

- 人類にとって有害もしくは有毒である、または環境汚染を引き起こすと認められている製品の使用は避ける。
- そのような製品を使用しなければならない慣行、製造、農業手法を奨励しない。
- 排出・処理される廃棄物の量を最小限にし、廃棄物管理再利用の地域プログラムを推進する。
- 新規のスポーツ施設の設立、既存施設の改善、新規インフラの構築および主要イベントの企画を利用して、有害なもしくは有毒な製品、汚染物質または廃棄物によって汚染されている敷地を改善する。
- あらゆる形態の公害、特に騒音公害を最小限に抑える。公害を低減するために過去のオリンピック競技大会で用いられた慣行・手法の成功例をもとに事を進める。

3.2.10 生物圏の質および生物多様性の維持

オリンピックムーブメントは以下の慣行を非難し、反対する。

- 大気、土壌または水を汚染する。
- 生物多様性を危険にさらす、または動植物の種を絶滅の危機に陥れる。
- 森林伐採の原因をつくる、または国土保全に害を及ぼす。

3.3 主要グループの役割強化

持続可能な開発の成功にはオリンピックムーブメントを構成する全てのグループがこの取組みを積極的に支援するのと同時に、これらグループに敬意が払われることが不可欠である。

3.3.1 女性の役割の向上

- 女性のスポーツ振興に邁進する。
- 従来女性のものだと考えてきた競技種目を他のものと同様に扱う。
- 特に教育の中枢ともなる地域スポーツセンターの構築を通じて女性の教育を推進する。
- 女性がスポーツに参加しやすくなるよう託児所などの社会的な手段を講じる手助けをする。
- 男女のスポーツの実施を公平にマスコミが取り上げ、経済面でも公平に扱うようにする。
- 競技運営団体において女性が責任ある地位に就けるよう奨励する。
- 関連国際団体と共同で活動にあたる。

3.3.2 若者の役割の推進

- 全ての若い競技者が教育を受けられ、労働生活へと溶け込めることを奨励する。
- 競技団体内で若者が自分たちに関係のある決定を下す際に関与できるようにする。
- オリンピックムーブメントが手配した活動で若者が示す動員力を活用する。
- 若者が特に犠牲となる可能性の高い人権侵害を非難し、対抗する。
- 子どもの人権に関する国連条約（決議44/25）の承認を宣言し施行する。
- 専門の国際団体と共同で活動する。

3.3.3 原住民族の認知および推進

- 原住民の伝統的なスポーツを振興する。
- 特に原住民発祥の地において、環境管理問題では先住民の昔からの知識とノウハウを使うようにし、適切な行動を取る。
- これらの原住民がスポーツに参加できるよう推奨する。

オリンピックムーブメントのメンバーによるアジェンダ21の誓い

1999年10月に開催された第3回スポーツと環境に関する世界会議の出席者はアジェンダ21の実施に向けての一連の行動を定める「リオ宣言」を発表した。

スポーツと持続可能な開発に関するリオ宣言

1. アジェンダ21は、オリンピックムーブメントが持続可能な開発に効果的に役立つ分野において全般的な行動を示すための道具である。
2. オリンピックムーブメントの全てのメンバーやスポーツ参加者、スポーツ関連企業は出来る限り現行のアジェンダ21の勧告に従うべきである。
3. オリンピックムーブメントの全てのメンバーは持続可能な開発を各々の方針や活動に取り入れ、また関連する個人も自らのスポーツ活動やライフスタイルが持続可能な開発に役立つような行動をすべきである。
4. アジェンダ21の実施に当たっては様々な社会・経済・地理・気候・文化・宗教などの事情を尊重しなければならない。
5. 意識向上のため、環境保全についての教育・研修に重点がおかれるべきである。
6. 競技者は環境教育・研修を進める上での貢献が期待され、マスコミもそれを支援していかなければならない。
7. アジェンダ21は同様の目標を掲げている他の全ての政府・非政府組織および国内外組織との緊密な協調を経て実施されるべきである。
8. アジェンダ21の推進・改訂についての責任はIOCにある。オリンピックムーブメントの全てのメンバーや他の関連団体は、その任務を行うスポーツ環境委員会を適切に支援するべきである。
9. IOCスポーツ委員会と国連環境計画は共同の作業委員会を設立し、方針について助言・指導するとともにアジェンダ21の実施を監視するべきである。
10. 共同の作業委員会はアジェンダ21の進捗状況をオリンピックムーブメントのメンバーが出席する会議や今後開催されるスポーツと環境に関する世界会議に提出するべきである。

編集後記

平成20年度の活動報告書の発行にあたり、皆様の啓発・実践活動へのご協力、ご尽力に感謝申しあげます。

年々、競技団体からの報告の数も増え、活動にも競技の特性による工夫が行われるなど内容も豊かになってきました。活動報告書の初刊本である平成14年度版では口絵が40ページ、本文が47ページであったわけですから、大変に活動の充実が図られてきたことが窺われます。しかし、一方で、依然として特別の活動報告をいただけない団体や、あるいは環境問題に取り組む体制が整備されていない団体もあり、今後の取組みの進展を期待したいと思います。

気候変動は私たちの日常生活にも影響を及ぼすようになっています。スポーツを楽しみ、競技を行う上でも支障を来たす場合が生じています。私たちはCO2の削減にスポーツ界を挙げて取り組み、チーム・マイナス6%の国民活動に協力し、身近なところから環境保全と啓発・実践活動を推進しています。わずかなことでも一人ひとりがこの問題に取り組むことが大きな成果につながります。

本文中に紹介しましたように、IOC発行の「スポーツと環境・競技別ガイドブック」(IOCによるスポーツと環境の関係についての概説ならびに各競技の特性に応じた環境活動を詳しく記述)を昨年翻訳し刊行しました。是非参照の上、活動にお役立て下さい。併せてポスターの広告原稿データも用意しましたのでご活用下さい。

今後とも次代を担う子供たちが、健やかに楽しくスポーツを行うことが出来るよう、環境の保全、啓発・実践活動へのご尽力をお願いいたします。

報告書編集担当

平成20年度　スポーツ環境委員会　活動報告書

発行日：平成21年6月23日
編集・発行：財団法人日本オリンピック委員会　スポーツ環境専門委員会
(事務局・阿部幹雄、山本佳代子)
〒150-8050 渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内
URL：http://joc.or.jp/eco/
印刷：広研印刷株式会社
写真提供：アフロスポーツ
フォート・キシモト　他

問合せ先　財団法人　日本オリンピック委員会　事業・広報部
TEL：03-3481-2313　FAX：03-3481-0977 ／ 2292